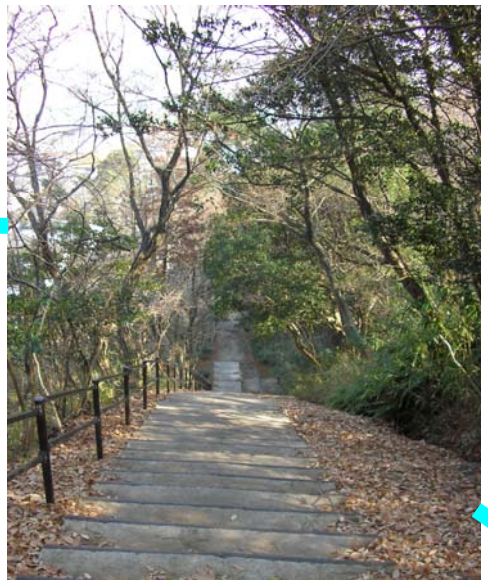
# 福岡都市圏歴史散策マップ記

内山　敏典

曲淵ダム
（曲淵水源地）



（福岡市城南区梅林１丁目の梅林緑道：水道路）

（単位：km）

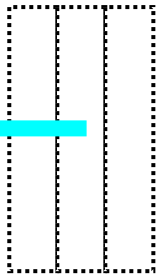
| 旧浄水場から曲淵水源地までの水道道 | 乗用車の地点間距離数 | 累積距離数 |
|---|---|---|
| 植物園（旧浄水場） | 0.0 | 0.0 |
| 小笹信号 | 0.9 | 0.9 |
| 小笹2丁目信号（個々から右へ（ながとみ：着物）） | 0.6 | 1.5 |
| 長尾2丁目にある信号 | 0.5 | 2.0 |
| あかし写真館 | 0.5 | 2.5 |
| 城南プール南にある信号 | 0.5 | 3.0 |
| 南片江信号と片江営業所との中間 | 0.7 | 3.7 |
| 寿楽園フレンドホーム | 0.3 | 4.0 |
| 西片江1丁目25（学生下宿街：右へ） | 0.5 | 4.5 |
| 西片江2丁目15（学生下宿街：右へ） | 0.3 | 4.8 |
| ほかほか亭（大野城・二丈線）：福大記念会堂前）：**本来は梅林緑道** | 0.3 | 5.1 |
| 地名の水道道入口（福岡花屋前信号） | 0.5 | 5.6 |
| 地名の水道道出口（早良妙見西口方面で263号線へ） | 1.4 | 7.0 |
| 263号線の牧のうどん前の信号 | 0.5 | 7.5 |
| 早良営業所 | 0.8 | 8.3 |
| 入部出張所前の信号 | 0.8 | 9.1 |
| 早良平尾信号（左折） | 0.9 | 10.0 |
| 一ツ家（福岡市水道局：東入部8丁目）：入部・中原線：Uターン | 0.4 | 10.4 |
| 内野大橋（263号線） | 1.5 | 11.9 |
| 曲淵水源地前（トンネル付近） | 3.1 | 15.0 |

**いつも通る散歩道、ほとんどかわらぬ風景、しかしそこにある歴史を知れば、いつも通る散歩道や風景も新しい別世界のように感じてくる。**

**散歩道これは小さな空間の路地裏のようでもある。路地裏に入り込むと、その空間は狭くて、すぐ路地裏を通り過ぎるのはわかっていても、どこへ通じているのか、旧くて何か意味ありげな空間で、胸踊り夢膨らむ路地裏は昔からの人の生活の場である。路地裏は歴史があるからこそそのように感じるのであろう。**

**いつも通る散歩道も歴史を知れば、新鮮で未来につづく散歩道となるであろう。**

（福岡市中央区小笹４丁目付近：水道路）



旧浄水場
（現福岡市植物園）

資料：福岡市水道局『福岡市水道五十年史』1975 年 6 月．65 頁．　曲淵ダム→一ツ家→平尾浄水場（曲淵系統の図より）

# は　じ　め　に

これまで筆者は、『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』(2003 年)および『続　早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』(2005 年）を上梓してきました。前者は福岡市の旧西区（城南区、早良区および西区）で早良地域の史跡名勝等（「3 つの旧街道」、「わが国の経済発展の基礎となった明治農業について」、「寺院、神社、古墳、人物、城址および炭鉱等」および「逍遥マップ」）を取り上げています。後者は早良地域において「鉄道が果たした役割」および「旧街道とその周辺付近の城址について」を取り上げています。これらの 2 冊ともタイトルにあるように史跡名称のマップと山城や旧街道等について万歩計による歩数を掲載しています。そして、早良の歴史の体系付けをおこなっています。関心のある方は福岡市総合図書館、福岡県立図書館、九州産業大学図書館等の各大学の図書館、九州産業大学経済学部の内山敏典のホームページに掲載していますのでご覧下さい。

上記 2 冊が「早良」という地域の歴史であったのに対し、本書は九州産業大学がある香椎地区周辺とその関連地域、わが国の政治・経済に大きな役割を果たした福岡 3 私塾（興志塾、正木塾および折衷塾）とそれらの塾との関連塾との関係、香椎地区の歴史に関連する那珂川町等の歴史と山城との関連性について記述することです。

現在の香椎地区は福岡市東区に位置していますが、往時は糟屋郡に属していました。この地区は 1957（昭和 32）～58（昭和 33）年の松本清張の処女長編推理小説『点と線』に記載されている香椎海岸（香椎潟）は現在の西鉄香椎駅前であり、神功皇后遠征の往時には浜男神社（香椎宮の末社）付近まで海辺であったといわれています。現在は福岡市の副都心としての機能を増し、幾度となる埋め立てがなされ最近は旧市街地の再開発および大型商業施設の進出による商業施設の集積が進み、またアイランドシティ（人工島）の出現による港湾の整備と住環境整備がなされ、福岡市における都市開発の規制が緩和され香椎地区は高層マンションが林立しています。われわれはこのように副都心化がいっそう進んだ今こそ香椎地区の歴史を知り、地域の発展にこの歴史を活かしていかねばならないものと思われます。

太古の時代、中世および現在を含めて、福岡市は国際都市であるとともに教育・文化についても全国のなかでも有数である。すなわち、2007 年度の『学校基本調査』のデータを利用して主要都市の学生数を人口で割り千人を乗じるという人口 1,000 人当たりの学生数は 1 位の京都市（94.8 人）と 2 位の東京（23 区）（55.4 人）についで福岡市（54.2 人）が 3 位となっていることからもその一端を見ることができます。ところで、とくに江戸時代から昭和初期にかけて現在の福岡市から多くの偉人が輩出されています。本書では明治時代の学校教育以外でおこなわれた福岡 3 私塾（興志塾、正木塾および折衷塾）が果たした役割を知る上においてそれらの関係を明らかにします。その関係からわが国の教育･文化・政治・経済・環境・外交のあり方の方向性を検討する材料となることを願うためです。

福岡の歴史は、大陸との距離的位置から太古の昔を通じて形成されてきましたが、とくに中世以降からの歴史遺産が多く見られ、またその時代からの末裔のさまざまな活動がみられ

ます。そのことからとくに中世の城址について検討することにおいて将来への展望をおこなえることを願いたいと思います。

本書は上記のようなことを散策によって考えていくために、第Ⅰ部香椎散策マップ記、第Ⅱ部福岡3私塾とその散策マップ記および那珂川町とその周辺散策マップ記の３部構成となっています。また、本書はタイトルに記しているように、それぞれの史跡名勝とともにマップを示しています。また、山城へのルートにはマップに歩数と時間を示しています。それは読書の方々がそこに出向くことによって歴史を知り、それをベースに将来を考えていけることを願うためのものです。

# 目　　　　次

はじめに
第Ⅰ部　香椎散策マップ記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（１）鎧坂・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（２）冑塚と鍼塚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（３）旧西鉄香椎駅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（４）濱男神社と御島・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（５）香椎宮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
（６）竹内屋敷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
（７）不老水・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
（８）報恩寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
（９）御飯ノ山城址・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
（10）三日月山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
（11）立花山城址・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
（12）獨鈷寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
（13）六所神社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
（14）梅岳寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
（15）名島城址・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（16）帆柱石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
（17）名島火力発電所跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
（18）名島水上飛行場跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（19）岩見重太郎生誕地の碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（20）名島城三之丸跡の碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
（21）多々良浜古戦場跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
（22）兜柄の碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
（23）陣の腰跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
（24）雁の巣飛行場（福岡第一飛行場）跡・・・・・・・・・・・・・ 45
（25）球磨号遭難者慰霊碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
（26）西戸崎炭鉱跡と慰霊碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
（27）金印発光碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
（28）蒙古塚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

第Ⅱ部　福岡３私塾とその散策マップ記・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
福岡３私塾関係図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
（１）折衷塾とその関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

（２）興志塾とその関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
（３）不狭舎（正木塾）とその関連・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

第Ⅲ部　那珂川町とその周辺散策マップ記・・・・・・・・・・・・・・・ 80
（１）那珂川町散策マップ記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
（２）太宰府山城等散策マップ記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
（３）早良区山城等散策マップ記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
著者紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

# 第Ⅰ部　香椎散策マップ記

九州産業大学については、ホームページをご覧いただくとして、正門の門標の「九州産業大学」は八尋壑泉（やひろ　がくせん）の揮毫（きごう）によるものである。壑泉の揮毫は本学の門標以外にも他の教育機関の門標、金龍寺（福岡市中央区）の貝原益軒墓碑、能古島（福岡市西区）の岬にある万葉歌碑などと、多くの「書」の作品がある。文部科学省 21 世紀プログラムで「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」（2004 年 4 月～2009 年 3 月まで）による研究がなされてきた九州産業大学“柿右衛門様式窯”（人間国宝酒井田柿右衛門教授）がある。

香椎周辺地域は唐ノ原古墳（和白潟に面した古墳で、弥生後期から古墳後期にかけての一大集落跡）、香住ケ丘古墳（4 世紀代の円墳で三角縁神獣鏡が出土）、不動ケ浦遺跡（香椎宮周辺にあり、須恵器をともなう製鉄遺構）および舞松原古墳（香椎ケ丘緑地保全地にあって、4 世紀末の帆立貝式古墳）など多くの古墳がみられるが、何といっても香椎の名が付いた仲哀天皇と、神功皇后に関連する史跡が多く存在している。つぎに、多い史跡は鎌倉時代の元寇に関連する遺跡や、その後の足利尊氏が室町幕府初代将軍となる契機となった多々良浜合戦に関する史跡がある。そのつぎに、戦国時代に関する立花鑑連や小早川隆景に関連する史跡が多くある。それから、明治以降は産業史跡である名島火力発電所跡、名島水上飛行場跡、雁ノ巣水上飛行場跡および西戸崎炭鉱跡等がある。

第Ⅰ部の香椎散策マップ記では、上述の古墳を除く、史跡名勝についての記述を行い。その後それらの史跡名勝のマップと現在の写真を掲載している。また、産業史跡については当時の写真があるものはその出典を掲載しているので図書館等でご覧いただきたい。

ところで福岡市には中小の炭鉱があり、終戦後の炭鉱としては早良炭鉱（姪浜町）があり、その他には月隈（下月隈）、府内筑紫（東平尾）、福豊炭鉱（田島）、蒲田炭鉱（多々良村）および本香椎炭鉱（多々良村）があった。香椎町内においても 1949-50（昭和 24-5）年頃から 2、3 の小炭鉱が石炭採掘に着手しているが、1951（昭和 26）年秋頃から鎧坂など一部に発生していた井戸水の渇水異変が、1952（昭和 27）年秋から拡大し鎧坂、浜男商店街南側、西鉄住宅、兜塚、女子大前住宅、鉄道住宅、香椎荘および埋立地一帯が被害に見舞われを中心に 5、6 百戸が深刻な渇水異変に見舞われ、3,000 余名の町民が飲料水すらない状態に見舞われたとのことであった。町当局や被害者代表で結成された公害対策委員会は渇水の原因と見られる中野鉱業と交渉をおこなってきたとことであった。この交渉に福岡通産局が参加しその斡旋で鉱業所は簡易水道を敷設することになったとのことである。現在、炭鉱は存在していないが、香椎駅東 1 丁目や香椎 2 丁目等の付近であろう。

（香椎町における炭鉱について）

香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場,1953 年 2 月.11 頁.290～291 頁.

福岡市役所『福岡市史 第七巻 昭和編後編（三）』福岡市役所,1974 年 5 月.282～283 頁.

## （1）鎧坂（よろいざか）

浜男から現在の香椎小学校前バス停付近、香椎駅前 3 丁目 19 付近、495 号線を経由して唐原に至るまでの坂を鎧坂といい、神功皇后[じんぐうこうごう：記紀（古事記と日本書紀）伝承上の 3 世紀後半、仲哀天皇（ちゅうあいてんのう）の皇后、気長宿禰王（おきながのすくねおう）の娘。名は気長足姫（おきながのたらしひめ)。熊襲（くまそ：大和朝廷に反抗した種族）征討に向かった天皇とともに筑紫（つくし）に行き神がかりし、新羅（しらぎ）征討を勧めたが天皇はこれを無視して崩ず。皇后は自ら神主となり神語を得、応神天皇（おうじんてんのう）を宿しながら西征の軍を率いて新羅（しらぎ）を討ち、さらに高麗（こま）および百済（くだら）も従えて三韓をたてたという伝承の人である。]が片男佐からの帰途、はじめて鎧を着けたという坂で、昔、この坂で落馬すると命を落とすといわれ、馬から降りてこの坂を越えたといわれている。

（仲哀天皇について）

仲哀天皇は記紀系譜では 14 代の天皇で、叔父の成務天皇の死後に即位、気長足姫を皇后に立てた。熊襲を征討するため穴門国の豊浦宮（現在の山口県下関市豊浦）に移り、筑紫の諸豪族を服属させて橿日宮（かしひのみや）すなわち現在の福岡市東区香椎に滞在。この時、皇后が神がかりして新羅征討を住吉神の託宣を告げたが天皇はこれを無視したため神罰をうけて崩御されたと伝えられている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月．1124 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月．807 頁.

（鎧坂について）

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 428 頁.
青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993 年 6 月, 121 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.380 頁.
奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 806 頁.
糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完)』糟屋郡役所, 1924 年 3 月．　704～705 頁.
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 64 頁.

（神功皇后について）

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月．922 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月．653 頁.

## （２）冑塚（かぶとづか）と馘塚（きりみづか）

神功皇后が西征の時、鎧兜をこの地で着けたといわれているところである。享保年間（1716年頃）に塚内から兜形の年輪がある松化石のような石を掘り出したが、博多の医師が墓石として持ち帰ったところ祟りが多くあったので、元に戻して塚を築き、石物を据えたといわれている。

また、冑塚から約100m右方崖上、現在の香椎駅東2-15-15付近に馘塚（または耳塚）がある。この塚は神功皇后が凱旋後、新羅の人々を供養したといわれているものである。


貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001年6月. 428頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993年6月, 121頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977年12月.379頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985年12月. 806頁.

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924年3月.　704～705頁.

香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953年2月. 64～65頁.

河島悦子『大里から博多へ　そして唐津へ　唐津街道』海援社, 1999年12月. 63～65頁.


## （３）旧西鉄香椎駅

香椎商店街目抜き通りの中央に鉄道高架の鉄道が通っているが、これが現在の西鉄貝塚線の西鉄香椎駅である。西鉄貝塚線の西鉄香椎駅は1924年に博多湾鉄道汽船の「新香椎駅」として開業し1942年に現在名に変わった。貝塚線は1942年に西鉄の経営になると宮地岳線として運行されてきたが、2007年3月31日に西鉄新宮駅から津屋崎駅間は廃止され、西鉄貝塚駅から西鉄新宮駅までの運行と縮小された。博多湾鉄道汽船株式会社時代は主力の石炭輸送とは別に、福岡市街から宗像･粕谷方面の宅地開発に向けての旅客を対象にした路線の建設計画がなされてきたが、西鉄になりそれらと併せて貝塚の競輪場への旅客輸送も関係していた。ただJRやモータリゼーションの発達、道路網の整備、経済環境の変容等の影響もあり上述のように縮小された。旧西鉄香椎駅は1957（昭和32）～58（昭和33）年の松本清張の処女長編推理小説『点と線』に記載されている香椎海岸（香椎潟）の傍にあった。旧西鉄駅前には香椎の駅だけでなく街を知る桜の老木がある。その桜の木は新しく生まれ変わった香椎駅前に移植されている。


奈良崎博保『福岡・北九州市内電車が走った街今昔西鉄の路面電車定点対比』JTB,2002年

4 月.74～75 頁.
http://www.k3.dion.ne.jp/～chihaya/nisitetudensya.html
（初期の博多湾鉄道汽船株式会社の鉄道写真について）
西日本新聞社「写真集福岡 100 年」観光事務局『写真集　福岡 100 年』西日本新聞社,1985 年 11 月.401 頁.

## （4）濱男（はまお）神社と御島（みしま）

香椎宮の末社で神功皇后が西征のとき、海上を司った神といわれている。神社は香椎潟海浜がすぐ横に接していたとのことであったが、大正年間に現在地に移されたとのことである。往時、皇后は毎日御島神社へ渡りお参りしていたとのことであるが、悪天候のときは濱男神社にお参りしていたとのことである。

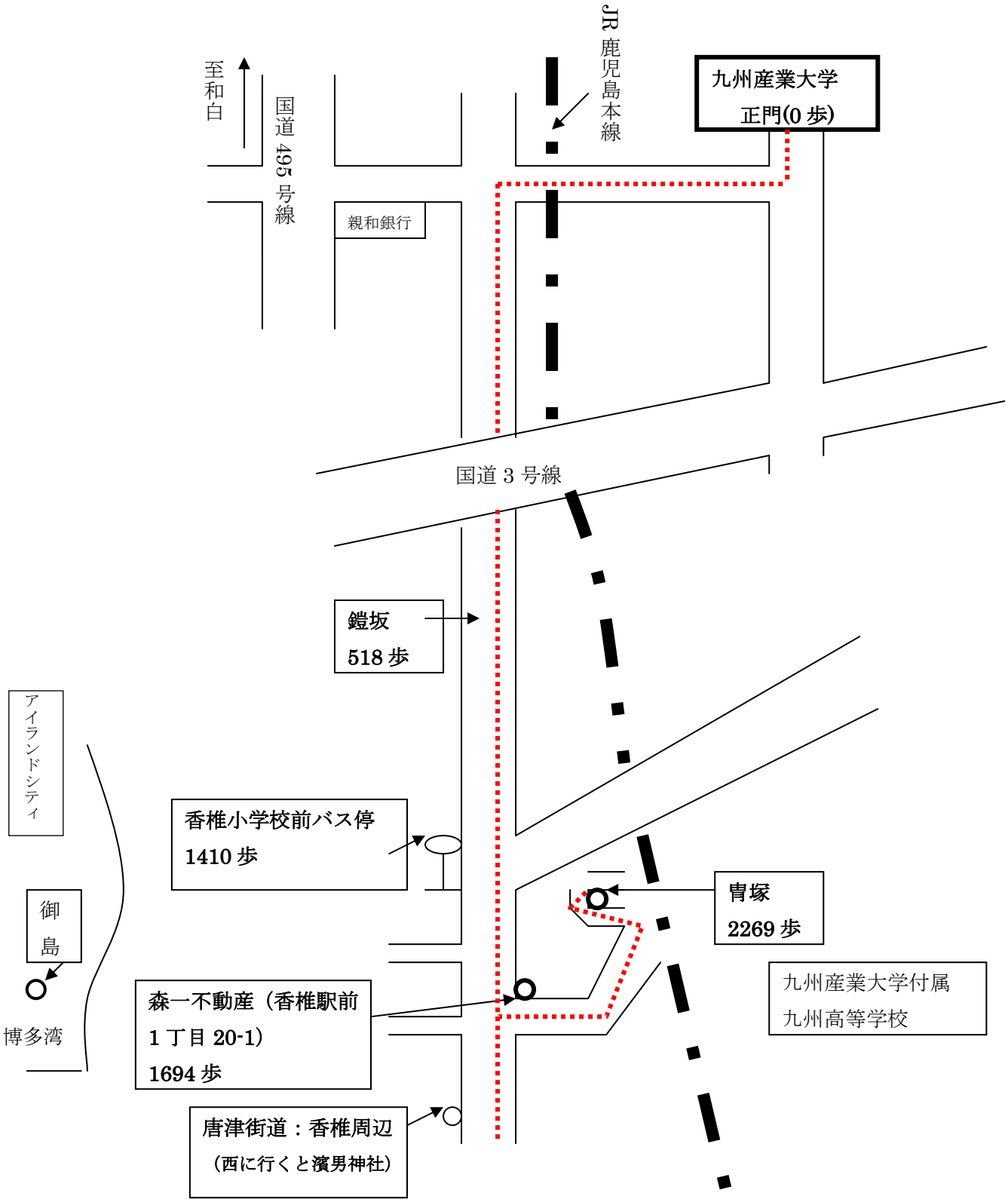
貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 426 頁.
奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 805 頁.
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 50 頁.
河島悦子『大里から博多へ　そして唐津へ　唐津街道』海援社, 1999 年 12 月. 63～65 頁.

| 地　名　等 | 住　　所 | 累積歩数 | 歩　数 |
|---|---|---|---|
| 九州産業大学正門前 | 松香台 2 丁目 3-1 | 0 | 0 |
| 鎧坂 | 香椎駅前 3 丁目 19 付近 | 518 | 518 |
| 香椎小学校前バス停 | | 1410 | 892 |
| 森一不動産(唐津街道分岐) | 香椎駅前 1 丁目 20-1 | 1694 | 284 |
| 濱男神社 | 香椎駅前 1 丁目 3-17 付近 | 2671 | 977 |
| 香椎宮休息所 | 香椎 4 丁目 13 付近 | 4553 | 1882 |
| 香椎宮本殿 | 香椎 4 丁目 16 付近 | 4803 | 250 |
| 香椎台西池 | 香椎台 5-25 付近 | 5403 | 600 |
| 香椎東小学校バス停 | 香椎台 5-1 付近 | 5602 | 199 |
| おいの山公園 | 香椎台 5-10 付近 | 5918 | 316 |

| 地　名　等 | 住　　所 | 累積歩数 | 歩　数 |
|---|---|---|---|
| 森一不動産(唐津街道分岐) | 香椎駅前 1 丁目 20－1 | 0 | 0 |
| 冑塚 | 香椎駅前 1 丁目 26－6 付近 | 575 | 575 |
| | | | |
| 香椎宮本殿 | 香椎 4 丁目 16 付近 | 0 | 0 |
| 報恩寺 | 香椎 3 丁目11－8 | 370 | 370 |
| | | | |
| 香椎宮本殿 | 香椎 4 丁目 16 付近 | 0 | 0 |
| 武内屋敷 | 香椎 3 丁目８－４１ | 561 | 561 |
| 不老水 | 香椎 3 丁目８－27 付近 | 661 | 100 |

鎧坂（よろいざか）（福岡市東区香椎駅前 3 丁目 19 付近）

冑塚（かぶとづか）（福岡市東区香椎駅前 1 丁目 26－6 付近）



九州産業大学正門前

鎧坂

胄塚説明版

胄塚

唐津街道：太閤道

旧西鉄香椎駅と桜の木（松本清張の『点と線』の舞台）

旧西鉄香椎駅前
（現在でもいくつかの釣具屋が見られ、この地域が海岸のそばであったことが伺える風景）

現在の西鉄香椎駅と桜の木
（旧西鉄香椎駅前で見られた釣具屋がなくなるとともに再開発で街が変容している。）

唐津街道：太閤道沿いの濱男神社

御島
（往時、皇后は毎日御島神社へ渡りお参りしていたとのことであるが、悪天候のときは濱男神社にお参りしていたとのことである。）

# 馘塚(きりみづか)(あるいは耳塚(みみづか))（福岡市東区香椎駅東 2－15－15 付近）

線路沿いから見た馘塚

馘塚あるいは耳塚

香椎駅東 2-15-15

馘塚

鹿児島本線

海の中道線（香椎線）

九州産業大学付属
九州高校

香椎工業高等学校

香椎駅東二丁目

香椎駅線路沿いの
有料路

JR 香椎駅

町内住居
表示板

香椎駅東一丁目

自転車置場

陸橋（九州高校、香椎高校および香椎工業高校方面へ）

公園

## （５）香椎宮

香椎宮は、記紀によれば、熊襲征伐のために九州に赴いた仲哀天皇と神功皇后が行宮（あんぐう）すなわち仮宮（かりみや）を置いたところで、仲哀天皇が熊襲よりも新羅を討てとの神託を受けたにもかかわらずそれを信じなかったために急死した場所であった。香椎宮は天皇陵と同様の扱いを受けているし、宇佐神宮に準じて天皇の勅使が派遣される勅祭社（ちょくさいしゃ）でもある。現在の祭神（さいじん）は本殿に仲哀天皇と神功皇后を祀り、相殿（そうでん）に応神天皇と住吉大神を祀ってある。境内にはご神木の「綾杉（あやすぎ）」があるが、これは神功皇后が期間の際、三種の宝を埋めて鎧の袖の杉枝を差したものが大木となったとするものである。本殿から東の方に「古宮」があるが、これは仲哀天皇の祠（ほこら）があったところで天皇が崩御の折、天皇の棺を掛けた館掛椎があり、椎木に棺を掛けたとき、異香が漂ったので「香椎」という地名が付いたという伝承がある。


柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社,1995 年 2 月．14～21 頁.

福岡地方史研究会編『エリア別全域ガイド　福岡市歴史散策』海鳥社,2005 年 12 月．72～73 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 416～426 頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993 年 6 月, 103～117 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.373～379 頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月．801～806 頁.

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月．　578～585 頁.

香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 21～47 頁.


## （６）武内屋敷

武内宿禰（たけのうちのすくね）は、伝説において、360 歳までの長寿を誇る人物であり、延命長寿の神様であり、厄除けの神様でもある。武内宿禰は景行、成務、仲哀、応神および仁徳天皇に 244 年間に渡って仕えたとされる人物でもある。後述の不老水の隣に武内屋敷がある。

武内宿禰に関する伝承として、応神天皇のころ筑紫を守護していた武内宿禰を、その弟である甘味内宿禰（うましうちのすくね）が「兄が天下を取ろうとする野心をもっている」と天皇に密告した。天皇はこれを信じて武内宿禰への刺客を派遣した。武内宿禰の家臣で主人に似ている壱岐真根子（いきまねこ）は主人の身代わりとして死んだとされている。その後、

武内宿禰は都にのぼり、身の潔白を明かすことができたとのことである。福岡市西区にある壱岐神社はこの壱岐真根子が祭られている。

また、武内宿禰に関する伝承として、現在の那珂川町に裂田の溝（さくたのうなで）という水路があるが、これは『日本書紀』によれば「安徳台」まで水路を掘っていたとき、大きな岩が立ちふさがって掘り進めなくなってしまったので、神功皇后が武内宿禰に命じて神に祈りをさせたところ、雷電霹靂（らいでんへきれき）が生じて岩を砕いたので、首尾良く水を通すことが出来たと伝えられている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 441～442 頁.
奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.325 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.200～201 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月.10 頁.
堀淳一『地図で歩く古代から現代まで』JTB,2002 年 1 月.58～66 頁.
川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.56～58 頁.

## （７）不老水（御飯水）

武内屋敷に隣接する不老水は、御飯ノ山　または老ノ山（笈の山）の湧き出ているもので、武内宿禰は仲哀天皇や神宮皇后にこの水で炊飯して献上した。また、不老水は、自らもこれを用いて 300 歳の長寿を遂げたとの伝承を持つ水である。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 426 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　中巻』文献出版,1993 年 6 月.373～374 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.373～374 頁.
奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 805 頁.

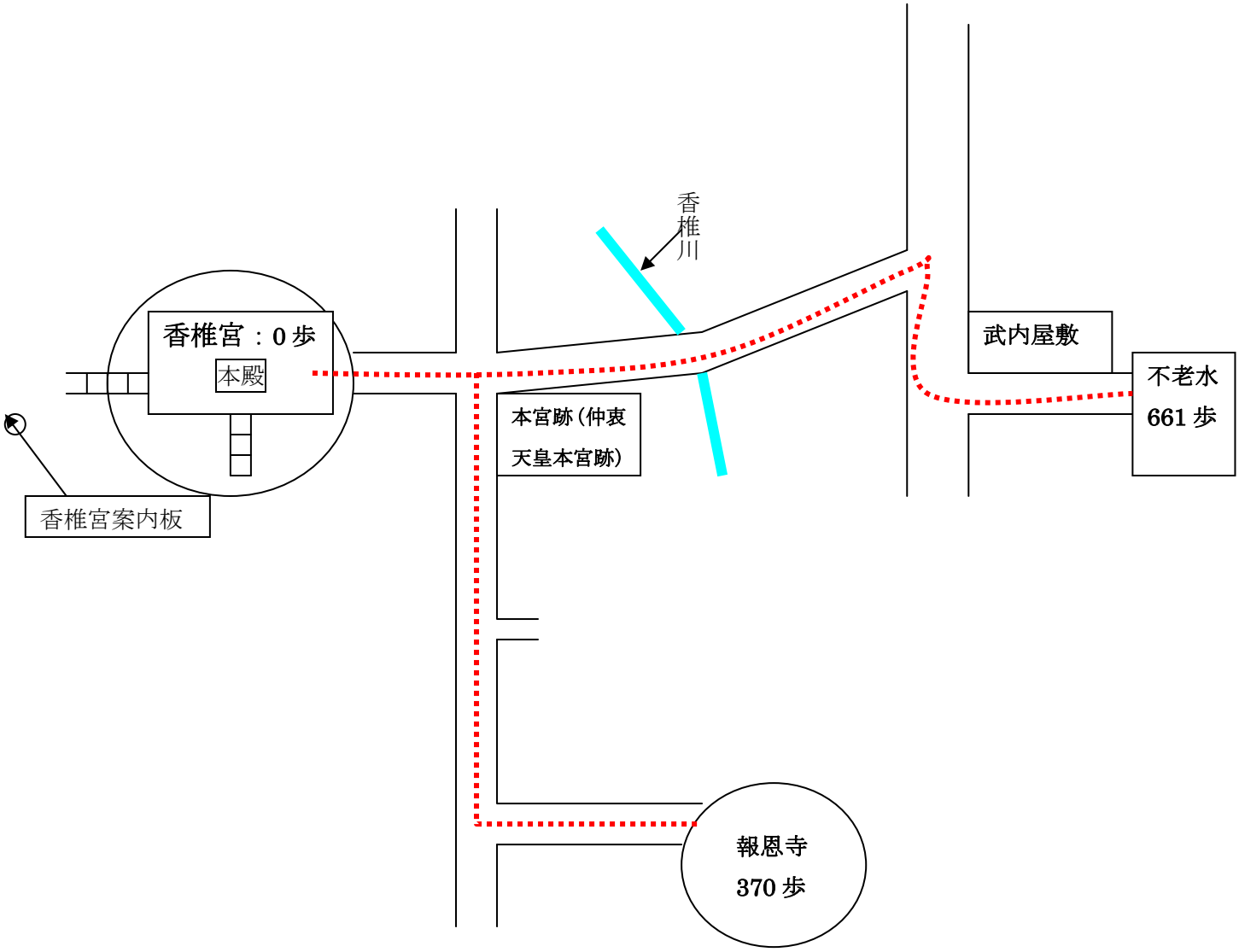
## （８）報恩寺（ほうおんじ）

1191（建久 2）年に 2 度目の入宋から帰国した栄西は臨済宗を広めるが、翌年の建久 3 年に香椎に建久報恩寺を建立した。これは日本最古の禅宗寺院である。その後、博多の聖福寺（しょうふくじ）等を開いて禅宗を広め、京に上った。この栄西は明庵栄西（みょうあん　よ

うさい：1141（永治元）年～1215（建保 3）年）ともいい、臨済宗を広めるとともに茶を持ち帰り東脊振村の霊仙寺（りょうせんじ）に宋から持ち帰った茶の種を蒔いている。また、栄西との関係で、現在の福岡市早良区脇山の脇山中央公園内に栄西禅師の茶碑が主基斎田（すきさいでん：昭和天皇即位の大礼の際にあたり大嘗祭の悠紀殿および主紀殿に神穀を献上する他の選定で東から滋賀県（悠紀田）および西から福岡県（主基田）がそれぞれ選ばれた。）の碑とともにある。

（報恩寺について）
貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 426 頁.
奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 805 頁.
福岡市教育委員会『香椎 B 遺跡―図版編―』(621 集) 福岡市教育委員会,7 頁.
（主基斎田について）
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．103～115 頁.
幡掛正木監修／伊東壽編纂『福岡縣神社廳誌』福岡縣神社廳,1955 年 5 月.67～69 頁.
（栄西について）
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月.25～26 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1693～1694 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂,1999 年 10 月．1225 頁.

香椎宮（福岡市東区 4－16 付近）
武内屋敷（福岡市東区香椎 3－8－41）
不老水（福岡市東区香椎 3－8－27 付近）
報恩寺（福岡市東区香椎 3－17－8）



香椎宮内の案内板

香椎宮本殿

香椎宮本殿東の出口

古宮跡

武内屋敷

不老水説明版

不老水

報恩寺

報恩寺

## （９）御飯ノ山城址（おいのやまじょうし）

御飯ノ山城址は香椎宮の東約 1km で、現在の福岡市東区香椎台 5－10 のおいの山公園がそれにあたる。不老水の水脈はこの御飯ノ山周辺からのものであるといわれている。開発前の御飯ノ山頂上の本丸跡は東西 80m、南北 30mの長方形平地であった。この城は『福岡県史資料』によれば、立花山城の端城（たんじょう:本城に対して枝葉のように配置された城）で、大友氏の家臣一万田弾正[いちまんだ　だんじょう：一万田氏の祖は大友氏初代能直の六男時影で史料上では大友時影として出てくる。また、南北朝前期の 1334（建武元）年～1336（建武 3 年）に一万田氏は足利尊氏に従っている。その後、一万田氏は乱世を生き抜いたとのことである。]の城とのことである。

ところで、1586（天正 14）年 7 月、島津の軍勢が立花城を攻めたとき、香椎宮、前大宮司大膳紀氏永の子、氏続は14歳で御飯ノ山城に立て籠もって島津軍を防いだといわれている。

また、御飯ノ山城址の開発前の写真等は『香椎 B 遺跡―香椎住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』に掲載されている。写真は 1949（平成 24）年、1960（昭和 35）年、1969（昭和 44）年、1976（昭和 51）年、1993（平成 5）年、1995（平成 7）年および 1998（平成 10 年）の航空写真である。それに加えて、報告書には御飯ノ山の伐採後と伐採後の虎口（城の出入り口）と主郭（主要な曲輪（くるわ）：本城のこと）の航空写真も掲載されている。

（御飯ノ山城址関連について）

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 611～612 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999 年 7 月. 249～250 頁.

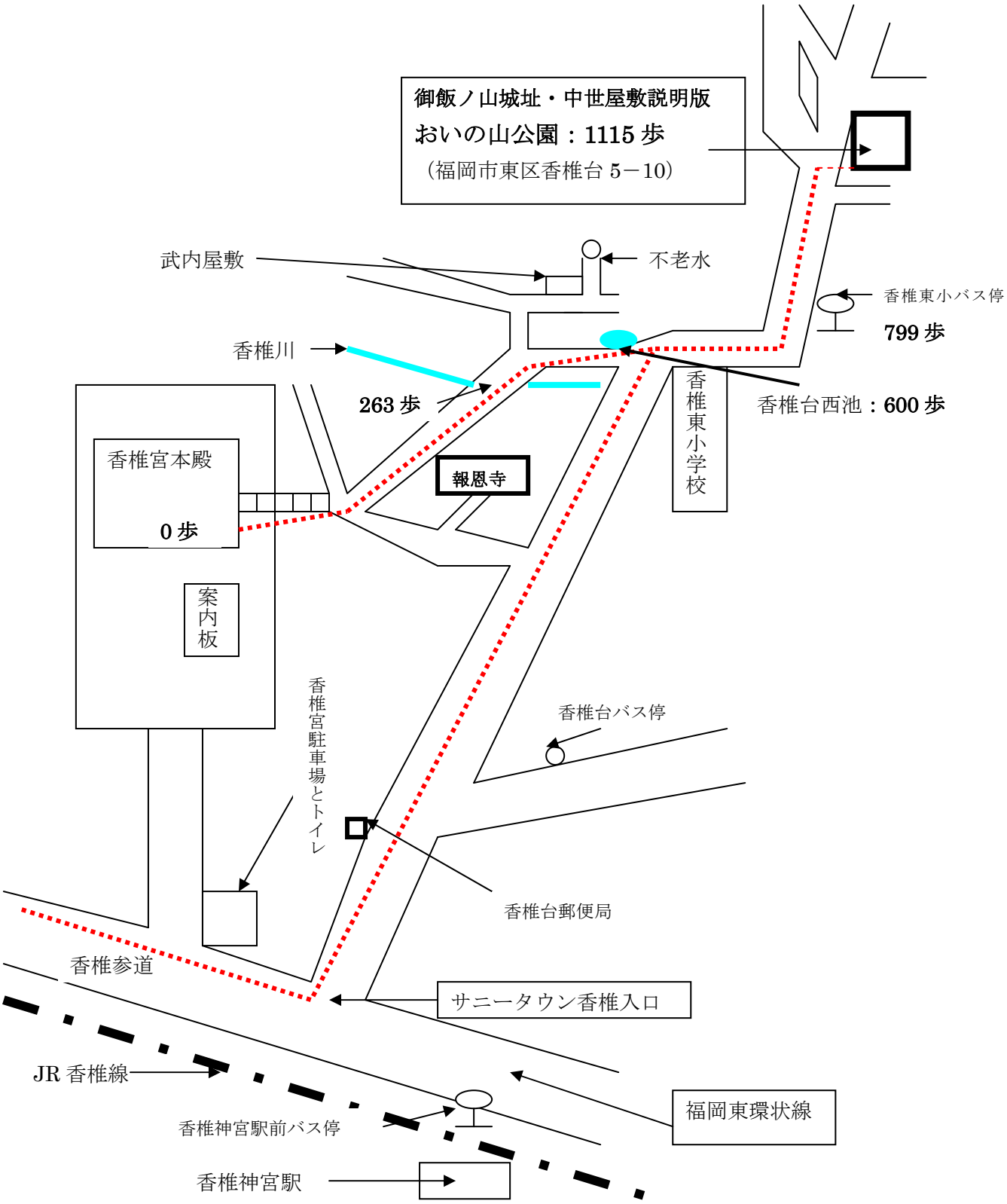
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 63～64 頁.

福岡市教育委員会『香椎 B 遺跡―香椎住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』（第 621 集）福岡市教育委員会,2000 年 3 月.247～315 頁・

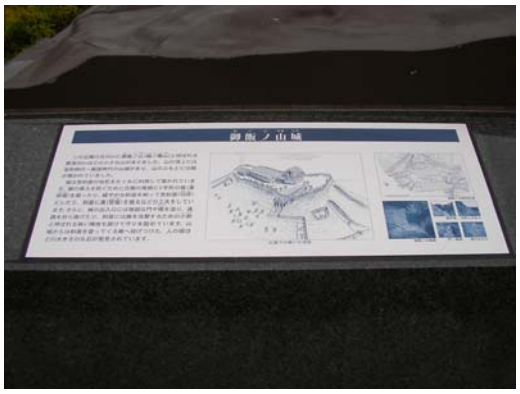
（城の用語について）

木原武雄『風雲　肥前戦国武将史　―戦国武将伝と山城散歩―』佐賀新聞社, 1995 年 1 月. 394～408 頁.

御飯ノ山城址（福岡市東区香椎台 5－10）
報恩寺（福岡市東区香椎 3 丁目 17－8）



御飯ノ山城址（現在、公園）




御飯ノ山城址説明板

香椎の歴史説明版

香椎東小付近から御飯ノ山城址遠望

（10）三日月山

天智（てんぢ）天皇[676（推古 34）年～671（天智 10）年、蘇我氏を倒し、幸徳天皇即位と同時に皇太子となった。唐来襲に備え防人・烽（さきもり・とびひ）を設置し防備を固めた。668（称制 7）年即位している。]時代において、三日月山には防人の陣屋（じんや:軍勢が駐屯して宿営している所）があったといわれ、朝鮮式古城の跡がある。また、立花城の時代には平陣屋があったとのことである。

（天智天皇について）

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月．1169 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月．837～838 頁.

（城の用語について）

木原武雄『風雲　肥前戦国武将史　―戦国武将伝と山城散歩―』佐賀新聞社, 1995 年 1 月. 394～408 頁.

（11）立花山城址

大友貞宗は、足利尊氏の家臣であり、建武政権（けんむ　せいけん：南北朝時代、南朝の後醍醐天皇の時の年号 1334 年 1 月 29 日～1336 年 2 月 29 日）から博多息浜を恩賞として与えられたが、室町幕府からいったんこの地を取り上げられる。しかし、1429（永享元）年には大友氏の支配が復活した。その後、貿易の利権が得られる息浜支配をめぐって、周防の大内氏と大友氏との立花山城の争奪戦が繰り広げられてきた。

立花山城は 14 世紀初頭、大友貞載（おおとも　さだとし：？～1336（延元元）年：立花氏の祖で大友貞宗の次男）が築城し、姓を立花氏と改めた。1567（永禄 10）年以来、大友氏の有力な臣であった秋月氏や高橋氏が大友氏に叛いたのに続いて、立花氏 7 代の鑑載（あきとし）も、大友宗麟に叛いて毛利元就[もうり　もとなり：1497（明応 6）年～1571（元亀 2）年]に通じてしまった。これまで筑前は岩屋・宝満城主の高橋鑑種（あきたね）と立花鑑載に任せていた宗麟はこの離反に対して、戸次丹後守鑑連（べっき　たんごのかみあきつら）でのちの立花道雪（どうせつ）、臼杵越中守鑑速（あきすみ）および吉弘左近大夫鑑理（あきまさ）などが 1568（永禄 11）年に数万の大軍を派遣し立花山城を攻めている。その結果、立花鑑載は激戦の末自刃したとのことであった。高橋鑑種は降伏し、小倉城に移封（いほう：国替え）となっている。

その後、臼杵などの大友方の部将（一部隊の大将）が立花城を守ったが、1569（永禄 12）年毛利元就方の小早川・吉川軍に攻められ開城している。

1570（元亀元）年、大友宗麟は戸次、臼杵および吉弘らとともに再び反撃し、立花山城を奪い返すとともに、戸次丹後守鑑連に立花氏を継がせた。戸次丹後守鑑連は立花道雪となり

立花山城主となっている。

立花道雪は岩屋城主の高橋紹運（じょううん）の嫡男統虎（むねとら）を養子に迎えている。統虎はのちの立花左近将監宗茂（さこんしょうげん　むねしげ）である。統虎は 1587（天正 15）年豊臣秀吉の命によって柳川藩主となった。筑前の国には小早川隆景が入国して名島城を築き、立花山城は浦兵部宗勝を城代としている。1601（慶長 6）年、黒田長政が豊前中津より筑前国に移封になって福岡城を築いた。これにともなって、立花山城は廃城となっている。

（立花鑑連関連について）

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月．1076 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月．769 頁.

吉永正春『九州戦国の武将たち』海鳥社, 2000 年 11 月. 95～105 頁.

吉永正春『筑前戦国史』葦書房, 1997 年 6 月. 78～100 頁.

（立花山城について）

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 612～623 頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993 年 6 月, 517 頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 809～812 頁.

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月．　705～716 頁.

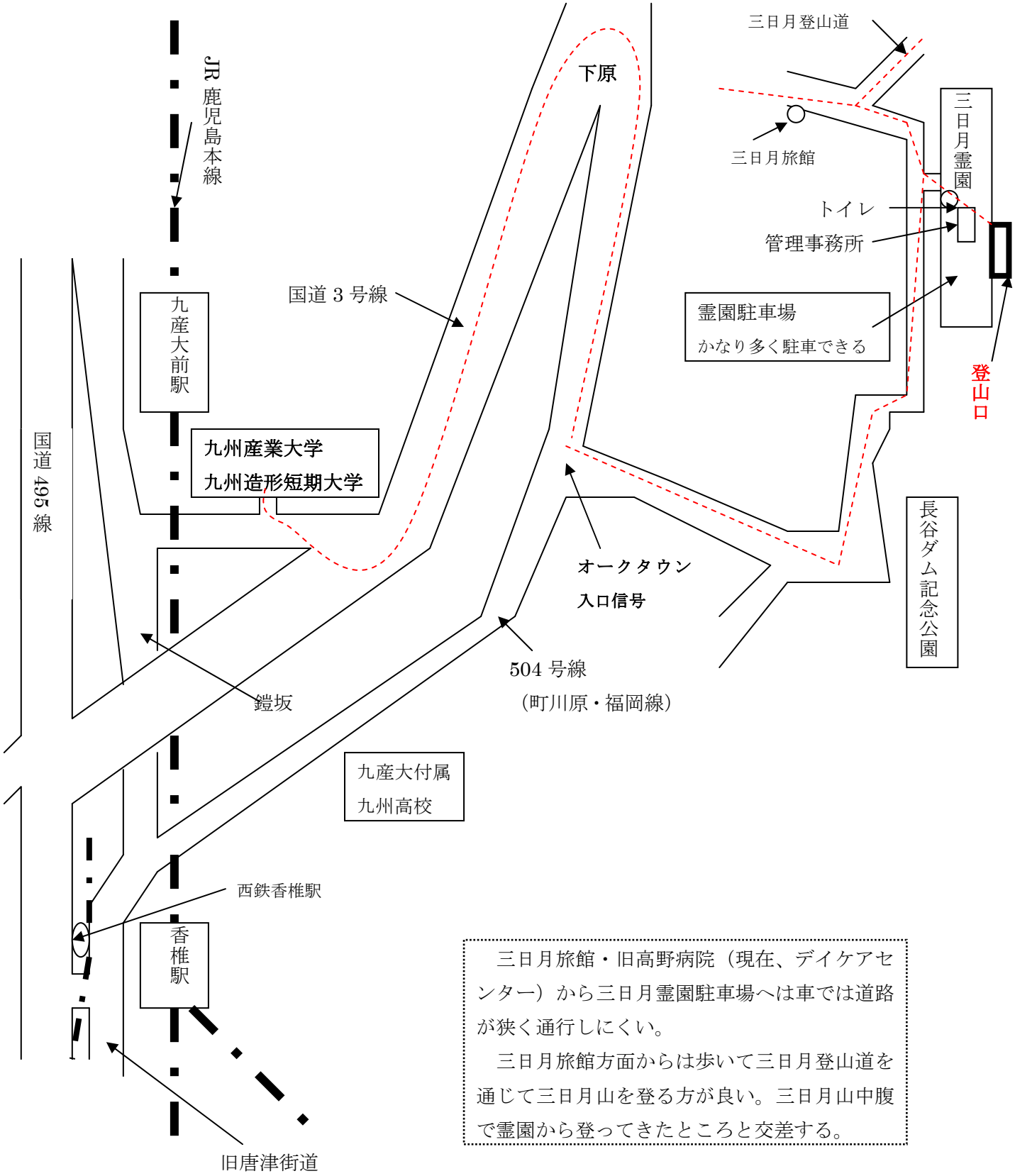
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 67～72 頁.

福岡市教育委員会『香椎 B 遺跡―香椎住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』（第 621 集）福岡市教育委員会,2000 年 3 月.7 頁・

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999 年 7 月. 250～253 頁.

福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 76～77 頁.

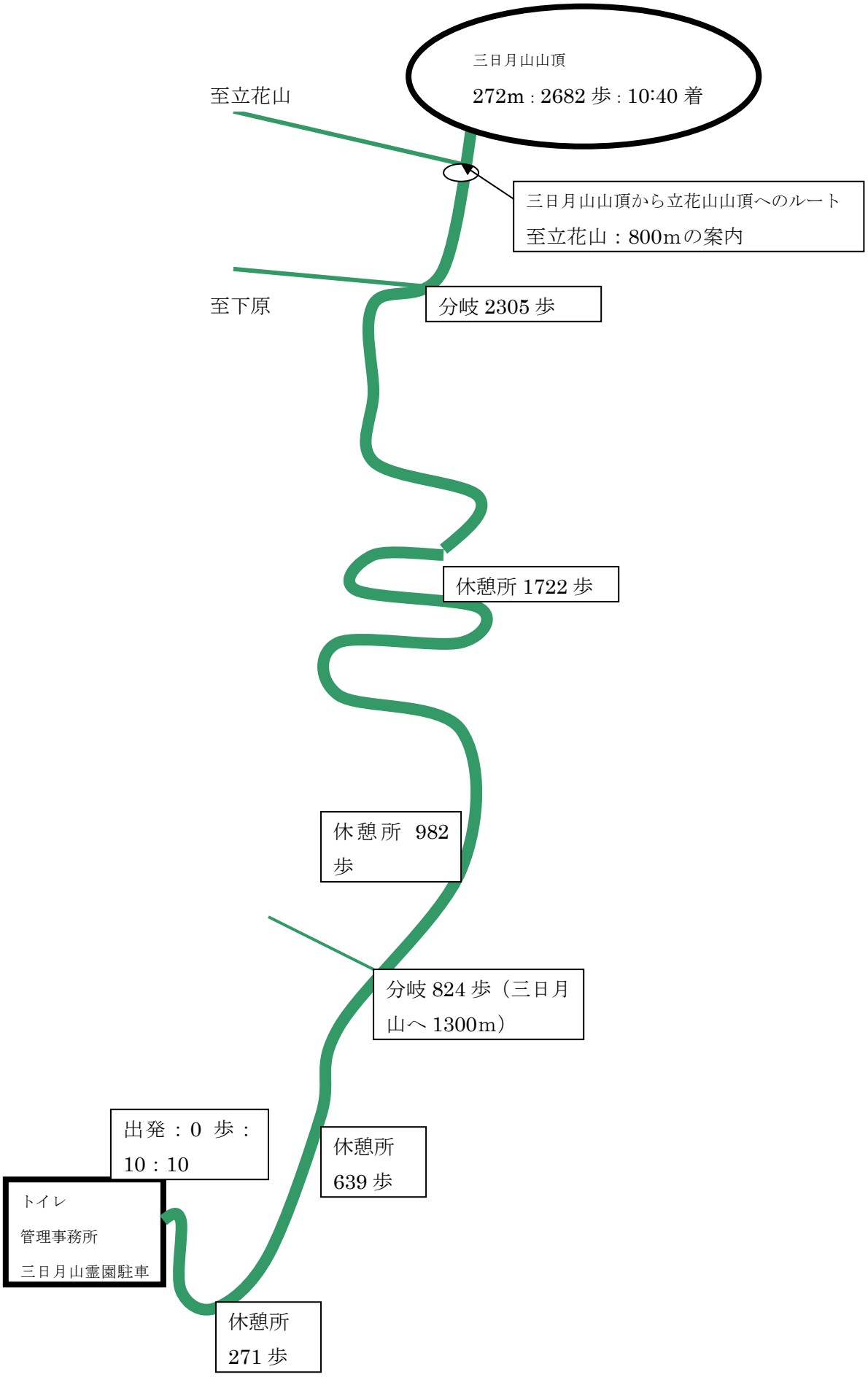
# 三日月山および立花山登山口(福岡市東区香椎)



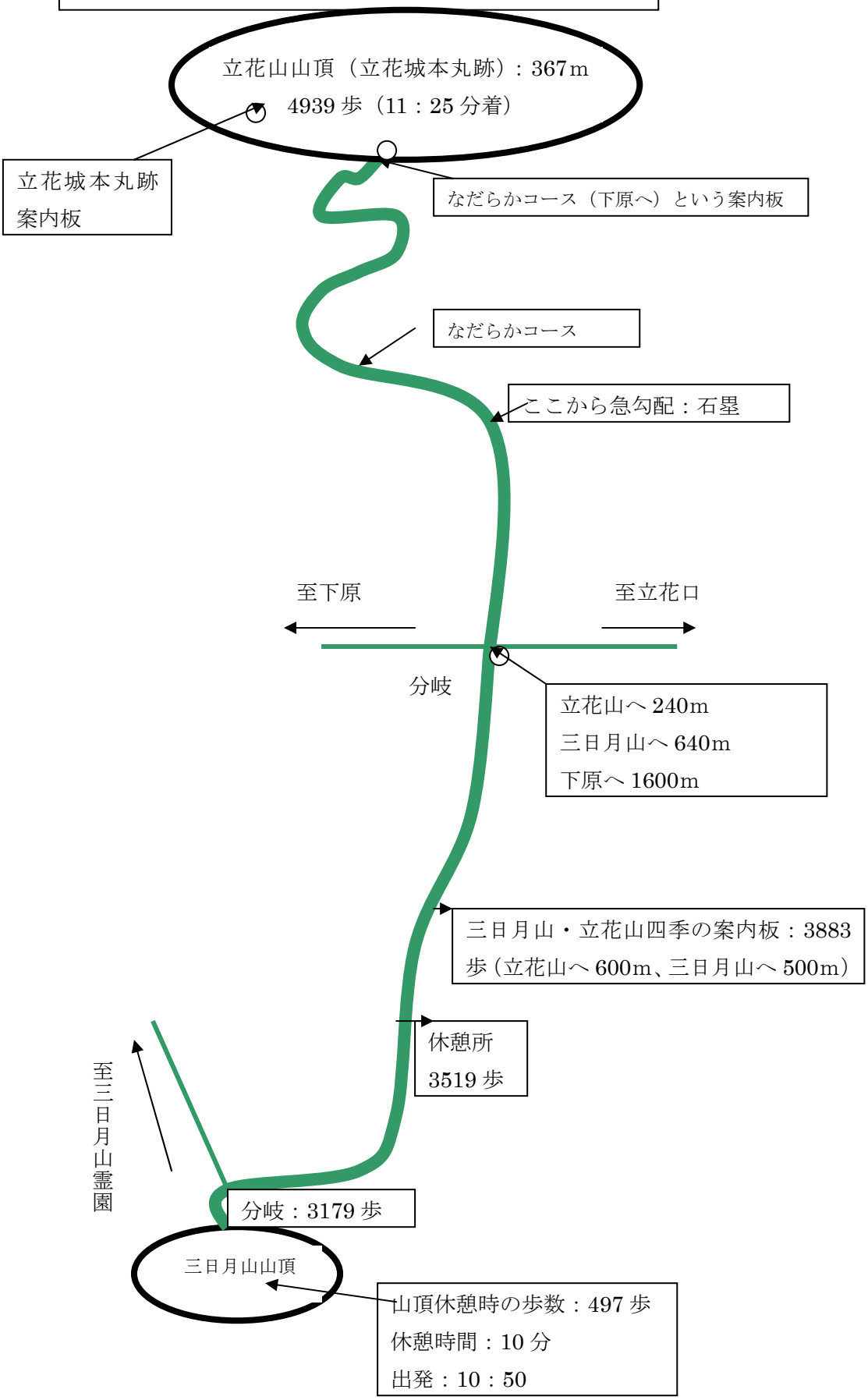

三日月旅館・旧高野病院（現在、デイケアセンター）から三日月霊園駐車場へは車では道路が狭く通行しにくい。

三日月旅館方面からは歩いて三日月登山道を通じて三日月山を登る方が良い。三日月山中腹で霊園から登ってきたところと交差する。

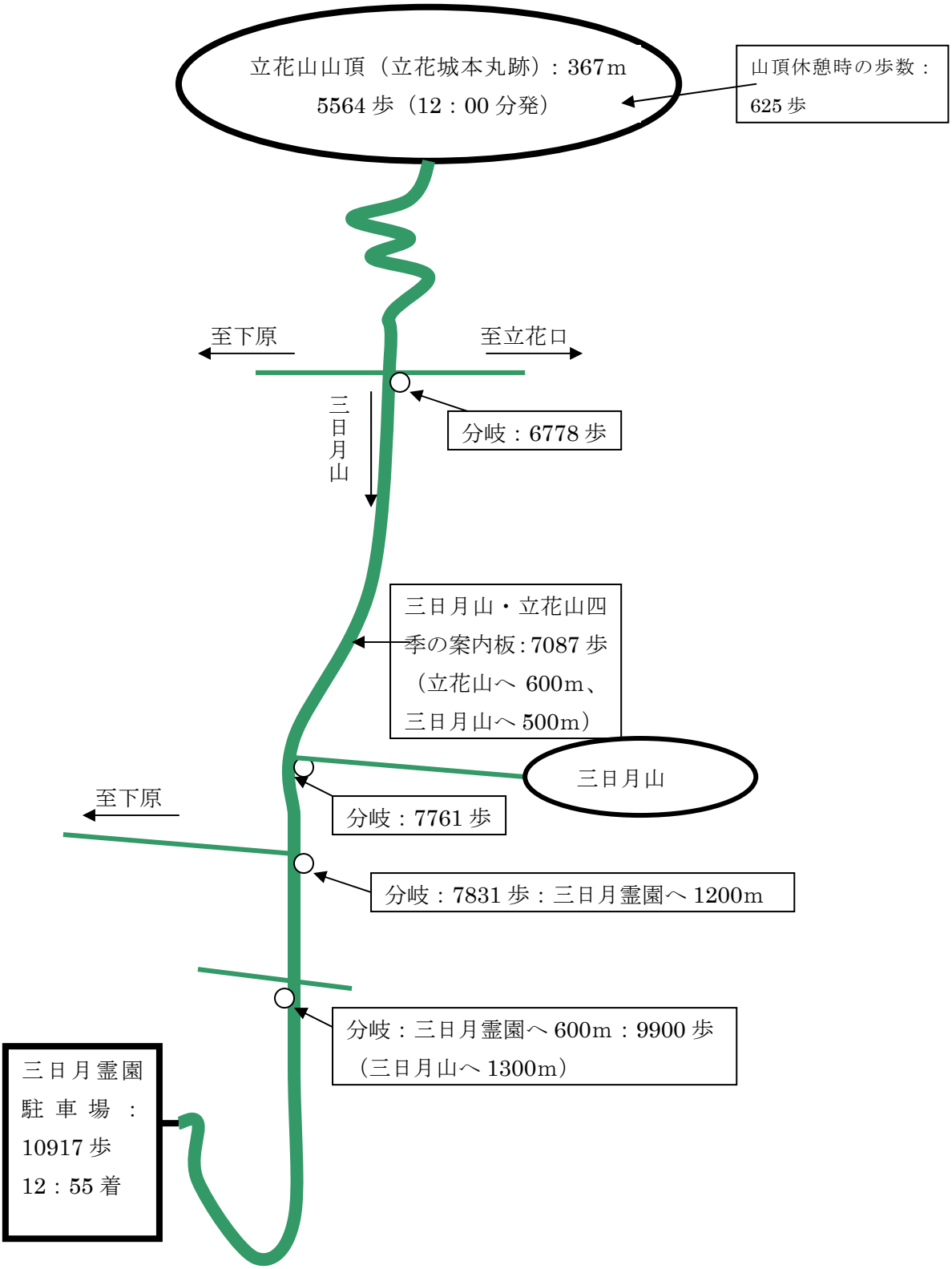
# 三日月山霊園から三日月山山頂へのルート



# 三日月山山頂から立花山山頂へのルート



# 立花山山頂から三日月山霊園駐車場までの下山ルート

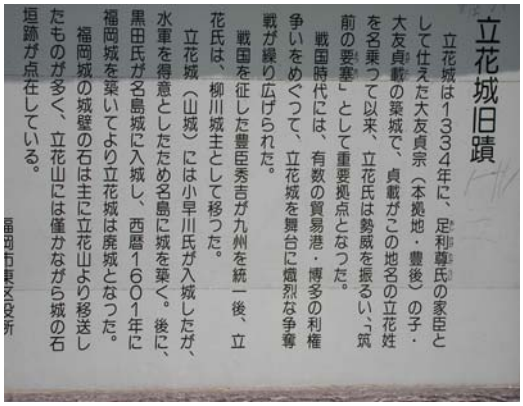


三日月山頂（城址）前の大石

三日月山城址から立花山遠望

三日月山城址からの福岡市遠望

立花城址：立花山山頂



立花城旧蹟

立花城は１３３４年に、足利尊氏の家臣として仕えた大友貞宗（本拠地・豊後）の子・大友貞載の築城で、貞載がこの地名の立花姓を名乗って以来、立花氏は勢威を振るい、「筑前の要塞」として重要拠点となった。

戦国時代には、有数の貿易港・博多の利権争いをめぐって、立花城を舞台に熾烈な争奪戦が繰り広げられた。

戦国を征した豊臣秀吉が九州を統一後、立花氏は、柳川城主として移った。

立花城（山城）には小早川氏が入城したが、水軍を得意としたため名島に城を築く。後に、黒田氏が名島城に入城し、西暦１６０１年に福岡城を築いてより立花城は廃城となった。

福岡城の城壁の石は主に立花山より移送したものが多く、立花山には僅かながら城の石垣跡が点在している。

福岡市教育委員会

立花城説明版

立花城址より九州産業大学と人工島（博多湾）遠望

## （12）獨鈷寺（どっこじ）

獨鈷寺は天台宗叡山派に属し、天台宗開祖の寺としての伝承がある。この天台宗の開祖は最澄[さいちょう：767（神護景雲元）年～822（弘仁 13）年：804（延暦 23）年に入唐請益生（しようやくしょう）]となり、中国に渡って天台山に赴き、円禅戒密の四種を相承し、翌年の 805（延暦 24）年 6 月に伝教大師最澄が 40 歳のときに、古賀の浜に着かれたとのことである。霊地を求めるため独鈷（密教で用いる法具、金剛杵（こんごうしょ）の一種）と鏡を空高く投げると立花山方面に飛んだということで、その地が現在の獨鈷寺のところであったとのことである。この寺には雨に関係なく清水が湧き出る独鈷水、最澄が座禅をなされたという座禅石がある。

（最澄について）

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月．770 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月．542 頁.

（獨鈷寺について）

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 436～437 頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版，1993 年 6 月, 143 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.384 頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 813 頁.

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月．　664～667 頁.
665 頁に獨鈷寺にある金剛杵と鏡の写真がある。

香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 384～385 頁.

## （13）六所神社

六所神社（六所権現社）は所祭天照大神、春日明神、加茂明神、稲荷明神、熱田明神および木船明神を合祀されたものである。　もともとは人々が土地の開墾にあたり五穀豊穣を祈ったところであったが、立花道雪は出陣のときに必ず武運を祈願していたとのことであった。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 436 頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版，1993 年 6 月, 143 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中

巻』文献出版,1977 年 12 月.384 頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 813 頁.

## （14）梅岳寺（ばいがくじ）

現在、梅岳寺は曹洞宗に属している。はじめは花谷山神宮寺として 1385（元中 2）年室町幕府三代将軍であった足利義満[1358（正平 13・延文 3）年～1408（応永 15）年]の時代に建立されている。

1575（天正 3）年に立花道雪の母親を法名養孝院としてこの寺に埋葬し、その法名と道雪の姓をとって立花山梅岳寺養孝院と改められた。1585（天正 13）年 9 月 11 日に道雪が筑後の陣中で病没し、母親の横に埋葬されている。1586（天正 14）年立花宗茂は豊臣秀吉の九州平定により柳川へ移封され、11 万石を拝領されている。この関係で立花家は菩提寺として福厳寺を建立したとのことであるが、道雪母子は梅岳寺に残っている。梅岳寺には道雪と主従の関係であった薦野三河守増時（こもの　みかわのかみ　ますとき：1543（天文 12）年～1623（元和 9）年）も生前の約束とのことで墓がある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 436 頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993 年 6 月, 144 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.384 頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月. 812～813 頁.

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月.　663～664 頁.
665 頁に獨鈷寺にある金剛杵と鏡の写真がある。

香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 384 頁.

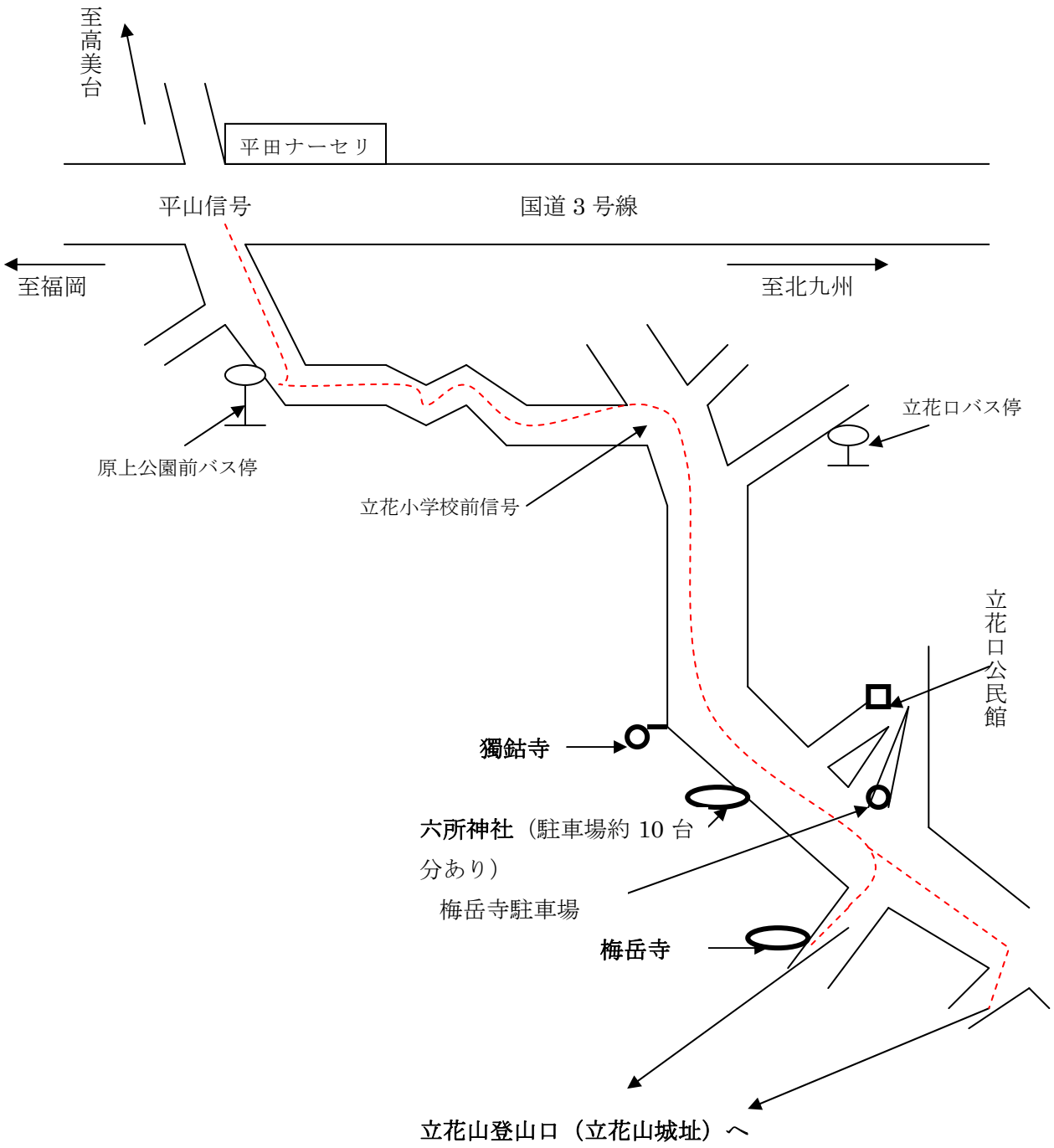
（薦野三河守増時について）

薦野増時は戦国時代から江戸時代初期にかけての武将であり、筑前国糟屋郡の土着の領主でもあった。立花氏の家老を務めて後に立花三河守の名乗りを許されている。高橋統虎を立花道雪の養子となったとき増時はその補佐をおこなっている。増時の系統は福岡藩家臣立花氏として黒田氏に仕え続け、かつての主君立花宗茂が再び柳川藩に移封後も立花氏に復帰することはなかった。1623（元和 9）年に増時が 81 歳で死亡すると、道雪との約束で梅岳寺の道雪墓所の隣に葬られている。なお、福岡藩の重臣で文人として名高い立花実山は曾孫にあたる。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 437～438

頁.および624頁.
青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993年6月,144頁.
奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985年12月.813頁.
http://ja.wikipedia.org/wiki・・・・・・・

獨鈷寺（福岡県糟屋郡新宮町大字立花口 1088）
六所神社（福岡県糟屋郡新宮町大字立花口 1182 付近）
梅岳寺（福岡県糟屋郡新宮町大字立花口 1275）
立花山(立花山城址)登山口（福岡県糟屋郡新宮町大字立花口）



新宮町　獨鈷寺

獨鈷寺

新宮町　六所神社

六所神社駐車場の立花山登山案内板

新宮町　梅岳寺

梅岳寺説明板

（15）名島城址

名島城は、元来、立花鑑載（たちばな　あきとし）が立花山城の出城として築城されたものである。1587（天正 15）年に豊臣秀吉によって九州平定され九州の国割りがなされた。それに伴い毛利元就の三男である隆景（たかかげ）が小早川を継ぎ、小早川隆景となりそれまで伊予国を治めていたが、その伊予国に替わって、天正 15 年 6 月 25 日筑前一国他を与えられ筑前名島に築城した。隆景は当初立花山城を居城（きょじょう）としたが、不便を感じたため立花山城の出城であった名島城を整備（新たに築城）した。この名島城築城にあたっては豊臣秀吉が設計に力を入れているといわれている。

隆景はのちに秀吉の妻である北政所（きたのまんどころ）の兄木下肥後守の子である秀秋を養子として国を譲り、自らは備後国三原の城に隠居し 1597（慶長 2）年 63 歳で没している。関ヶ原の戦いに貢献したことで、秀秋は名島城に 1600（慶長 5）年まで在城し、その後備前美作に加増・転封となっている。

1600（慶長 5）年 9 月に関ヶ原の戦いで徳川方が勝利した結果、12 月 8 日に黒田長政［1568(永禄 11)年～1623（元和 9）年：黒田孝高（如水）の長男］が筑前に入国（52 万石）し名島城に入城したが、城地が狭く不便であったので、慶長 6 年から福岡に築城した。同 7 年に長政が福岡城に移ったことにより名島城は廃城となった。

名島城址の碑は名島神社にあるが名島 1-15 付近が本丸址で、名島 3-37 付近が二之丸址で、名島 3-20 付近が三之丸である。

（名島城について）

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 610～611 頁.

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版, 1993 年 6 月. 507 頁.

奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月.801 頁.

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月.　702～703 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999 年 7 月. 249 頁.

福岡市教育委員会『名島城跡Ⅰ』（福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書　第 318 集）福岡市教育委員会,1993 年 3 月.1～31 頁.

（小早川隆景・小早川秀秋について）

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月.　740 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月.　518～519 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 97～108 頁.

川添昭二・武末純一他『福岡県の歴史』山川出版社, 1997 年 12 月. 170～178.

## （16）帆柱石（ 檣 石）

帆柱石は名島弁才天社の近くの海辺にあり、神功皇后が三韓出兵の際に使用した船の帆柱が化石になったといわれている。地質学的には第三紀属の樫属の化石であり、天然記念物となっている。WEB 地図の資料館『絵葉書に観る明治・大正・昭和　福岡・博多の町並み』WEB 地図の資料館,2003 年 7 月.の 27 頁に昭和初期の写真がある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.412 頁.
奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985 年 12 月.801 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社,1995 年 2 月.22～31 頁.
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社,1999 年 7 月.66 頁.
糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完)』糟屋郡役所,1924 年 3 月.608 頁.
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場,1953 年 2 月.386 頁.

## （17）名島火力発電所跡

名島火力発電所は 1920（大正 9）年電力需要の増大とともに建設された。名島は火力発電所の燃料となる石炭を船で運び込むのに利便性があり、当時としては人家も少ないということから建設されている。当時は 20,000 キロワットの発電があり東洋一の発電所となって、九州電灯鉄道株式会社と関西電気とが合併して「東邦電力」となった。東邦電力になり名島発電所はさらに拡張され 46,000 キロワットの出力があった。第二次大戦後新技術が導入されてくるとともに、この発電所は任務を終え 1960（昭和 35）年 12 月に廃止され、現在は名島運動公園となり整備されている。なお、現在の福岡市中央区田島にあった福豊炭鉱の産出量の 3 分の 1 を名島発電所に供給していたとのことである。

当時の写真として、石橋源一郎・波多江五兵衛『思い出のアルバム　博多、あの頃　明治・大正・昭和』葦書房,1977 年 5 月.105 頁の No.220 の写真と 178 頁の No.370 の写真であり、その写真の名島の水上飛行場の後方に火力発電所の 4 本の煙突が見える。

柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社,1995 年 2 月.164～165 頁.写真あり
（名島発電所の写真について）
西日本新聞社「写真集福岡 100 年」観光事務局『写真集　福岡 100 年』西日本新聞社,1985 年 11 月.175 頁と 408 頁の名島飛行場の後方に名島発電所の 4 本の煙突が見える。.
石橋源一郎・波多江五兵衛『思い出のアルバム　博多、あの頃　明治・大正・昭和』葦書房,1977 年 5 月.105 頁と 178 頁.
（福豊炭鉱について）

福岡市役所『福岡市史　第七巻　昭和編後編（三）』福岡市役所,1974 年 5 月.283～288 頁.

## （18）名島水上飛行場跡

名島水上飛行場は 1930（昭和 5）年に開所している。しかし、福岡で最初の空港は 1924（大正 13）年大阪の日本航空株式会社（代表は川西清兵衛で、現在の JAL ではない）が西公園下の船だまりから福岡 - 大阪間に貨物、郵便輸送の水上飛行機で約 3 時間での所要時間ということであった。1929（昭和 4）年に現在の JAL となる日本航空輸送株式会社が発足し福岡(太刀洗) - 大阪 - 東京まで 6 人乗り飛行機で運行している。太刀洗飛行場までは福岡から時間がかかるので、名島に 1930（昭和 5）年に開所する理由がここにあったのである。飛行機は国内についてフロート付の水上機が就航し、ドニエル・ワールというドイツの 15 人乗り飛行艇で、当時の朝鮮や中国にも航路が開かれた。1931（昭和 6）年 9 月 17 日には大西洋横断で有名なアメリカのチャールズ・リンドバーグ夫妻が訪れている。

柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 164～170 頁. 写真あり
（名島飛行場の写真について）
西日本新聞社「写真集福岡 100 年」観光事務局『写真集　福岡 100 年』西日本新聞社,1985 年 11 月.408 頁.
石橋源一郎・波多江五兵衛『思い出のアルバム　博多、あの頃　明治・大正・昭和』葦書房,1977 年 5 月. 105 頁の No.220 の写真と 178 頁の No.370 の写真
WEB 地図の資料館『絵葉書に観る明治・大正・昭和　福岡・博多の町並み』WEB 地図の資料館, 2003 年 7 月.

## （19）岩見重太郎生誕地の碑

岩見重太郎[いわみ　じゅうたろう:生年不詳～1615（元和元）年]は江戸前期の剣術家である。諸国巡歴（武者修行）ののち豊臣秀吉に仕えた。1614（慶長 19）年に大阪冬の陣に参加し、その後 1615（元和元）年の大坂夏の陣に、伊達政宗の家臣片倉重綱の軍勢と戦い、河内国の道明寺で討ち死にしたとのことである。ところで、重太郎が諸国巡歴のころ仙台での大蛇退治、信濃での妖怪（狒々；ひひ）退治、丹後国の天橋立で仇討ちの助太刀などの武勇譚が真偽とりまぜて、講談・読み本ほかに語られ英雄化された人物でもある。また、一説に秀吉の家臣薄田兼相（すすきだ　かねすけ）と同一人物ではないかといわれているが確かでない。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月. 227 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月. 161 頁.

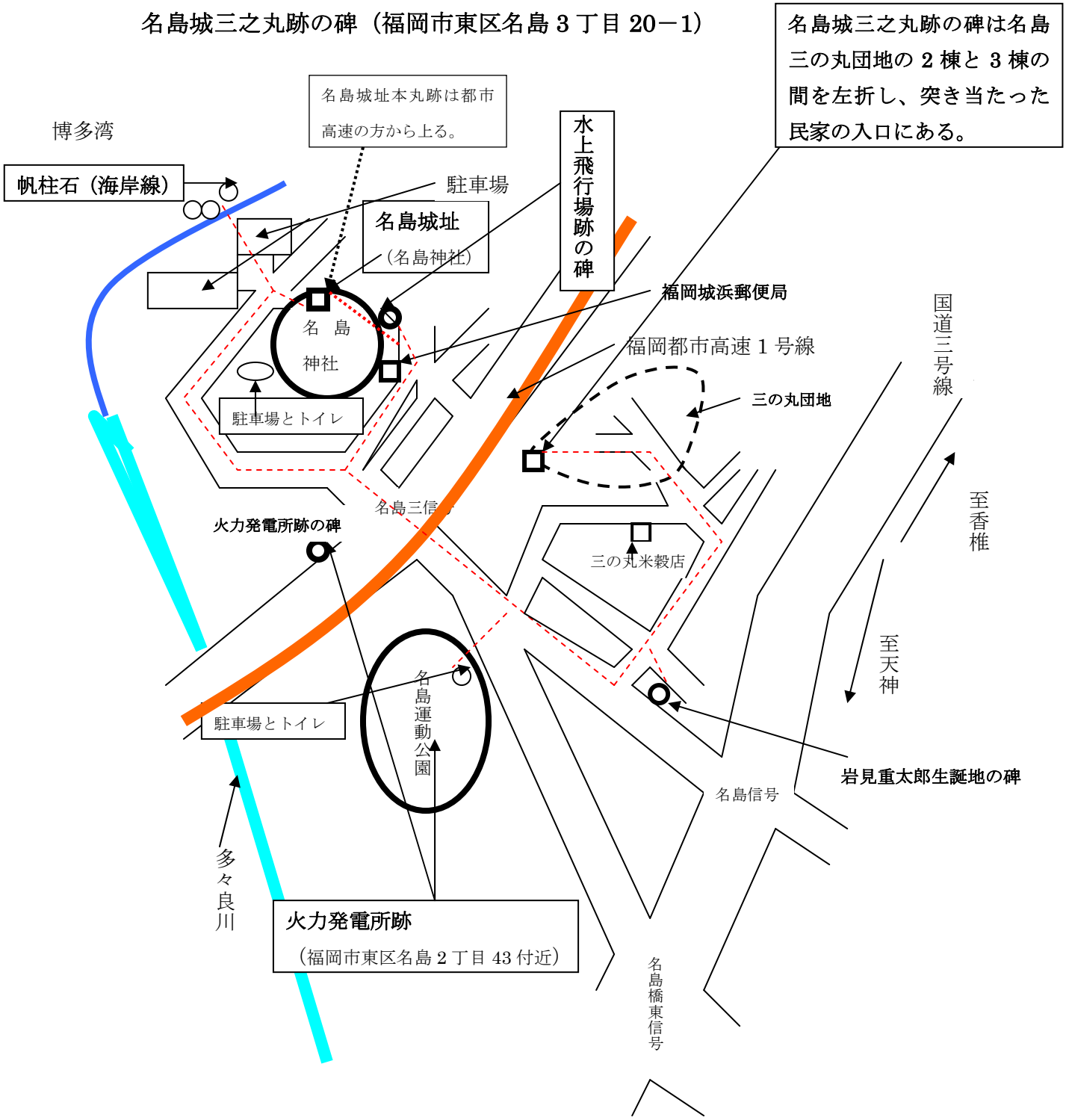
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 67 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 109～114 頁.

## （20）名島城三之丸跡の碑

福岡市教育委員会の『名島城跡Ⅰ』によれば、福岡都市高速道路を挟んで名島城本丸は海側の高台にあるが、二之丸および三之丸は都市高速道路の丘側の名島 3 丁目一帯にあった。現在は三の丸団地と民家との境に三之丸跡の碑がある。

福岡市教育委員会『名島城跡Ⅰ』（福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書　第 318 集）福岡市教育委員会,1993 年 3 月.1～31 頁.
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 67 頁.

名島城址（福岡市東区名島 1 丁目 15 付近：名島神社は名島 1－26－1）
帆柱石（福岡市東区名島 1 丁目海岸付近：名島神社のなじま駐車場 B 付近）
火力発電所跡（福岡市東区名島 2 丁目 43 付近：名島運動公園）
名島水上飛行場跡（福岡市東区名島 1 丁目 1－23：城浜団地 16 棟付近）
岩見重太郎生誕地の碑（福岡市東区名島 3 丁目 14－20）
名島城三之丸跡の碑（福岡市東区名島 3 丁目 20－1）



名島神社（名島城祉付近）

名島城祉の碑

名島城址本丸跡の上り口

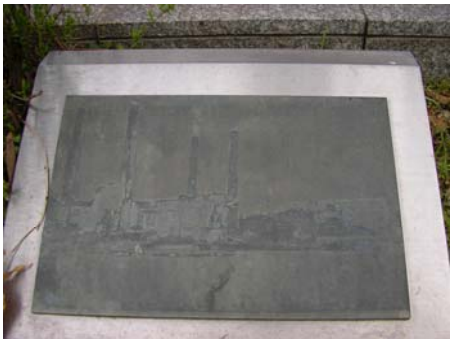
名島城址本丸跡

名島城址本丸跡から博多湾遠望

帆柱石の説明板と名島飛行場跡方面

帆柱石

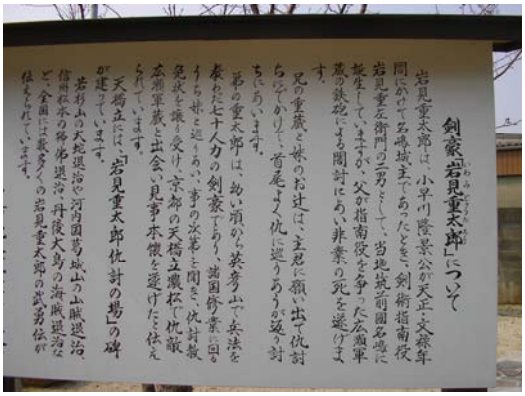
名島発電所跡の碑



名島火力発電所版

名島水上飛行場跡の碑

名島水上飛行場跡の碑




岩見重太郎説明版

岩見重太郎生誕地の碑

名島城三之丸跡の碑

名島城三之丸跡の碑

## （21）多々良浜古戦場跡

後醍醐天皇が 1333（元弘 3＝正慶 2）年に鎌倉幕府を倒して京都に還幸し天皇親政を復活し、翌年に建武と改めた。いわゆるこれが 1334（建武元）年の「建武の中興（けんむのちゅうこう）」といわれていることである。武士たちはこの親政に対して期待していたほどのことはなく不満が高まっていた。足利尊氏は建武中興第一の功臣であったが、武士にかつがれて後醍醐天皇の親政に反旗を翻した。

しかし、尊氏は 1336（延元元）年 2 月に新田義貞[にった　よしさだ:1301（正安 3）年～1338（延元 3＝暦応元）年]と北畠顕家[きたばたけ　あきいえ:1318（文保 2）年～1338（延元 3＝暦応元）年]の軍勢に敗北し九州へ逃れてきた。尊氏は筑前の多々良浜で肥後の菊池武時[きくち　たけとき:生年不詳～1333（元弘 3 年＝正慶 2）年]の子である菊池武敏[きくちたけとし: 生没年不詳]と戦っている。いわゆる「多々良浜の合戦」である。武敏は尊氏を討つために 4～5 万騎の大軍を率いて多々良浜の西側に陣をとったということであった。これに対して、尊氏は 300 騎で、後述の「陣の腰」（現在の松崎浄水場）という小高い丘に陣をとったとされている。自然条件（菊池勢にとっての天候の悪条件）や尊氏の強運などが関係し、尊氏の勝利となっている。

これを期に尊氏は勢力を盛返し摂津湊川（せっつみなとがわ）に楠木正成[]を倒し入京し、1336（建武 3＝延元元）年 8 月光明天皇[]の即位を断行、11 月建武式目（けんむしきもく：足利尊氏が示した室町幕府の政治要綱で 17 か条からなる。）を公布して幕府の開設を内外に示した。12 月に後醍醐が吉野に脱出して南北朝動乱が始まることになる。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月．227 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月．28 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 83～88 頁.
川添昭二・武末純一他『福岡県の歴史』山川出版社, 1997 年 12 月. 138～142.
糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月. 698～702 頁.

## （22）兜塚（かぶとづか）の碑

現在の多の津の一角には、古くからの伝承の「花園森」というのがあったが、この森は足利尊氏と菊池武敏との合戦で犠牲になった数千人の霊を慰める碑があり、これを兜塚といっている。当時の「花園森」は兜塚の碑がある現在地ではなかったとのことである。

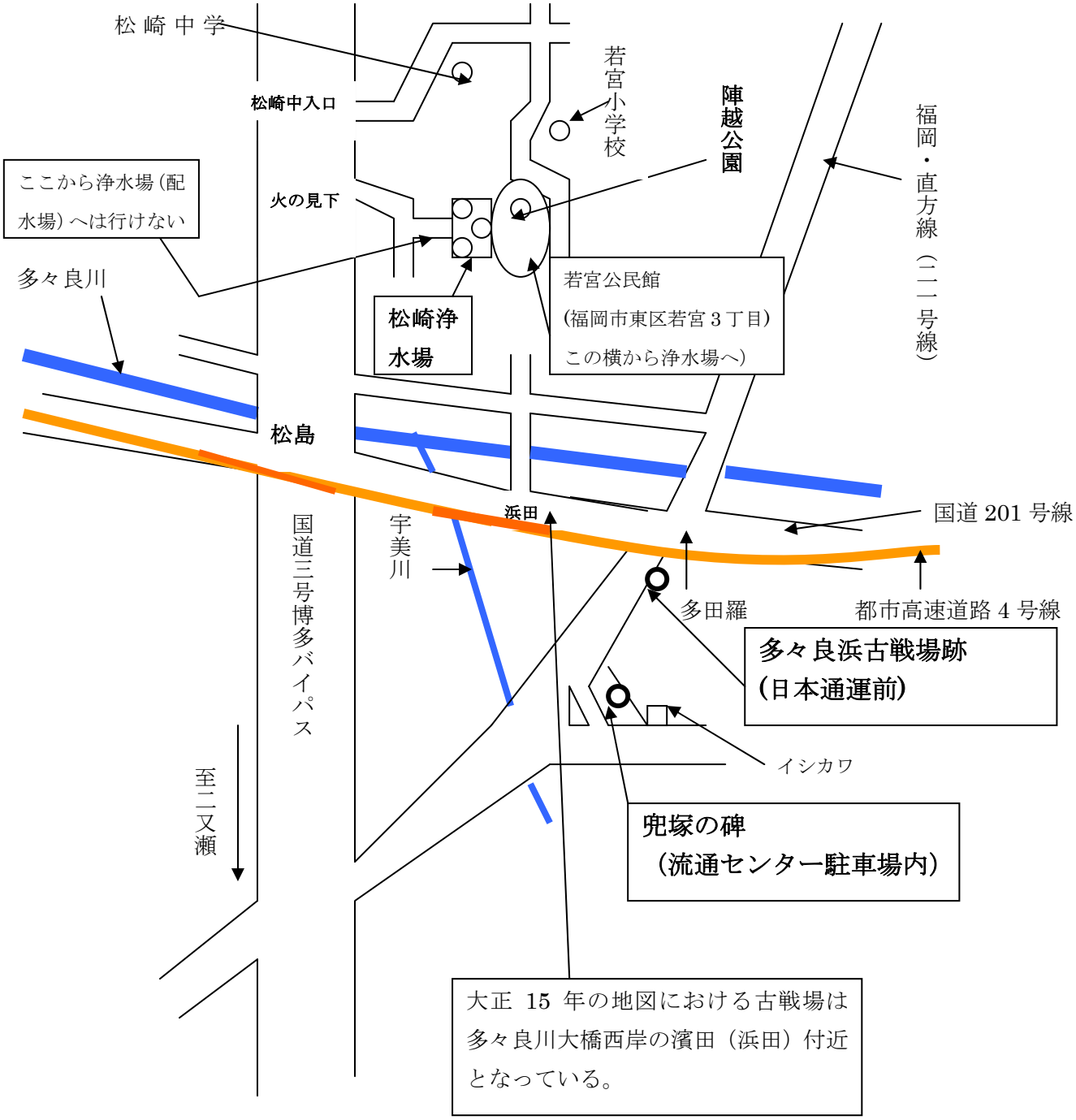
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 70 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 87～88 頁.

（23）陣の腰跡

陣の腰は多々良、津屋および松崎の三村の界にあって、1336（建武 3）年 2 月、足利尊氏が菊池武敏の軍勢と戦うため香椎からこの地に来て陣を布いたところである。現在の松崎浄水場がこれにあたっている。

糟屋郡役所編纂『糟屋郡志（完）』糟屋郡役所, 1924 年 3 月. 702 頁.
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 62 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 85 頁.

多々良浜古戦場跡（福岡市東区多の津１丁目 20：日本通運前）
兜塚の碑（福岡市東区多の津１丁目４：流通センター駐車場内）
陣の腰跡（福岡市東区松崎１丁目 61 付近：現在の松崎浄水場：陣越公園）



兜塚の碑

兜塚の碑

多々良戦の跡の説明版

多々良戦跡の碑

足利尊氏が陣馬を立てた松崎分水場：
陣越公園

松崎浄水場（分水場）

## （24）雁の巣飛行場（福岡第一飛行場）跡

雁の巣飛行場は 1936（昭和 11）年 6 月に水陸両用の国際飛行場で、福岡第一飛行場となった。これにともない名島水上飛行場は福岡第二飛行場となっている。雁の巣飛行場は当時東洋一の飛行場で国内をはじめ朝鮮、中国および台湾へ運航していた。1939（昭和 14）年から飛行場の拡張工事がなされていたが、1941（昭和 16）年に太平洋戦争が開戦になると大規模飛行場が必要不可欠となり、1944（昭和 19）年 2 月現在の福岡空港の場所（当時の筑紫郡席田（むしろだ））に建設したが、終戦をむかえ日本の航空機は利用されず、板付米軍基地として利用されている。雁の巣飛行場も米軍基地となっている。1972（昭和 47）年に両基地は日本に返還され雁の巣飛行場はレクレエーションセンターに、板付基地は福岡空港となった。

柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 172～175 頁.
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 77 頁.
[雁の巣飛行場（福岡第一飛行場）の写真]
西日本新聞社「写真集福岡 100 年」観光事務局『写真集　福岡 100 年』西日本新聞社,1985 年 11 月.408 頁.に雁の巣飛行場の写真 4 枚と当時の福岡空港の写真 1 枚.

## （25）球磨号遭難者慰霊碑

雁の巣レクレエーションセンター入口の道を挟んだ向かい側（南側）に球磨号遭難者慰霊碑がある。1939（昭和 14）年 5 月 17 日に雁の巣発で京城（ソウル）行の旅客機「球磨号」が離陸直後に墜落し、11 人が死傷したとのことで、そのための慰霊碑である。

## （26）西戸崎炭鉱跡と慰霊碑

西戸崎炭鉱は 1937（昭和 12）年 5 月 1 日開坑し、閉山式があった 1964（昭和 39）年 3 月 17 日までの操業であった。西戸崎炭鉱は安川家と大倉粂馬との共同出願で鉱区を設定し、その後明治鉱業と大倉鉱業の共同鉱区に移り、昭和 12 年開坑にしている。「ボタ山」は 1968～1969（昭和 43～44）年頃まで大岳山（大岳神社）のそばにあり、その高さは 5～60 メートルであったとのことである。同炭鉱の入口は大岳山のふもとで、ここから博多湾の海底まであった坑道は、深いところで 1,000 メートルにも達したとのことである。最盛期の出炭量は 1944（昭和 19）年度 112,334 トンで、鉱員の延べ数は 10,203 人であった。

閉山後の「ボタ山」は徐々に崩されて、ゴルフ場になっている。ゴルフ場入口からしばらく歩くと左手に西戸崎炭鉱の坑口跡の碑と採炭殉職者の慰霊碑がある。英霊は 56 柱に及んでいるとのことである。

九州大学石炭研究資料センター『石炭研究資料叢書　第 18 輯』「西戸崎炭礦社史（稿本）」九州大学石炭研究資料センター, 1997 年 3 月. 55～67 頁.
（石炭輸送が華やかなりし頃の西戸崎：写真）
http://tatarayume.org/rb/rekibun/s38.html

## （27）金印発光碑

「金印発光之処」と書かれているところから石段をのぼったところが「金印公園」である。この地から 1784（天明 4）年に金印が出土した。金印の考察を試みたのが福岡藩西学問所「甘棠館」の亀井南冥[かめい　なんめい：1743（寛保 3）年～1814（文化 11）年]であった。金印については当時からさまざまな面での論争があったが、奴国が大陸文化の交流地として栄えたことを知るうえで重要な資料でもある。

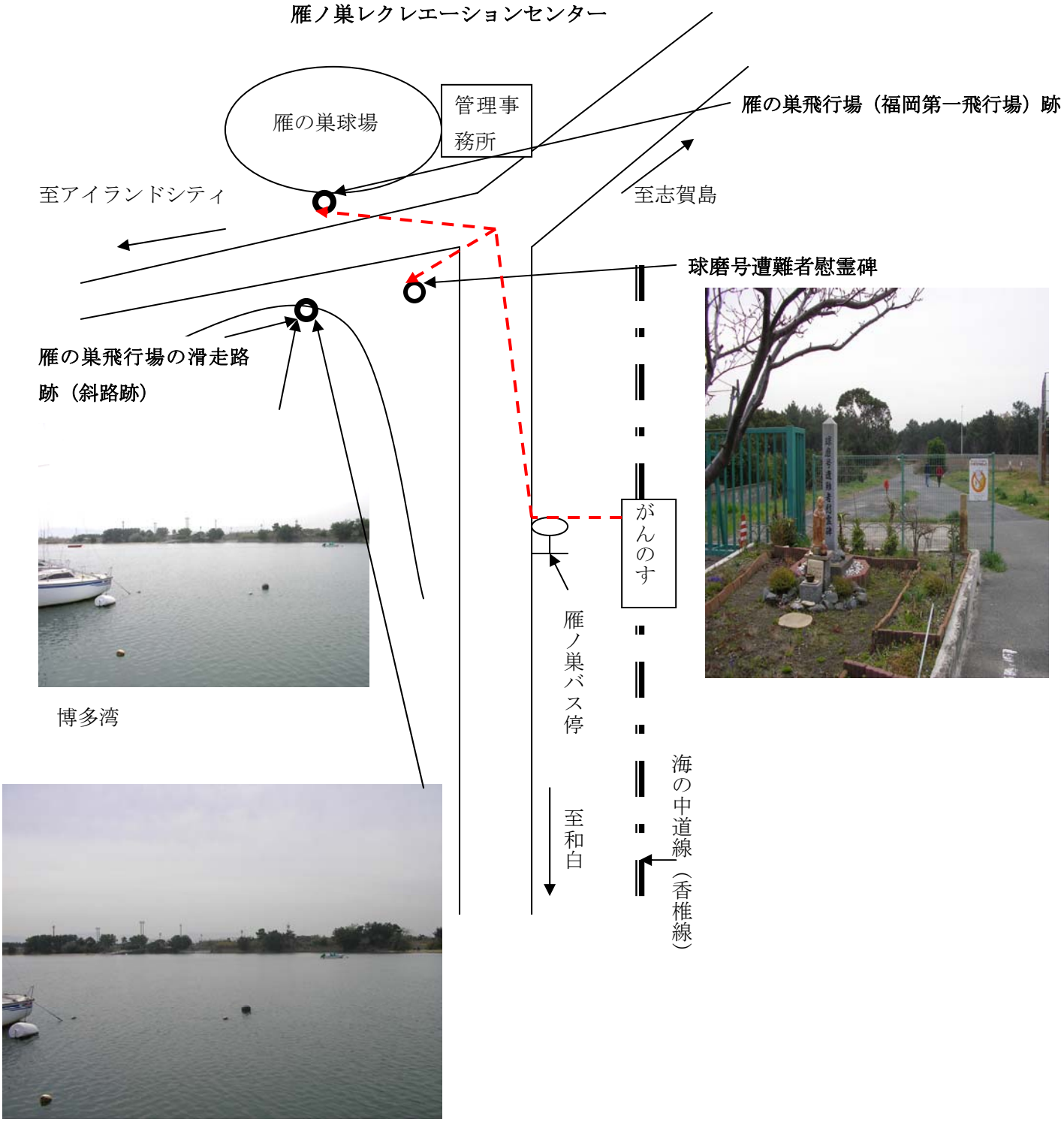
香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場, 1953 年 2 月. 389 頁.
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 83 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 54～66 頁.

## （28）蒙古塚

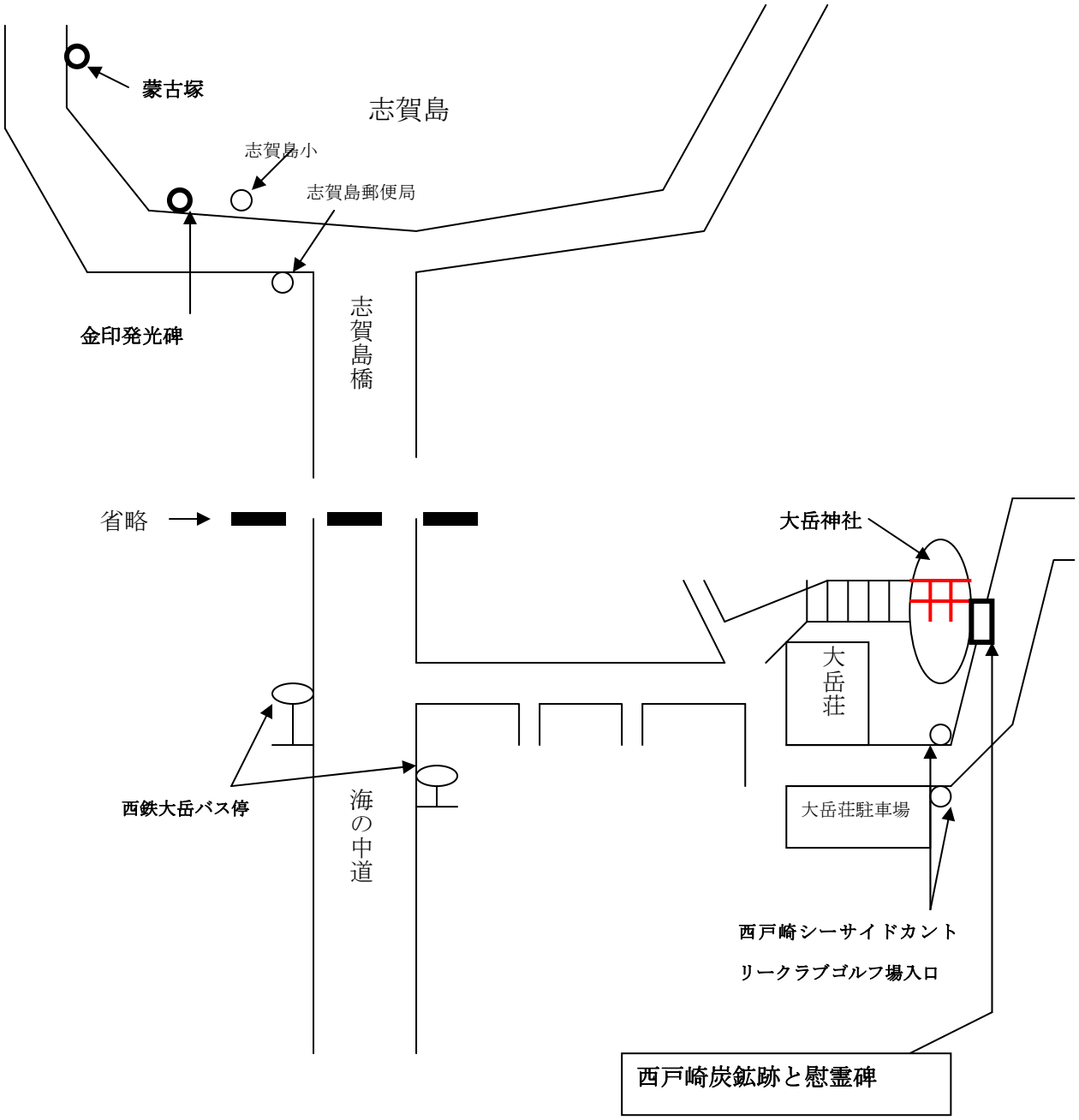
金印公園から海岸沿いの道路を西へ行くと右手に蒙古塚がある。供養塔は 1274（文永 11）年の蒙古襲来のとき、逃げ遅れた蒙古軍の軍船の二百数十人の首を切って葬ったことに対して供養している。

福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 1999 年 7 月. 83 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　東区編』海鳥社, 1995 年 2 月. 139～145 頁.

雁ノ巣レクレエーションセンター（福岡市東区奈多 1302－58）
雁の巣飛行場（福岡第一飛行場）跡（福岡市東区奈多 1302）
球磨号遭難者慰霊碑（福岡市東区奈多 1302）



西戸崎炭鉱跡と慰霊碑（福岡市東区西戸崎大岳）
金印発光碑（福岡市東区志賀島）
蒙古塚（福岡市東区志賀島）



西戸崎炭鉱本卸坑口跡の碑

西戸崎炭鉱慰霊碑

西戸崎炭鉱坑口跡

大岳神社

大岳神社入口と大岳壮

金印公園入口

金印

金印公園から能古島を遠望

蒙古塚説明版

蒙古塚

蒙古塚

# 第Ⅱ部　福岡三私塾とその散策マップ記

第Ⅱ部では、とくに江戸後期から明治中期頃にかけて福岡３私塾といわれるものが存在した。これらの３私塾（折衷塾、興志塾および正木塾）は全国的には有名ではないものの、各私塾で学んだ門弟は社会に大いに貢献している人々である。３私塾では朱子学、阻徠学、農業指導者、玄洋社関係であり、３私塾から勤皇の志士に関係する人々、明治憲法の起草をおこなった金子堅太郎など多くの政治家が福岡から生まれている。これらの人々について、３私塾を中心に取り上げその関係図を示している。しかし、３私塾それぞれの指導者は第Ⅱ部で記述している関係だけでなく、筑前福岡は貝原益軒、青柳種信、加藤一純・鷹取周成および伊藤常足などの学者の影響は勿論のことではあるが、その前の中世前後の時代の探題城および山城が筑前福岡には多く存在しておりこれらの時代の城主やその家臣の末裔の人々が果たした役割も大きいものと思われる。これらについては拙著『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』と『続　早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』で解説しているので、そちらをご覧いただきたい。国会図書館、福岡市総合図書館、福岡県立図書館および九州産業大学図書館だけでなく一部の大学の図書館に寄贈しています。第Ⅱ部では、とくにわが国経済社会に影響を及ぼした明治時代の玄洋社と農業指導者について説明をしておくことにしたい。

なお、第Ⅰ部および第Ⅲ部と異なり、取り上げた人物等の地理的な関係上、３私塾それぞれの項目ごとにマップと写真を掲載せずに、第Ⅱ部の後半にまとめている点に留意していただきたい。

（玄洋社について）

1879（明治 12）年明治政府に対する平岡浩太郎および頭山満などの人々は結社向陽社設立して子弟の教育にあたっている。向陽社の社長に箱田六輔、監事は頭山満、進藤喜平太、山中立木および上野弥太郎であった。向陽社は国会開設運動に奔走している。1881（明治 14）年向陽社の急進派は玄洋社を設立し、社長に平岡浩太郎とし、大陸進出をモットーとしアジア人同士の団結力で大アジア主義を実行した。日清戦争、日露戦争、日韓合併の際には軍部と結んで活動している。これらのように玄洋社は右翼の源流として重きをなし、国内でも条約改正問題や、日露戦前の主戦論主張などに活躍した。玄洋社は 1946（昭和 21）年 1 月に GHQ（General Headquarters：総司令部）によって解散となる。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1986 年 11 月.77～78 頁.

（農業指導者について）

江戸時代の筑前（福岡）には宮崎安貞（現福岡市西区女原）、明治時代には林遠里（現福岡市早良区重留）、伊佐治八郎（現福岡市早良区小田部）および横井時敬（旧中州の福岡県立農学校教諭、福岡県勧業試験場長、東京帝大教授、東京農業大学初代学長）の農業指導者がいた。とくに明治時代の農業指導者は林遠里と、横井時敬とその弟子の伊佐治八郎との農

業栽培技術に関する論争があったが米生産性を高めるために寄与している。いずれにしてもわが国の農業発展を通じて経済発展に導いたことに貢献しているし、この時代の農業技術が台湾（品種：蓬莱米）等の開発途上国にさまざまな形で貢献しているということは過言ではないであろう。そして、これらの農業技術や教育がまた筑前の人々や全国の人々におおきな影響を与えたということは間違いないであろう。

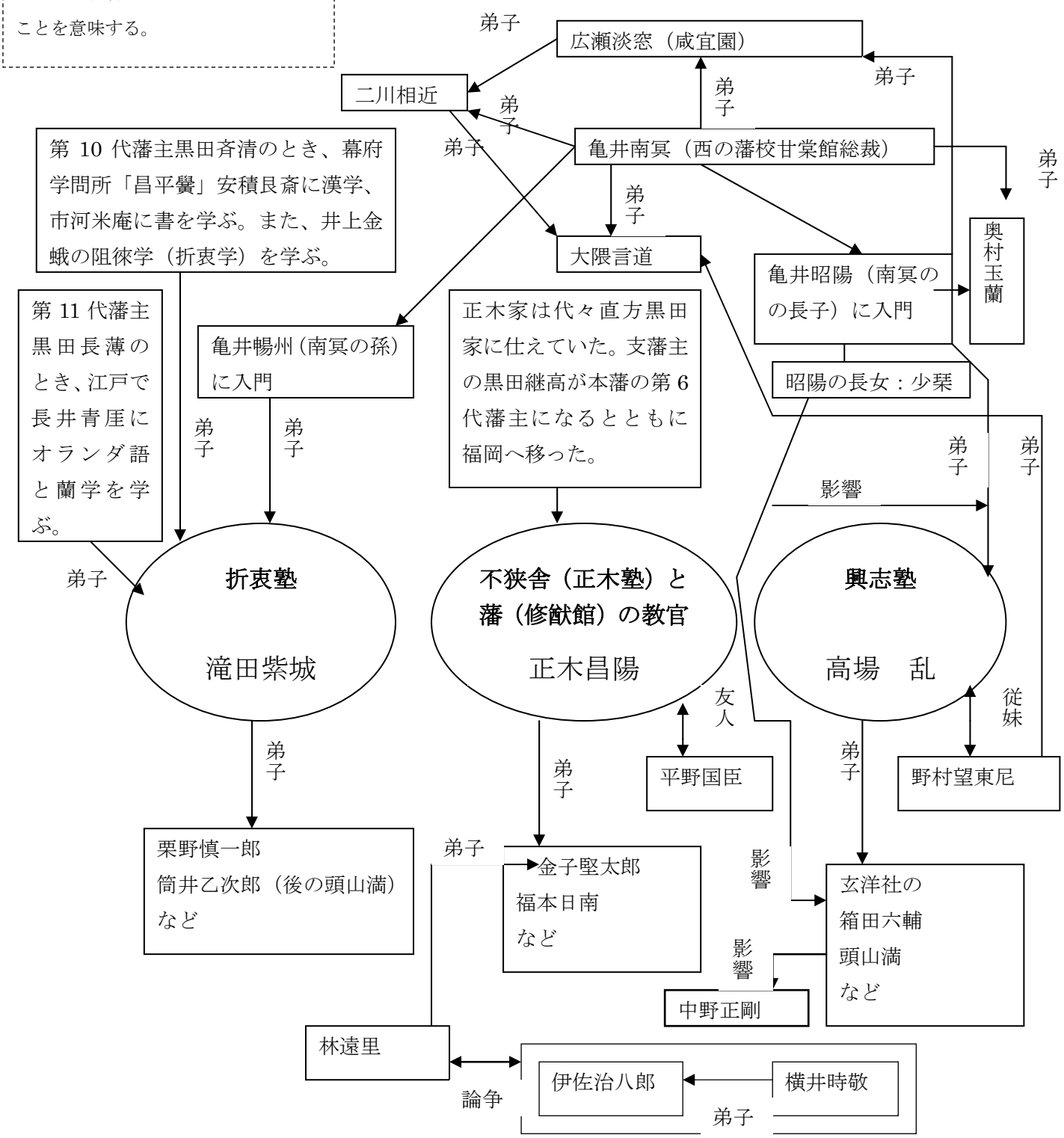
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典』三省堂,1999 年 12 月.1315 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.193 頁.1819 頁.

そこで以下は 3 私塾に関する人々について記述し、それらの関係図を提示しよう。なお、貝原益軒を始めとする江戸時代の福岡藩の学者、勤王派の人々および農業指導者等の人々はかならずしも紙幅の関係で関係図に組み入れてないが直接的および間接的に多方面に影響を及ぼしていることをご理解いただきたい。

# 福岡３私塾関係図

基本的にA ⟶ B は、Aの弟子（教え子）がBであることを意味する。他は、従妹および友人などと表示している。矢印が示されていないのはそれらの人々の影響が全体に及ぼされていることを意味する。

宮崎安貞　貝原益軒　青柳種信　伊藤常足　など



（１）折衷塾とその関連

**瀧田（滝田）紫城（たきた　しじょう）[1822（文政 5）～1897（明治 30）年]**

幕末から明治初年にかけて、現在の西新にある修猷館高等学校の敷地内には福岡の代表的な三私塾のうちの一私塾（塾長：瀧田紫城）である「折衷塾」または「滝田塾」があったといわれている。滝田家は下野（しもつけ：現在の栃木県）の出で、遠祖は那須与一（なすのよいち）で、その後播州（現在の兵庫県）に移り、直方黒田藩に仕えている。直方藩主の黒田継高が本藩福岡の藩主になって直方藩士の住居を西新町に移したとき、瀧田家も大西新屋敷に移り住んだということであった。紫城は福岡の西新新屋敷（現在の修猷館敷地の西側）生まれている。

瀧田紫城が 16 歳の頃、亀井南冥の孫である亀井暢州（かめい　ちょうしゅう）の門に入っている。紫城が 24 歳の 1845（弘化 2）年のとき、藩主黒田斉清（くろだ　なりきよ）の近侍（きんじ:主君のそば近くに仕えること）となり、江戸（霞ヶ関）の藩邸に住むこととなった。紫城は、この江戸藩邸に住んでいた頃に「折衷学（中国の唐、宋および明など各時代の学者の説を折衷した学問)」の祖である井上金峨（いのうえ　きんが：江戸中期の学者）の折衷学に出会っている。紫城は金峨の『金峨文集』に感銘を受け折衷塾を開いたとのことである。紫城は幕末の福岡藩の近代化に寄与したが、福岡藩自体が新政府設立の際には寄与していなかったため紫城を含む筑前藩士は悲運を味わうこととなった。このようなことから紫城は郷土の後進の指導をおこなうことなる。

明治初年は私塾が盛んになり、紫城の折衷塾は漢学の塾として多くの入門者を迎えている。栗野慎一郎ははじめ滝田塾でオランダ語を学び、後に長崎で英語を学んでいた。また、この塾には 16 歳の筒井乙次郎のちの頭山満がいたとのことである。

紫城は 1875（明治 8）年に現在の福岡市西区吉武（飯盛山の麓）に移り、折衷塾を開くが、その後各地の小中学校で教鞭をとり、また各地の中学校の校長を歴任しているとのことである。

柳　猛直『福岡歴史探訪　早良区偏』海鳥社,1995 年 11 月.152－159 頁.

**黒田斉清（くろだ　なりきよ）[1795（寛政 7）～1851（嘉永 4）年]**

黒田斉清は本草学に造詣が深く、標本画冊百数十巻のほか『本草啓蒙補遺』、『駿遠信濃卉葉鑑』、『山桜説』および『鴨経』などを著している。また、蘭学にも関心を持ち長崎警備の際ズーフ（H.Doeff：1777～1835：江戸後期に来日した出島オランダ商館長）やシーボルト（P.F.Siebold：1796～1866：江戸後期に来日したドイツ人植物学者で医師、1823（文政 6）年 7 月オランダ東インド会社の出島商館付き医師として来日。日本の自然・民俗を調査。文政 9 年オランダ商館長に随行した江戸参府旅行の際には動植物を多数収集したり購入した

りしている。江戸では多数の医、天文および本草家の訪問を受け静養の知識を伝えるのにことに貢献した。文政 11 年の帰国の際に船が台風で難破し、積荷の中に国外持ち出し禁制品があったため取調べを受け、追放されている。1859（安政 6）年 8 月再来日、長崎郊外の鳴滝に住み日本人訪問者に医学および植物学などの知識を与えている。江戸および横浜にも住み、1862（文久 2）年に離日。）と親しく、シーボルトとの問答の記録『下問雑載』（藩士 安部龍平著）がある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.664 頁.959 頁.869 頁.
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典』三省堂,1999 年 12 月.468 頁.684.616 頁.

## 井上金峨［1732（享保 17）～1784（天明 4）年］

江戸中期・後期の儒学者で、常盤国笠間藩医井上観斎の子。最初は堀川学派の学を修め、さらに井上蘭台（いのうえ　らんだい：1705（宝永 2）年～1761（宝暦 11）年：江戸中期の儒学者で、藩医井上玄璠の子で、林鳳岡（はやし　ほうこう:1644（正保元）年～1732（享保 17）年:江戸前期･中期の儒学者で、徳川家綱から吉宗までの 5 代の将軍に仕えている。）に儒を学んだが朱子学を固守するのを好まず荻生徂徠学（おぎゅうそらいがく）の学風をとった。）に徂徠学を学ぶ。明和年間（1764～71 年）独立して折衷学を唱えている。

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典』三省堂,1999 年 12 月.137 頁.141 頁.1015～1016 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.193 頁.199～200 頁.1400 頁.

## 栗野慎一郎（くりの　しんいちろう）［（1851（嘉永 4）～1937（昭和 12）年）］

1851 年 11 月に現在の福岡市荒戸町に福岡藩士栗野小右衛門の長子に生まれた。長崎で洋学をまなび、1874（明治 7）年黒田家の留学生に選ばれてハーバード大学留学後、1881（明治 14）年に外務省に入る、取調局長、政務局長を経て、1889（明治 22）年駐米公使となり条約改正交渉に当たる。その後イタリア、フランスおよびロシアなどの公使となった。1906（明治 39）年に初代駐仏大使になり日仏協約を締結している。1932（昭和 7）年枢密顧問官で、子爵でもあった。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.653 頁.
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典』三省堂,1999 年 12 月.460 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1986 年 11 月.65～65 頁.

（２）興志塾とその関連

**高場乱（たかば　おさむ）［1832（天保 3）～1891（明治 24）年］**

高場乱の父親を正山といい代々粕屋郡須恵の眼科医で、父親のあとを継ぎ女医としても評判をとっていた。医のかたわら儒学を亀井昭陽に学び、人参畑（現在の福岡市博多区博多駅 4 丁目）に興志塾を開き、子弟に対し教導をおこなった。常に男装をして亀井の学風を伝えた。後の玄洋社の箱田六輔および頭山満は興志塾の門弟であった。

また、高場乱は野村望東尼の従妹で、西南の役には西郷派にくみした嫌疑で捕らえられている。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月.128 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典』三省堂,1999 年 12 月.734～735 頁.

**頭山満（とうやま　みつる）［1855（安政 2）～1944（昭和 19）年］**

頭山満は明治・大正･昭和期の国家主義者である。頭山満は福岡藩士筒井亀策の三男であった。高場乱（たかば　おさむ）の興志塾に学んでいる。1876（明治 9）年萩の乱に参加して入獄した。1879（明治 11）年向陽社を結成し、国会開設運動をおこなった。1881（明治 14）年玄洋社を結成し、右翼の巨頭として政界に強い影響力を及ぼしていたとのことである。頭山満の筒井家は現在の西新エルモール（旧西新岩田屋）のところにあった。電車道から細い路地を南の旧唐津街道へ抜ける途中に筒井家があり、その付近に井戸とクスノキがあった。クスノキは現在西新交番の西隣の公園に頭山満碑とともにある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1183 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．849～850 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．146～151 頁.

**箱田六輔（はこだ　ろくすけ）［1850（嘉永 3）～1888（明治 21）年］**

明治期の自由民権家で、萩の乱に参加。釈放後の明治 12 年に頭山満および平岡浩太郎らと向洋社を結成。筑前共愛会会長となり、自由民権運動を進めた。愛国社および国会期成同盟などの全国的活動分野でも指導的役割を演じた。1881（明治 14）年に向洋社を玄洋社と改め、平岡の退いたのちの社長となった。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.1357 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典』三省堂,1999 年 12 月.982 頁.

**中野正剛（なかの　せいごう）［1886（明治 19）～1943（昭和 18）年］**

中野正剛は福岡市西湊町に旧福岡藩士中野泰次郎の長男として生まれている。早稲田大学の学生時代頭山満に接しその思想の影響を受けている。朝日新聞社の記者を経て、1930（大正 9）年衆議院議員（8 回当選）、憲政会、立憲民政党および国民同盟に所属している。その後、東方会を結成し、南進論や日独伊三国同盟などを提唱した。東条英機首相との対立で、憲兵の取調べを受け、昭和 18 年 10 月 27 日午前零時に自宅で割腹自殺したとのことである。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1261 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．907 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．164～165 頁.

**野村望東尼（のむら　ぼうとうに）[1806（文化 3）～1867（慶応 3）年]**

野村望東尼は幕末期の女流歌人で、勤皇家でもあった。望東尼は福岡藩士浦野勝幸の 3 女で、同藩士野村貞貫の後妻になる。夫の生前のときから夫婦で和歌を大隈言道に学んでいる。夫の死後剃髪し、名も望東（もと）から望東尼（ぼうとうに）と称すようになった。そして、平尾山荘に住み高杉晋作、平野国臣および西郷隆盛らの尊攘派志士と交流をもった。1986（慶応元）年に福岡藩の尊攘派処断に連座して姫島（現福岡県糸島郡志摩町）に流刑されたが、翌年高杉晋作が救出し、三田尻（現山口県防府市三田尻町）に移ったが、病死したとのことである。福岡市中央区護国神社の近くにある「ふくろうの森」の入口の坂道に望東尼「生誕の地」の石碑があり、「ふくろうの森」から 4,5 分南へ下れば加藤司書の家跡の石碑がある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1349 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．975 頁.

（３）不狭舎（正木塾）

**正木昌陽（まさき　しょうよう）［1827（文政 10）～1905（明治 38）年］**

正木昌陽は、若い時期に京都で皇典や故実を学び、のち福岡藩の教官（修猷館）をつとめるかたわら私塾（不狭舎（ふきょうしゃ）あるいは正木塾）を開いている。昌陽の友人に 1 歳年下の平野国臣がいた。また、正木塾からは金子堅太郎および福本日南（誠）　なお、正木家は代々、支藩である直方黒田家に仕えていたが 1719（享保 4）年に支藩主であった黒田継高が本藩の第 6 代藩主となったときに、正木家も継高公にしたがって福岡に移ってきたとのことであった。

柳猛直『福岡歴史探訪　中央区編』海鳥社,1996 年 4 月.111－120 頁

## 平野国臣（ひらの　くにおみ）［1828（文政 11）～1864（元治元）年］

福岡藩士平野吉三の次男として、1828（文政 11）年福岡地行に生まれる。早くから国学を学び有識故実、雅楽をきわめ尊王の志に厚く、尊皇攘夷運動に奔走中「回天三策」を朝廷に建白（自分の意見を申し立てること）したことで投獄される。1863（文久 3）年に上京し、学習院出仕を命じられたが、8 月 18 日の政変で京都を去る。10 月の但馬の「生野の変」で敗れ、捕らえられて 1864（元治元）年 7 月 20 日の「蛤御門の戦」のときに獄中で斬殺されている。また、国臣は神道夢想流杖術（太宰府の竈門（かまど）神社に発祥の地の碑がある。）の達人であったとのことであった。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1986 年 11 月.226～227 頁.
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典＜改定新版＞』三省堂,1999 年 10 月.1046～1047 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 3 月.1443 頁.
西日本新聞社編『博学博多―ふくおか深発見―』西日本新聞社,2007 年 6 月.180～181 頁.

## 金子堅太郎（かねこ　けんたろう）［1853（嘉永 6）～1942（昭和 17）年］

藩校修猷館に学び藩侯のアメリカ留学生に選ばれ 1871（明治 4）年渡米、ハーバード大学を卒業する。帰国後元老院に入り、制度取調べ局員を経て 1918（大正 7）年首相秘書官となり、伊藤博文の下で明治憲法草案の起草に参画した。その後貴族院書記官長、貴族院議員、第 2 次伊藤内閣農商務次官、第 3 次伊藤内閣農商務相を歴任した。1933（昭和 8）年立憲政友会結成の際創立委員・総務委員、同年第 4 次伊藤内閣法相。日露戦争時渡米し対米工作をおこなう。維新史料編纂会総裁として「明治天皇記」編纂の功により 1934（昭和 8）年伯爵となる。日露戦争時渡米し、ハーバード大学時代の学友であったセオドア･ルーズベルト（Theodore Roosevelt：1858～1919）第 26 代大統領が影から支え、有利な講和の功労者として金子堅太郎の働きがあった。

なお、金子堅太郎少年は、林遠里が旧藩時代の砲術師範（当時の名は策兵衛）をしていた頃、砲術の指導を受けている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 3 月.491 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1986 年 11 月.41 頁.
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典＜改定新版＞』三省堂,1999 年 10 月.350

頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月.82 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　中央区編』海鳥社,1996 年 4 月.112 頁.

## 福本日南（誠）（ふくもと　にちなん）［1857（安政 4）～1921（大正 10）年］

安政 4 年福岡の地行生まれ。1879（明治 12）年司法省法学校を学内騒動によって原敬（はら　たかし）らの人々とともに退学となり、のちにのちに政教社同人となる。1889（明治 22）年「日本新聞」創刊と同時に記者となる。また、アジア問題に関心をもち 1890（明治 23）年にフィリッピンに渡るが、同士の死去により帰国する。1905（明治 38）年の 11 月玄洋社機関誌である九州日報の社長兼主筆、1908（明治 41）年 5 月の第 10 回総選挙に国民党から出馬して衆議院議員に当選し犬養毅（いぬかい　つよし）を助けている。1912（大正元）年政界を退き、1916（大正 5）年中央義士会を興した。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 3 月.1466 頁.
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典＜改定新版＞』三省堂,1999 年 10 月.1061 頁.
井上精三『博多郷土史事典』253～254 頁.

## 大隈言道（おおくま　ことみち）［1798（寛政 10）～1868（明治元）年］

大隈言道は福岡薬院安楽橋辺の米屋に生まれた。幼少時から二川相近（ふたかわすけちか）に歌と書を、広瀬淡窓（別紙）に漢学を学んでいる。安政 4 年歌風を京坂に広めようと大阪に上り国学者や歌人などと交際し、文久 3 年に草径集（そうけいしゅう）三巻を刊行している。また、70 歳で福岡に戻り今泉の池萍堂（ささのや）で歌道に専心する。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1986 年 11 月.29～30 頁.
三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典＜改定新版＞』三省堂,1999 年 10 月.224 頁
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 3 月.325 頁.
福岡シティ銀行広報室「天真爛漫に歌を革新した幕末の大歌人　大隈言道」『博多に強くなろうシリーズ　No.64　』福岡シティ銀行刊,1996 年 12 月.
柳猛直『福岡歴史探訪　中央区編』海鳥社,1996 年 4 月.149～152 頁.
西日本新聞社編『博学博多―ふくおか深発見―』西日本新聞社,2007 年 6 月.98～99 頁.

## 二川相近[松蔭]（ふたがわ　すけちか[しょういん]）[1767（明和 4）～1836（天保 7）年]

二川相近は福岡藩の学者で、亀井南冥の門に入り詩文を学び、田尻梅屋に和歌を学んでいる。専心書道を研鑽して書家となり、和漢書法を伝える『執筆法』を著している。また、相近は音曲を好み、今様詞章集である『鴫（しぎ）の羽根がき』を編集し、家集に『聴雨録藁』および『松陰歌集』があるとのことである。


新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1517 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．224 頁.

西日本新聞社編『博学博多―ふくおか深発見―』西日本新聞社,2007 年 6 月.174～175 頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1986 年 11 月.257 頁.


## 亀井南冥（かめい　なんめい）[1743（寛保 3）～1814（文化）11 年]

亀井南冥は 1743（寛保 3）年、現在の福岡市西区姪の浜 3－15－9 の医師の家に生まれた。1784（天明 4）年福岡藩校の東学問所「修猷館」（朱子学）とともに開設された西学問所「甘棠館（かんとうかん）」の学長となった。その後、朱子学が尊ばれるようになり、1792（寛政 4）年に甘棠館をやめさせられ、また甘棠館も火災になり廃校となったとのことである。

南冥は奥村玉蘭、高場乱や広瀬淡窓（1782～1856 年：日田の豆田の咸宜園（かんぎえん）を開き、高野長英や大村益次郎などの人材を輩出している。）などの人材を育成している。また、南冥は金印を鑑定したことで有名である。能古島の能古博物館には亀井一門の資料の保存・展示がなされている。


新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．510 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．361～362 頁.

西日本新聞社編『博学博多　ふくおか深発見』西日本新聞社,2007 年 6 月.90～91 頁.


## 亀井昭陽（かめい　しょうよう）[1773（安永 2）～1836(天保 7）年]

昭陽は父親南冥の長男であり、父親の失脚後家督を継いでいる。1806（文化 3）年江戸に遊学する。父親を継いで徂徠学を奉じ家学（かがく：その家で親子代々にわたって受け継いできた学問）を完成させている。また、南冥とともに私塾百道（ももぢ）社を作って門弟の育成をおこなっていたとのことである。


新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．510 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．361～362 頁.

## 奥村玉蘭（おくむら　ぎょくらん）［1761（宝暦 11）～1828（文政 11）年］

福岡中島町（現在の中洲）にあった醤油醸造業（中島醤油）の 3 代目当主で、亀井南冥・昭陽に師事し、絵を佐伯岸岱[さえき　がんたい ; 1785（天明 5）年～1865（慶応元）年：岸駒（がんぐ）の長男で、岸岱の作品は、父親の作品と同様、現在オークションで人気を博している。]に学んでいる。玉蘭は商人でありながら、多くの学者や文人と交友し、著書『筑前名所図会』十巻を出している。これは玉蘭が伊勢神宮参拝の折諸国で名所図会が出版されているのを知って執筆されたもので、福岡藩内の街道筋の家並みや風景、神社仏閣などを写生して挿絵による解説と、貝原益軒の『筑前国続風土記』と同様、史跡名勝の解説がなされている。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月.33～34 頁.
西日本新聞社編『博学博多―ふくおか深発見―』西日本新聞社,2007 年 6 月.94～95 頁.

## 加藤司書（かとう　ししょ）[1830（天保元）～1865（慶応元）年]

加藤司書は 2,800 石の福岡藩士加藤徳裕の子で、福岡藩尊攘派の中心人物の 1 人である。安政年間（1854～59 年）に中老から執政に進み、藩政改革につとめた。しかし、長州藩の志士と交わり福岡藩尊攘派の中心人物の 1 人となる。第 1 次長州戦争のときには、征長軍の解兵のために奔走し、その後西郷隆盛らと薩長連合のため尽くすが、佐幕派が藩論を握るに及び閉門切腹となった。平尾山荘において、司書は高杉晋作との会見をおこなっている。

加藤司書は早良郡金武村、筑紫郡岩戸村および日佐村平原等の領地に赴き、農民とともに酒を酌み交わすことを楽しみとしているとの記述があり、勤王主義とともに平等思想を有していた人物であった。

司書会編『加藤司書傳』司書会,1934 年 4 月（復刻版）．1 ～11 頁,39 頁,115～121 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．480～481 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．343 頁.

## 月形洗蔵（つきがた　せんぞう）［1828（文政 11）～1865（慶応元）年］

月形洗蔵は幕末期の福岡藩士の志士で朱子学者でもあり、藩校修猷館の訓導にも任用されたとのことである。早くから父親とともに尊攘を唱え、1860（万延元）年藩政批判の建言を

して、翌年家禄没収のうえ幽閉となった。1864（元治元）年に許され、その後薩長融和、征長軍解兵を運動、翌年三条実美（さんじょう　さねとみ：1415～1483：尊攘派公卿の中心人物）ら 5 卿が大宰府に移る際に尽力している。1865(慶応元)年藩論一変して枡小屋町（現在の唐人町）で死罪に処せられた。洗蔵は、他の福岡勤王派とは異なり、儒学の思想から秩禄制度の崩壊を防ぎたいが、討幕の勤王派との板挟みにあっている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1135 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．813 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．145 頁.

## 貝原篤信[益軒](かいばら　あつのぶ[えきけん])[1630（寛永 7）年～1714(正徳 4)年]

貝原篤信は江戸前・中期の儒教者、博物学者および教育家であり、貝原楽軒の弟である。益軒と楽軒は宮崎安貞の『農業全書』の添削をし、巻十一「附録」を執筆している。

貝原益軒は 1648（慶安元）年に藩主黒田忠之公に仕えたが、藩主の怒りに触れて浪人となった。数年後に藩主黒田光之に仕え、命を受けて京都に約 7 年間遊学している。帰藩後、『黒田家譜』を編纂し、領内を巡検して『筑前国続風土記』を晩年をかけて完成させている。これらの他の著作物として『慎思録』、『養生訓』、『和俗童子訓』および『大和草本』がある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．434 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．309 頁.
岡田武彦監修『ふくおか人物誌（1）　貝原益軒』西日本新聞社,1993 年 7 月.

## 青柳種信（あおやぎ　たねのぶ）[1768（明和 3）～1835（天保 6）年]

青柳種信は江戸後期の国学者で、地行の足軽の家に生まれた。通称は勝次といい、号は柳園という。種信は本居宣長に師事していた。また、1812（文化 9）年伊能忠敬の筑前測量を補佐している。さらに、忠敬の委嘱を受けて『宗像宮略記』および『後漢金印略考』などを執筆し、『筑前国続風土記拾遺　上・中・下』を刊行している。種信の墓所は早良区祖原の顕乗寺の寺内に号で「柳園翁之墓」と刻まれた墓石がそれである。住職によれば、現在その墓には骨はないとのことであった。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．9 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．7 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 6 月．130～133 頁.

## 伊藤常足（いとう　つねたる）[1774（安永 3）～1858（安政 5）年]

伊藤常足は国学者である。家は代々鞍手郡古門村の古門村八剣神社の神官で、伊藤常成の次男として生まれた。長男が早世のため家を継ぐとともに、亀井南冥に儒学を学び、青柳種信に国学を学んだ。1804（文化元）年の 31 歳の時、大宰府管内 9 国 2 島の地誌編纂を志し、1841（天保 12）年に『太宰管内志』を完成させ、藩公に献上した。また、1830（天保元）年志摩郡桜井神社に文庫と学舎を設けて、子弟に教授している。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．178 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．127 頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．17～18 頁.

## 宮崎安貞（みやざき　やすさだ）[1623（元和 9）～1697（元禄 10）年]

宮崎安貞は江戸前期の農学者で、1623 年に安芸国広島藩士であった宮崎儀右門の次男として生まれた。25 歳の時、福岡藩主黒田忠之に山林奉行として仕えたが、若くしてその職を辞して福岡藩を離れ、九州・山陽・近畿といった諸国を巡り農事研究を積み重ねた。現在の福岡市西区女原に帰り、郷土の農業改善や農民生活の向上などに貢献している。わが国初の農書である『農業全書』（全 10 巻）を 1696（元禄 9）年に刊行している。その翌年の 1697 年に 75 歳で亡くなったとのことである。

宮崎安貞『農業全書　巻一～巻五』農山漁村文化協会,2001 年 5 月.

宮崎安貞『農業全書　巻六～巻十』（含：貝原楽軒・益軒の巻十一「附録」）農山漁村文化協会,1998 年 3 月.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1688 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．1221 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　西区編』海鳥社,1995 年 6 月．135～139 頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．272～273 頁.

## 伊佐治八郎（いさ　じはちろう）[1847（弘化 4）～1907（明治 40）年]

伊佐治八郎（いさ　じはちろう）は弘化 4 年に小田部の農家の長男として生まれた。この伊佐家の先祖は安楽平城主の家臣の一人であり、落城後小田部に住みつき、代々農業を営んできた。治八郎は篤農家でありながらも横井時敬の指導を受けて新しい農法を身につけた。治八郎は山形県酒田の本間家から招かれ乾田化と馬耕とを用いる筑前農法を指導している。その農法を酒田の篤農家である阿部亀治によって、冷害に強い稲穂を見つけ、それを品種改良して「亀の尾」という明治三大品種（他に「神力」と「愛国」）の一つを開発している。

大西伍一『改訂増補　日本老農伝』農山漁村文化協会,1985 年 12 月.643 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 6 月．85～91 頁.

## 林遠里（はやし　えんり）[1831（天保 2）～1906（明治 39）年]

林遠里（はやし　えんり）は明治三大老農の一人で、早良郡鳥飼村生まれの旧福岡藩士である。祖父は林掃部直利（はやし　かもんなおとし：黒田二十五騎の一人）である。遠里は 1865（慶応元）年に鉄砲術の指導者となったが、廃藩によって 40 歳のとき早良郡重留に移り稲作の研究をおこなっている。とくに種籾（たねもみ）の貯蔵「土囲法」と予措（よそ）「寒水浸法」を陰陽論を用いて説いた『勧農新書』を 1877（明治 10）年に刊行している。私塾である「勧農社」を 1883（明治 16）年に設立し、「筑前農法」あるいは「西南農法」の普及と無床犂（むしょうすき）である「抱持立犂（かかえもつたてすき）」の操作を指導する馬耕教師の養成をおこない、社員として全国に派遣している。遠里自らも各地を講演旅行し、1889（明治 22）年にはドイツのハンブルグで開かれた共進会の日本代表として渡欧し、フランス、イタリア、アメリカを回って 1890（明治 23）年 3 月に帰国している。遠里農法は政府要人の支持を得て隆盛を得たとのことであるが、1887 年以降（明治 20 年代）に横井時敬との稲作論争に敗れ衰退していったとのことである。この時代の農法は磯野や深見という梵鐘などを鋳造していた博多の鋳造所の技術が新しい農具を製作したことと大いに関係があるものと思われる。

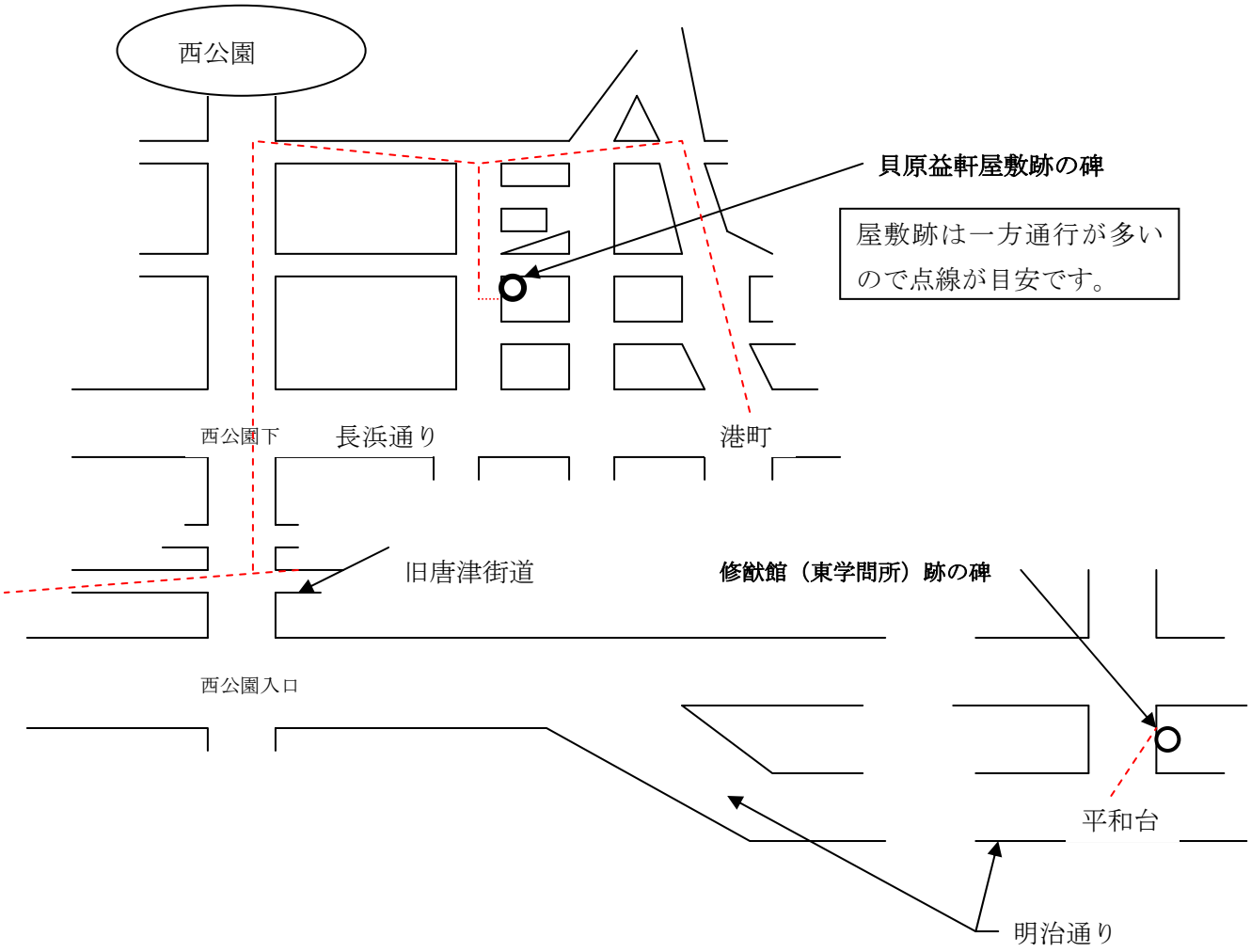
林遠里「勧農新書」『明治農書全集　第一巻』農山漁村文化協会,1983 年 8 月.17～58 頁.
大西伍一『改訂増補　日本老農伝』農山漁村文化協会,1985 年 12 月.547～582 頁.
西日本文化協会編纂「近代史料編　林遠里・勧農社」『福岡県史』福岡県,1992 年 3 月.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1394 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．1011 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．222 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 6 月．74～84 頁.

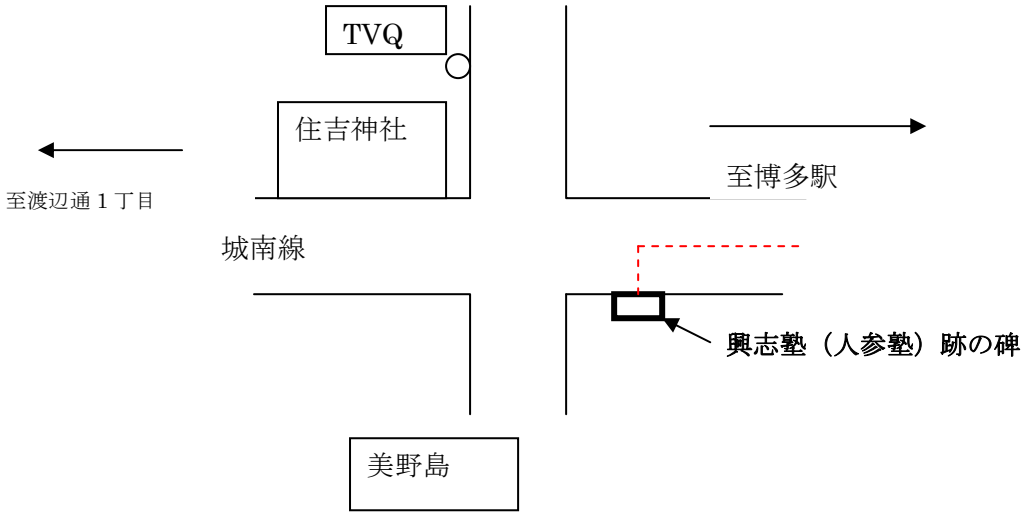
## 横井時敬（よこい　ときよし）[1860（万延元）～1927（昭和 2）年]

横井時敬（よこい　ときよし）は肥後（現在の熊本）生まれで、明治･大正期の農業指導者である。時敬は駒場農学校（現東京大学農学部）を卒業し、福岡農業校教諭となり、その後福岡県勧業試験場長を経て、1900（明治 33）年に東京帝国大学教授となった。さらに、その後東京農業大学の初代学長となった。時敬は種籾の「塩水撰法（えんすいせんほう）」を開発した。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1819 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月. 1315 頁.
横井時敬「重要作物　塩水撰法」『明治農書全集　第一巻』農山漁村文化協会,1983 年 8 月.59～98 頁.

貝原益軒屋敷跡の碑（福岡市中央区荒戸１丁目 11－10）
修猷館（東学問所）跡の碑（福岡市中央区赤坂１丁目 16－14）
興志塾（人参塾）跡の碑（福岡市博多区博多駅前４丁目４－21　グリーンビル前）



貝原益軒屋敷跡の碑

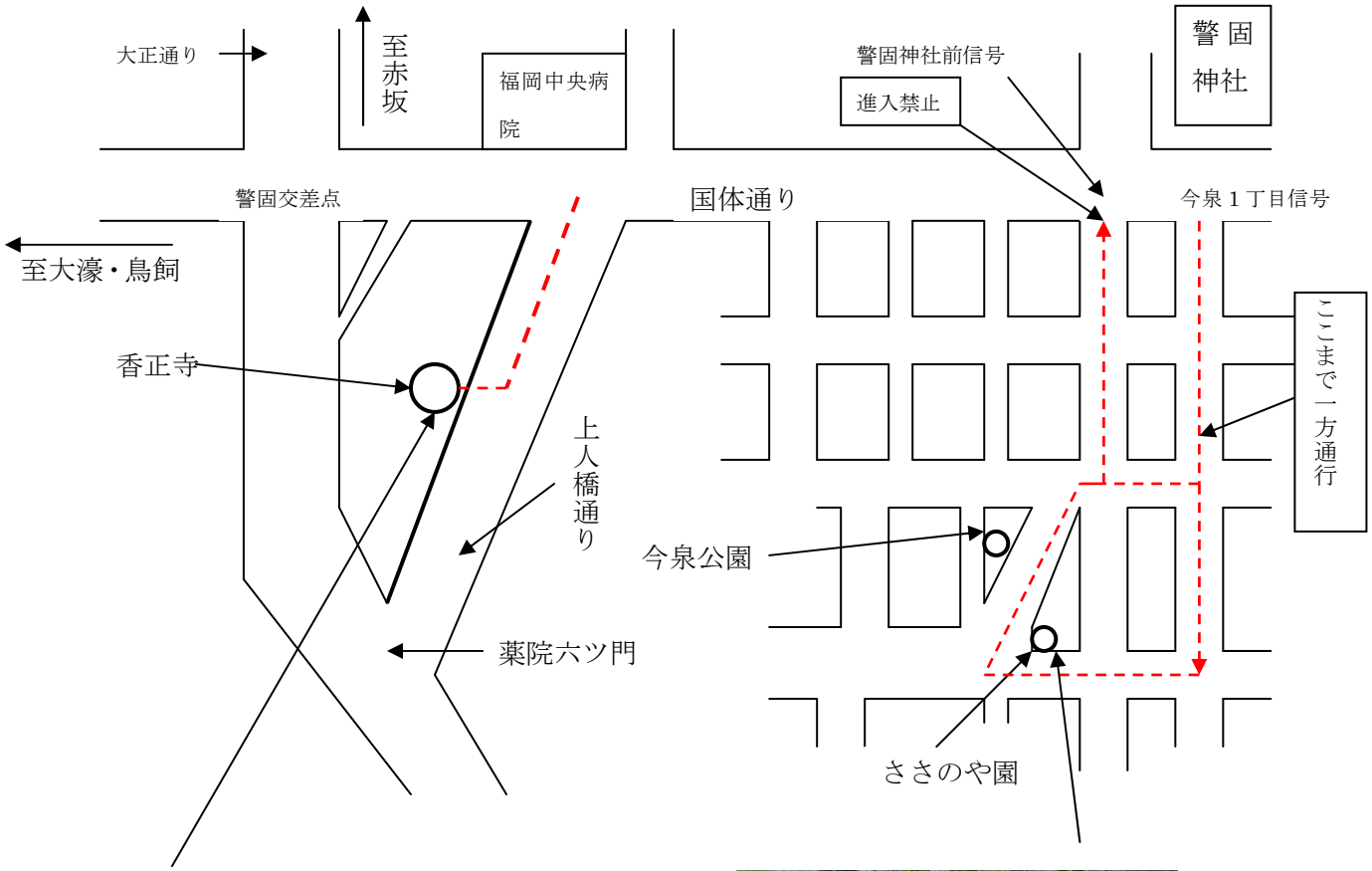
貝原益軒屋敷跡の碑

修猷館（東学問所）跡の碑

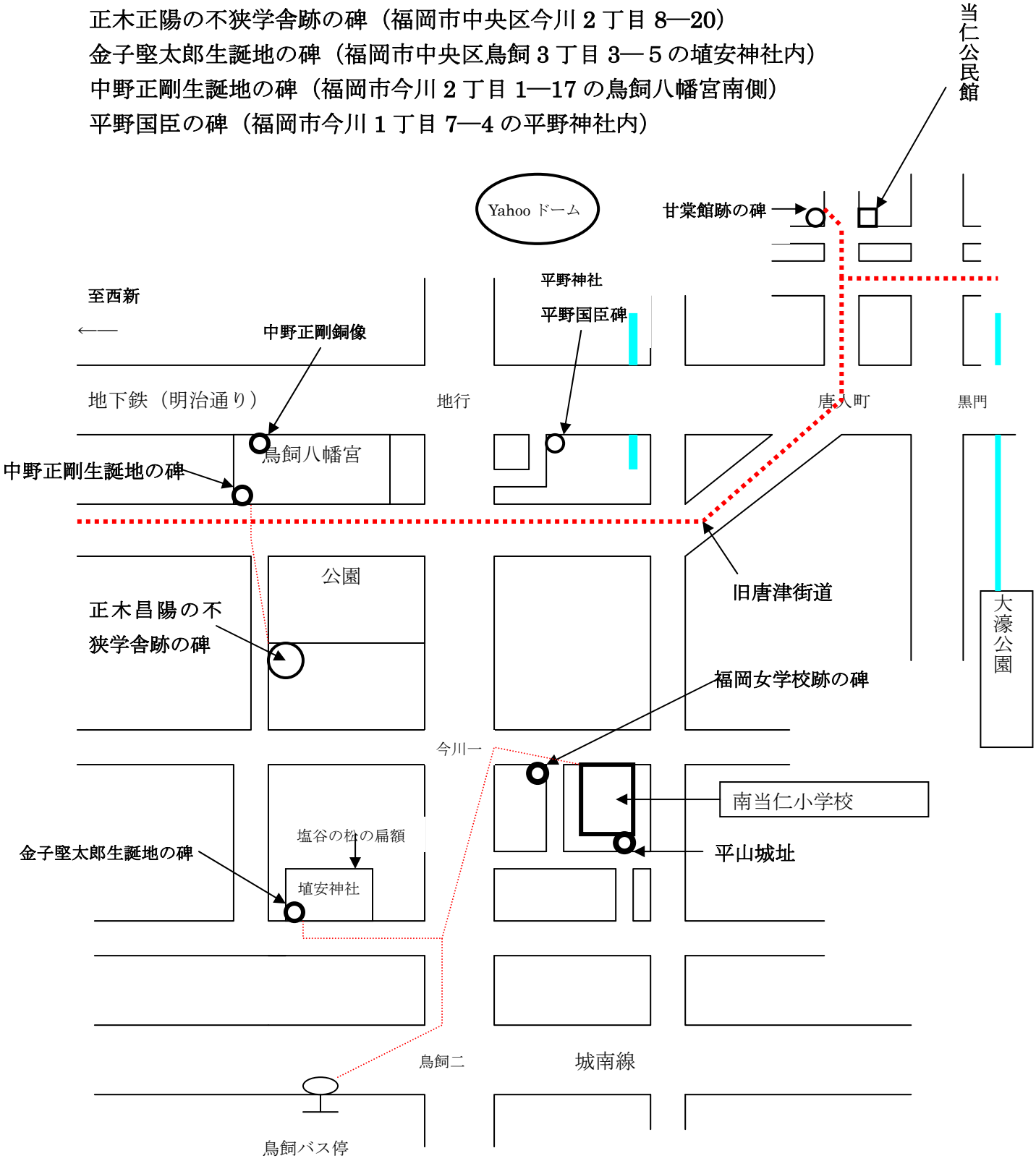
興志塾（人参塾）跡の碑

修猷館（東学問所）跡の碑

大隈言道墓所（福岡市中央区警固１－５－32：香正寺内）
大隈言道歌碑（福岡市中央区今泉１－８：今泉公園南東のささのや園）



甘棠館（西学問所跡）（福岡市中央区唐人町３丁目 1―11 の当仁公民館付近）
平山城址跡（福岡市中央区鳥飼２丁目 4―61 付近）
正木正陽の不狭学舎跡の碑（福岡市中央区今川２丁目 8―20）
金子堅太郎生誕地の碑（福岡市中央区鳥飼３丁目 3―５の埴安神社内）
中野正剛生誕地の碑（福岡市今川２丁目 1―17 の鳥飼八幡宮南側）
平野国臣の碑（福岡市今川１丁目 7―4 の平野神社内）



甘棠館（西学問所跡）

甘棠館（西学問所跡）

平山城址跡（南当仁小付近）

福岡女学校跡の碑

正木正陽の不狭学舎跡の碑

金子堅太郎生誕地の碑

金子堅太郎生誕地の碑

埴安神社（金子堅太郎生誕地と塩屋の松の扁額）

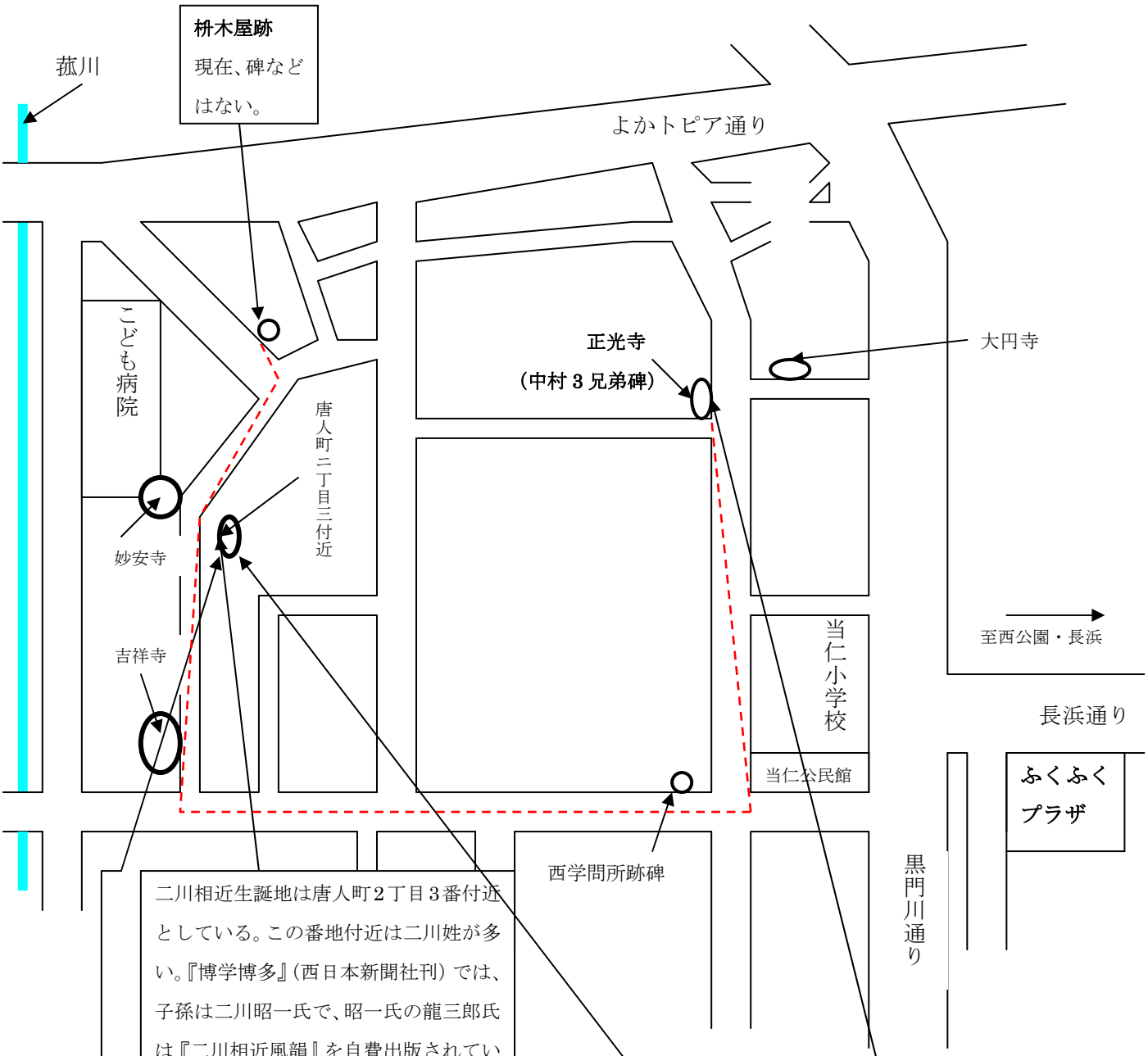
中野正剛生誕地の家（鳥飼神社）

平野神社

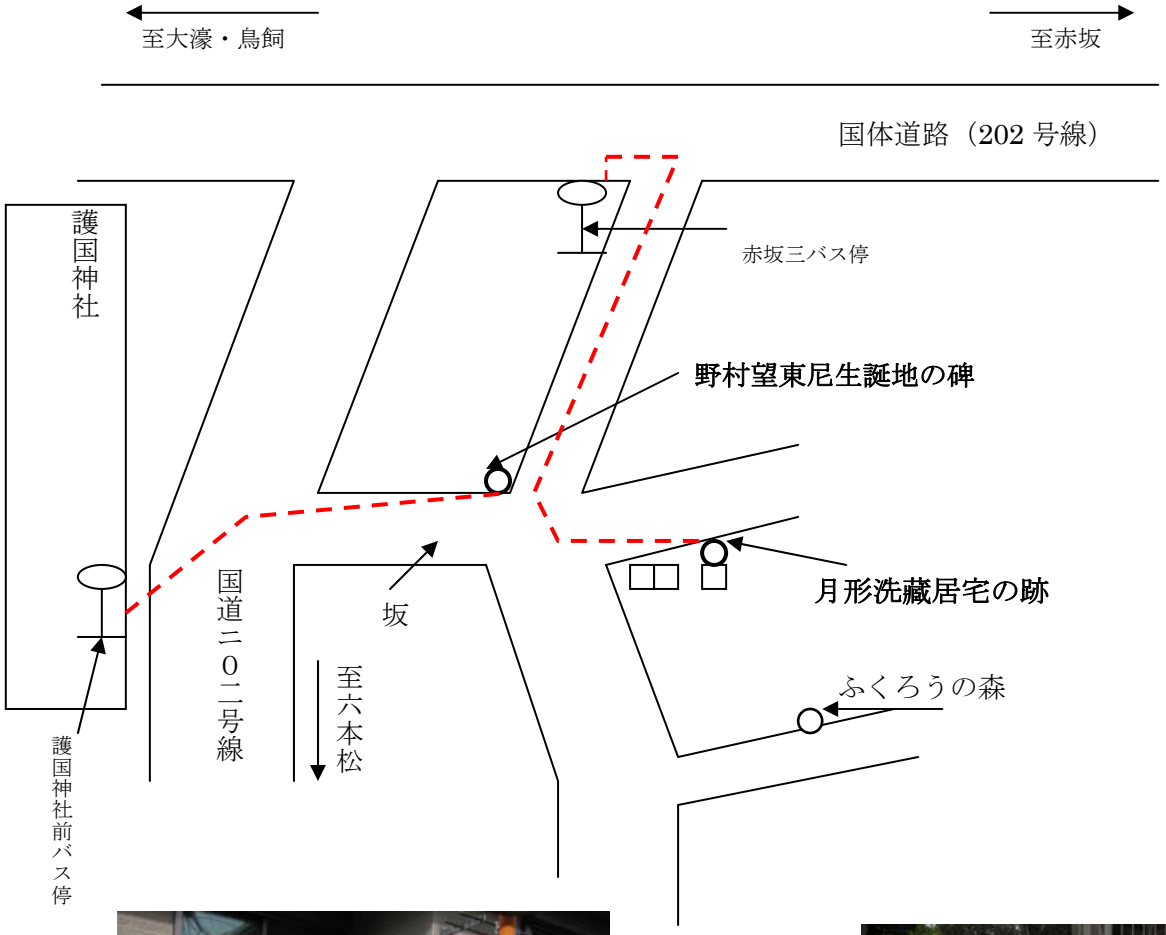
平野国臣生誕地の碑

| 場　　所 | 累　積　歩　数 | 歩　　数 |
|---|---|---|
| 福岡市早良区重留 3 | 0 歩 | 0 歩 |
| 西油山中央公園前 | ・ | ・ |
| 梅林 7 丁目 | ・ | ・ |
| 福大グランド | ・ | ・ |
| 地下鉄福大 | 5600 歩 | 5600 歩 |
| 地下鉄七隈 | 6491 歩 | 891 歩 |
| 地下鉄金山 | 7632 歩 | 1141 歩 |
| 地下鉄茶山 | 8922 歩 | 1290 歩 |
| 地下鉄別府 | 10110 歩 | 1188 歩 |
| 埴安神社 | 11847 歩 | 1737 歩 |
| 正木昌陽（今川 2－8―20） | 12874 歩 | 1027 歩 |
| 地行交差点 | 13200 歩 | 326 歩 |

二川相近生誕地（福岡市中央区唐人町２丁目３番付近）
枡木屋跡（福岡市中央区唐人町２丁目７番付近：こども病院裏付近）
中村３兄弟の碑（福岡市中央区唐人町３丁目３番40号の正光寺）



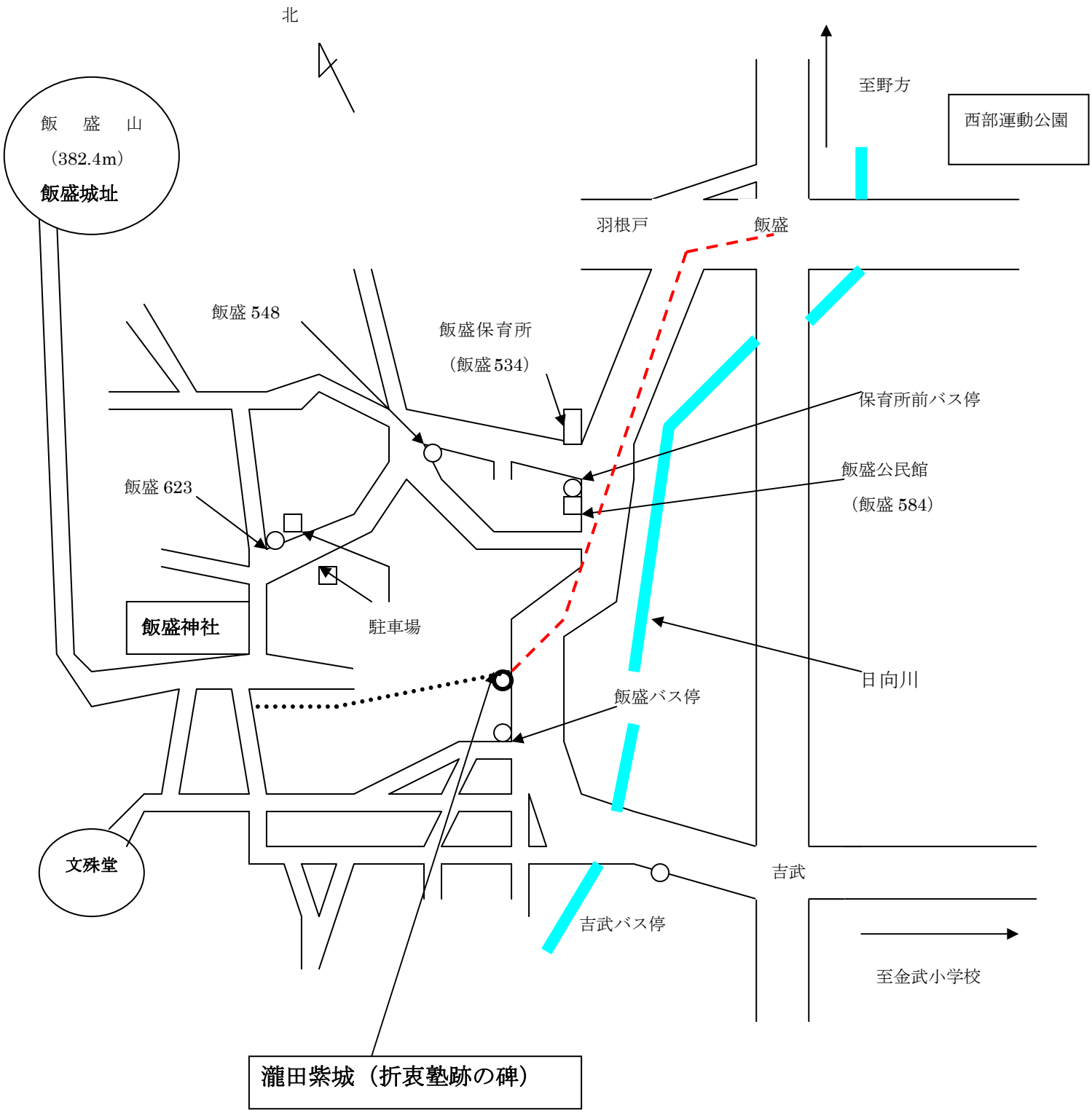
月形洗藏居宅の跡の碑（福岡市中央区赤坂 3－3－24）
野村望東尼生誕地の碑（福岡市中央区赤坂 3－4－3 付近）



野村望東尼生誕地の碑

月形洗藏居宅の跡の碑

瀧田紫城（折衷塾跡の碑）（福岡市西区吉武 578 付近）



西区吉武にある折衷塾（瀧田紫城）の碑

西区吉武にある折衷塾（瀧田紫城）の碑：飯盛神社下

福岡市立金武中学校（福岡市早良区3-4-3）の玄関にある瀧田紫城の写真

金武中学校の玄関にある瀧田紫城の写真；その隣は老農林遠里先生の写真

# 第Ⅲ部　那珂川町散策マップ記と他地域の山城散策マップ記について

第Ⅰ部では香椎地域についての史跡名勝を、第Ⅱ部では近代日本の礎となった福岡３私塾とその関係する人々について、それぞれ解説をおこなった。第Ⅲ部では第Ⅰ部および第Ⅱ部との関連性がある那珂川町の史跡名勝と、第Ⅰ部から第Ⅲ部までの山城と関係があるものを取り上げている。

福岡県筑紫郡那珂川町は福岡市南部にあり、第Ⅰ部および第Ⅱ部で解説した地域と同様、史跡名称が多く存在している地域でもある。しかも那珂川町の歴史は重要なものが多く、ここで紹介するのは第Ⅰ部および第Ⅱ部で解説した項目と直接的・間接的に関係があるものを取り上げている。特にここで取り上げた山城は、那珂川町の鷲ケ岳城址（安楽平城主小田部鎮元の父親の大鶴九郎鎮正宗雲：本書では取り上げていない）は福岡市早良区の安楽平（荒平）城址、福岡市東区・糟屋郡新宮町の立花城址、太宰府市の岩屋城は大友５城のうちの４城であることと、最近の健康志向ブームもあり標高 500 メートル以下の山城で散策し易いことで取り上げている。また、岩戸城は北条時宗の執権時代におこった元寇の役で活躍し、その後兄弟で争って敗れた少弐景資（しょうに　かげすけ）が城主であった。元寇の役のときの戦争絵巻である「蒙古襲来絵詞（もうこしゅうらいえことば)」のなかの一部に「塩屋の松」という地名が書かれているが、この地名は福岡市中央区鳥飼にある埴安神社の扁額がその松でできているということであり、神社の境内には第Ⅱ部で解説した金子堅太郎生誕地の碑がある。那珂川町の「裂田の溝（さくたのうなで)」の開通は第Ⅰ部で解説した武内宿禰が祈祷によって大磐を砕いたとの伝承がある。栄西禅師および神道夢想流杖術など第Ⅲ部で取り上げている項目もなんらかの関係があるため取り上げている。

第Ⅲ部で取り上げている山城関係で那珂川町以外の山城等に関する解説の詳細は拙著『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』および『続　早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』をご覧いただきたい。第Ⅲ部はそこからの引用のものがある。

（１）那珂川町散策マップ記

## 少弐景資（しょうに　かげすけ）[？～1285(弘安 8)年]、岩門城址

少弐（武藤）景資は、少弐資能[しょうに　すけよし：1198（建久 9）～1281（弘安 4）年]の 3 男で、文永・弘安の役に活躍している。1274（文永 11）年蒙古軍の筑前上陸のときに、大将軍として守護・地頭等を指揮した。また、1281（弘安 4）年の際にも船団数百隻で蒙古軍に攻め込み戦功をあげた。鎌倉で霜月騒動の影響下に起こった岩戸合戦においては、安達氏との結びつきを強め、兄である経資（つねすけ）と家督を争って岩戸城で敗死したとのことである。福岡県那珂川町大字 476 の民家の庭先に少弐景資の墓（五輪の塔）がある。

三省堂編集編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月.644 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.909 頁.
川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.18～21 頁.130～131 頁.
貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.541 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月. 447 頁.
廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.283～285 頁.

## 裂田神社

祭神は神功皇后とのことで、迹驚岡（とどろきのおか）に水を通そうとしたところ大岩盤のため溝を掘れなかったのを武内宿禰が神に祈ると雷鳴が轟いてその大岩盤が炸裂したといわれている。その炸裂した大岩盤は裂田神社の裏にある。

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.168 頁.
堀淳一『地図で歩く古代から現代まで』JTB,2002 年 1 月.60 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　上巻』文献出版,1993 年 6 月. 342 頁.

## 裂田溝

那珂川の上流、山田地区の「一の井手」から取水し、山田地区の住宅地および田園と岩戸城址の麓、裂田神社の裏、安徳台（迹驚岡）を通って、最後はまた那珂川へつづく約 1.5 キロメートルを「裂田溝（さくたのうなで）」という。裂田溝は古代灌漑水路であるが、現在もこの地区の重要な水路であり、公園化とともにいっそうの整備がなされている。裂田神社のところで記述しているように武内宿禰との関係が言われているが、活断層との関係も言われている（参考文

献の堀淳一の 60 頁参照)。

堀淳一『地図で歩く古代から現代まで』JTB,2002 年 1 月.60～66 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　上巻』文献出版,1993 年 6 月. 345～346 頁.
貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.133～134 頁.
川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.56～57 頁.

## 高橋善蔵[1684（貞享元）～1761（宝暦 11）年]

高橋善蔵は山田村に生まれている。当時より、この山田村は肥前神埼と坂本峠を経由して筑前博多とを結ぶ中間点であり、また大宰府と早良や糸島とを結ぶ交通の要衝であるとともに裂田溝もあり比較的裕福な地に生まれている。高橋善蔵は山田村の庄屋になり、地域農業の発展に寄与している。1730（享保 15）年肥後や薩摩でハゼ栽培が盛んになされていることを知ると、その技術を学ぶために薩摩に出かけたとのことであった。そして、宗旨手形（しゅうしてがた：寺請け状）が必要なことや、自国の殖産技法が他国へ洩れることを禁止していたため、高橋善蔵らはにぎり飯のなかにハゼの実を入れて持ち帰ったといわれている。筑前にかぎらず全国的に 1730（享保 15）年以降大飢饉が起こっているが、山田村では大きな犠牲者は出ていないということである。それは当時の山田村が裕福で、庄屋を中心に助け合っていたからであるとのことである。

福岡藩がハゼの栽培を奨励したのは 1736～1744 年のころとのことである。ここに高橋善蔵の功績があったということである。福岡藩の産物はハゼ、焚石(たきいし)および卵であり、「旅行商人(たびゆきしょうにん)」が福岡藩のこれらの産物を伊万里で販売し、陶磁器を仕入れて全国一円に船で販売していたことと一致している。

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.116～126 頁.
内山敏典「徳川幕府期における伊万里焼国内流通の研究―筑前における陶器商人の役割を例として―」『九州産業大学　柿右衛門様式陶芸研究センター論集』柿右衛門様式陶芸研究センター,2008 年 3 月.11～25 頁.

## 高津神社

高津神社は、岩戸城址の中腹に位置し、そこにある茶臼石付近が出城としての役割を果たしてきたが、元々は平安時代にこの地を治めていた原田種直が怡土（いと：現在の前原市）

の高祖（たかす）神社を勧請したのが始めである。

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.163 頁.

## 安徳台と安徳宮

安徳台は往古において迹驚岡若しくは御所ケ原といわれ、平安期において大蔵氏と関係がある土地で原田種直の居館があったところである。原田種直は寿永年間（1182－85 年）に 3,700　町歩（10 万平方メートル）を有し、大宰権少弐といわれた。また、源氏に追われた安徳天皇が平家一門に守られて居したところである。現在はミカンと栗畑であるが、以前はハゼが植えられていたとのことであった。この安徳台は溶岩台地で 10 数メートルの高さの大地でここに安徳天皇を祭る安徳宮がある。この近くに大塚古墳がある。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　上巻』文献出版,1993 年 6 月. 342～345 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.132～133 頁.

## 貝原和軒（かいばら　わけん）

貝原和軒（常春）は貝原益軒の兄楽軒（らくけん）の子である。和軒は青年時代、貝原益軒の養子になったが故あって家出し晩年に那珂川町西隈の地に住み着いたとのことである。和軒は儒学者であり、西隈の近隣農村の子弟に学問を教えている。

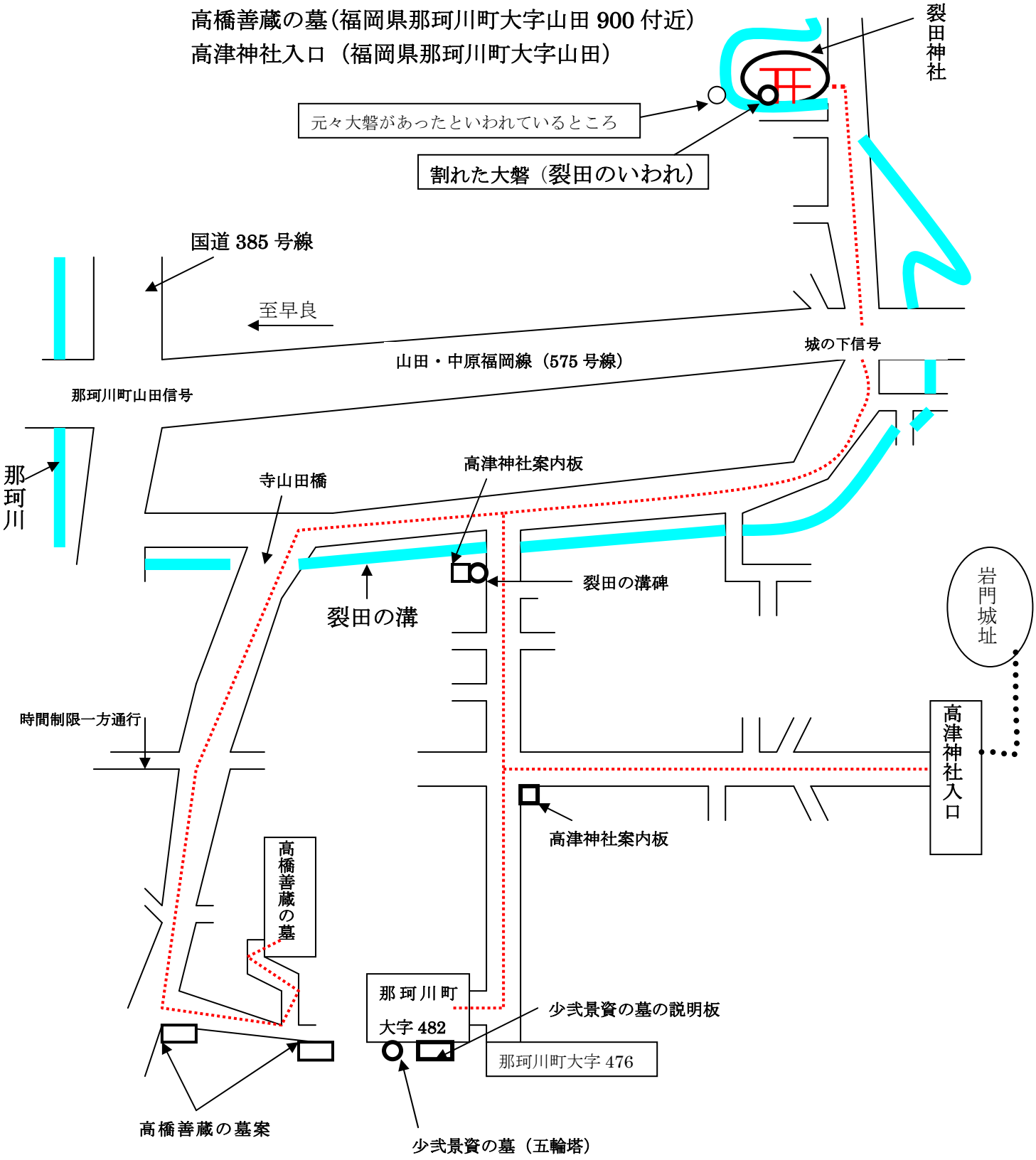
川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社,2001 年 4 月.132～133 頁.

## 西隈の防水門

大正期以前から、那珂川に大雨が降ると山が迫って狭くなっている風見付近がすぐ洪水になり、西隈区に水が押し寄せてきたのでこれを防ぐために造られたのが西隈の防水門である。

那珂川町教育委員会の説明版より

少弐景資の墓（福岡県那珂川町大字 476）
裂田神社（福岡県那珂川町大字安徳）
裂田の溝（福岡県那珂川町大字山田・安徳）
高橋善蔵の墓(福岡県那珂川町大字山田 900 付近)
高津神社入口（福岡県那珂川町大字山田）



裂田神社にある「裂田の溝」の説明版

裂田神社

裂田神社裏にある裂田の溝

裂田神社内の絵馬

武内宿禰の祀り祈りの落雷で割れた大磐 1

神社裏

武内宿禰の祀り祈りの落雷で割れた大磐 2

神社裏

元々大磐があった場所といわれているところ。神社裏

大字山田の「裂田の溝」とその碑

大字山田の「裂田の溝」からの岩門城址遠望

高津神社入口

少弐景資の墓の説明版

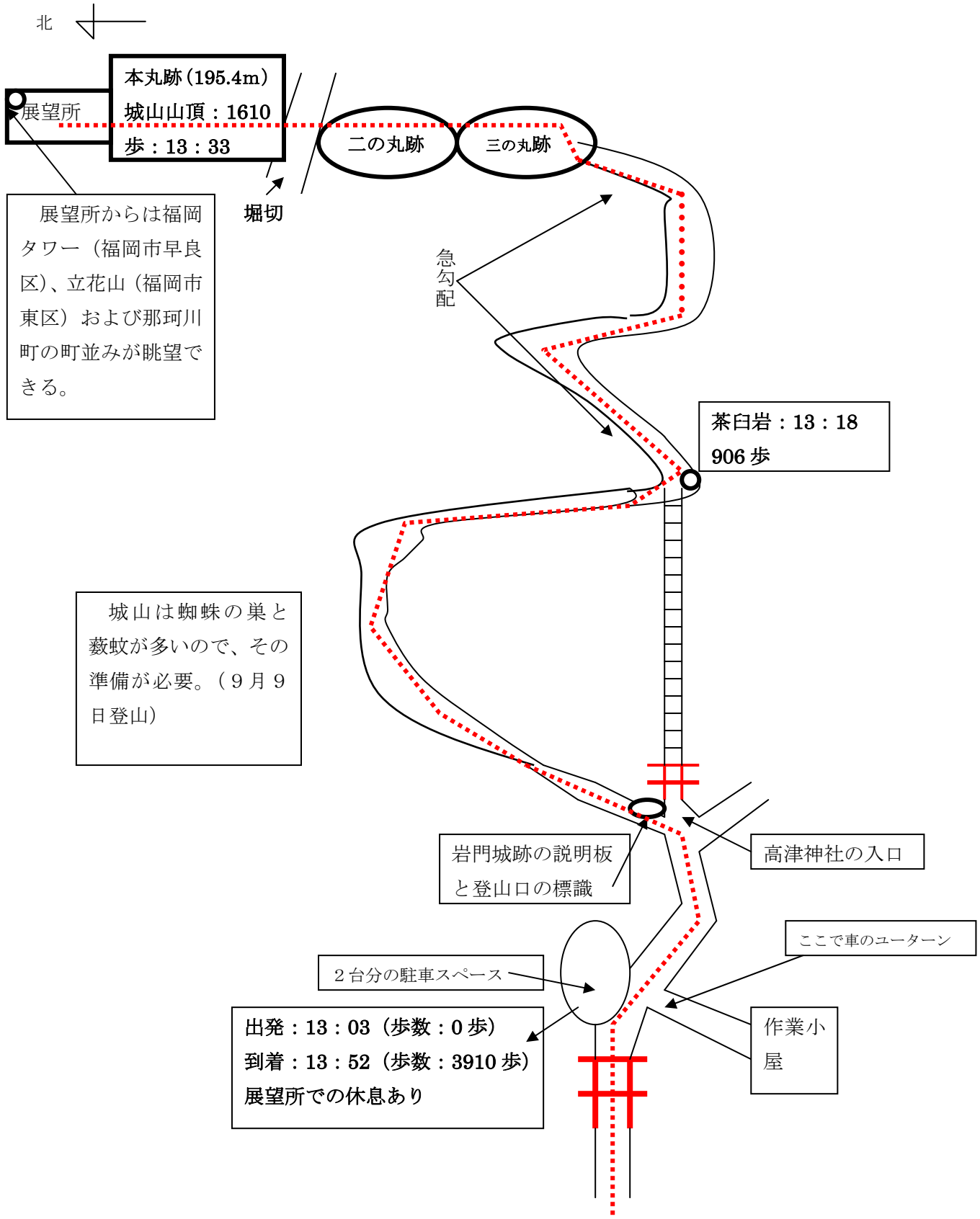
少弐景資の墓（五輪の塔）

高橋善蔵の墓の案内板

高橋善蔵の墓の説明板

高橋善蔵の墓

# 岩門城址（福岡県那珂川町安徳）



高津神社入口と登山口の標識

登山道案内矢印

茶臼岩

茶臼岩

三の丸跡

二の丸跡

堀切

堀切

本丸跡

本丸跡

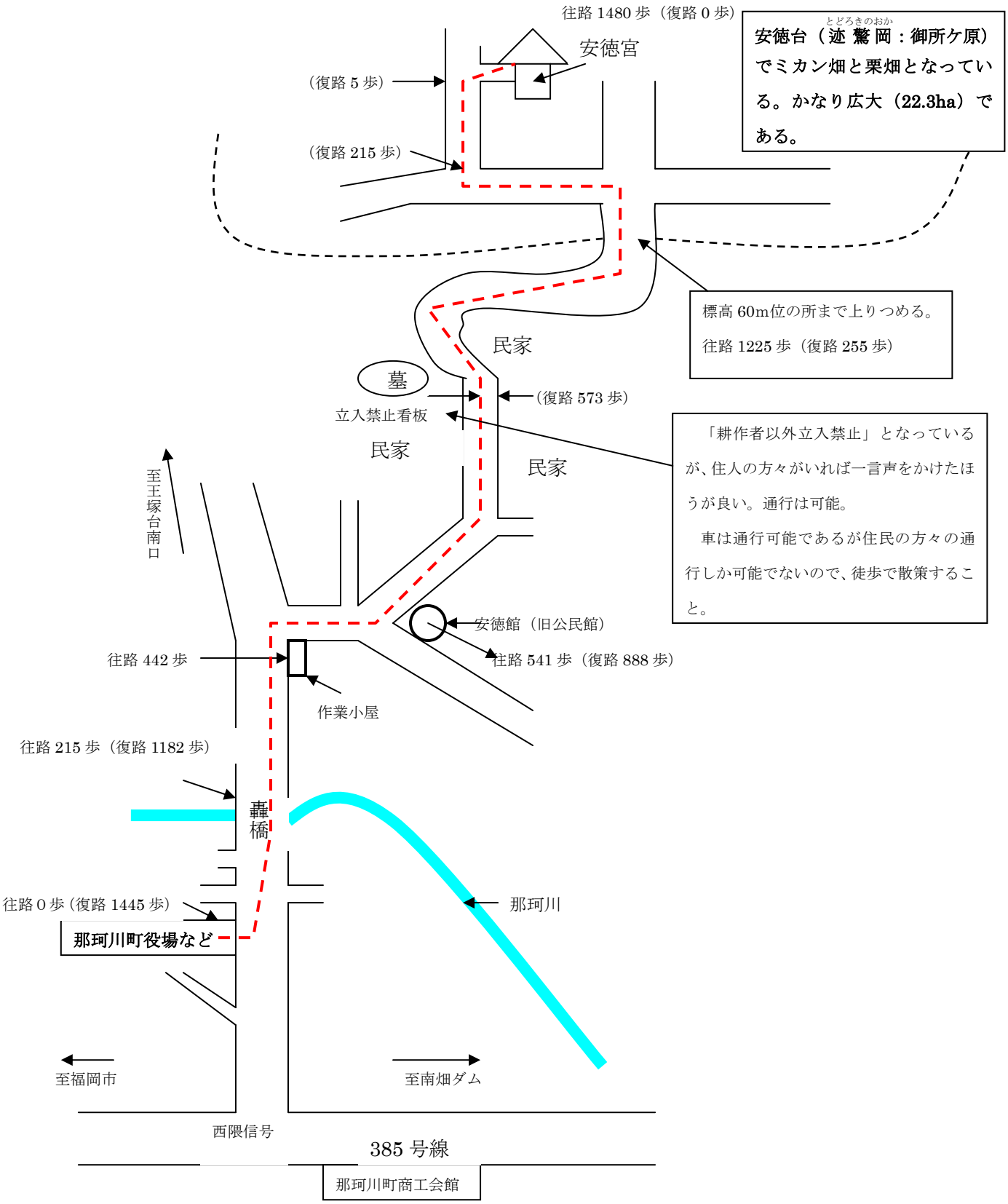
本丸下（西側）の展望所から福岡タワー方面と那珂川町の町並み

本丸下（西側）の展望所から立花山方面と那珂川町の町並み

本丸下の北側にある展望所

岩門城址（城山）遠望

# 安徳台と安徳宮（筑紫郡那珂川町大字安徳：安徳区）



安徳館（旧公民館）から安徳台を遠望

安徳台登り口の立入禁止の板

安徳台の登り坂

安徳台登り詰めたところのミカン畑

安徳台のミカン畑と栗畑

安徳宮 1

安徳宮の由来

祭神　安徳天皇（治承二年～寿永四年、一一七八～一一八五）

所在地　福岡県筑紫郡那珂川町大字安徳三四八

安徳天皇は高倉天皇と平清盛の娘徳子（後の建礼門院）との第一皇子として誕生され、第八十一代天皇に即位されました。時を経ずして源平争乱が起こり、寿永二年（一一八三）追われた平氏一門と共に筑紫に難を逃れられました。

この頃、筑紫の豪族である原田種直は岩戸の在（現在の安徳）に館を構えていました。種直は内大臣平重盛の養女の婿で、その信頼厚く、大宰府の少弐という役職に就き権勢を振るっ

ました。天皇が筑紫に下られた時は、大宰府に程近い種直が領の御所に当てられることになったのです。このことが「安徳」の地名の起こりと伝えられています。

のあと天皇平氏一門と共に四国の屋島に渡られ、再起を

れますが、ついに寿永四年（一一八五）壇ノ浦で源義経の軍に敗れ、平氏の滅亡の時、母尼の二位尼（清

妻時子）に抱かれ入水されました。（まず和田平助太郎那珂川町）

徳寺を修み、祠を建てたのがこの地の「安徳宮」の起源と

なれ、また、新暦の四月二十四日のご命日には、天皇さま

ち、が現在に至るまで毎年と引き継がれて安徳講（氏）によ

行われています。

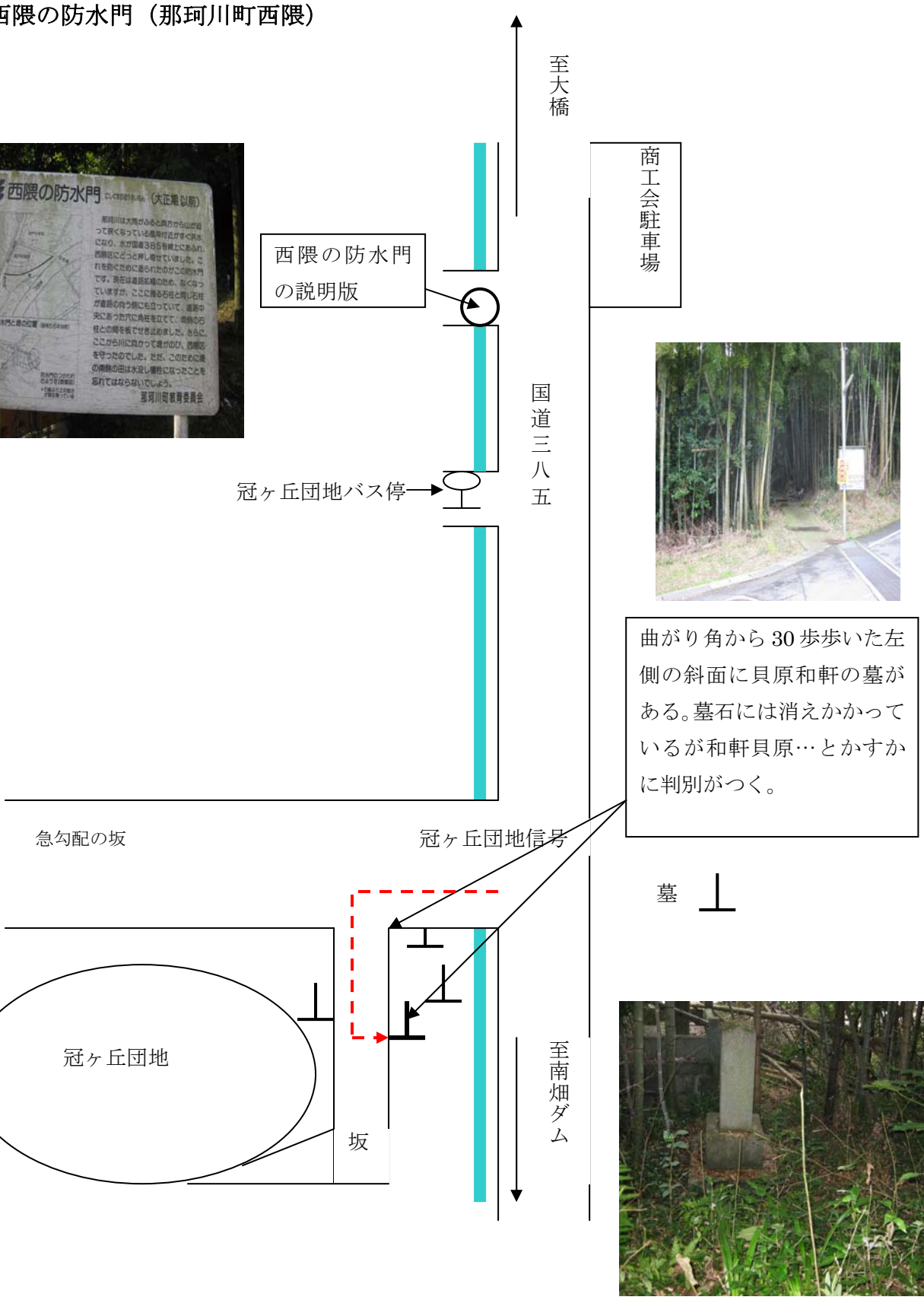
安徳区

那珂川町教育委員会

安徳宮の由来の案内板

安徳宮 2

貝原和軒の墓（那珂川町西隈）
西隈の防水門（那珂川町西隈）



（２）大宰府山城等散策マップ記

## 岩屋城址と高橋紹運の墓

高橋紹運（たかはし　じょううん）[1548（天文 17）～1586（天正 14）年]は大友氏の一族吉弘鑑理（あきまさ）の弟で、名は鎮種で、孫七郎や主膳正（かみ）と称し、剃髪して紹運となのっている。1569（永禄 12）年高橋鑑種（たかはしかねたね）のあとを継承した。筑前宝満、岩屋城主である。1584（天正 12）年筑後の猫尾城（黒木城）攻撃中、筑紫広門（つくしひろかど）に宝満城を占領されるが、和議を結ぶ。1586（天正 14）年岩屋城を島津氏に攻められ一人の逃亡者も出ずに城主のもとに全員玉砕している。岩屋城址は岩屋山にあり、それから南に下ったところに高橋紹運の墓がある。高橋氏の祖は高祖（たかす）城主原田泰種の次男に始まり、7 代長種に至って嗣子がなく、大友義鑑のはからいで大友一族の一万田左京太夫親敦の子左馬助を継がせている。左馬助は高橋三河守鑑種と名乗っている。高橋三河守鑑種は 1335（建武 2）年、足利尊氏が肥後の菊池氏をおさえるため設けた三検断の一家である。

当時、中国の毛利元就が北九州に勢力を伸ばしていたので、立花山城の立花鑑載（たちばなあきとし）を助けるために鑑種は宝満城と岩屋城を築いている。鑑種はその後大友宗麟に叛いており小倉城に移封された。大友氏の一族吉弘鑑理（あきまさ）の弟で、名は鎮種で、孫七郎や主膳正（かみ）と称し、剃髪して紹運となり、宝満城と岩屋城を守った。その後は上記である。

三省堂編集編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月.737 頁.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.1036 頁.
廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.278～280 頁.
貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.550～559 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　上巻』文献出版,1993 年 6 月. 451～452 頁.

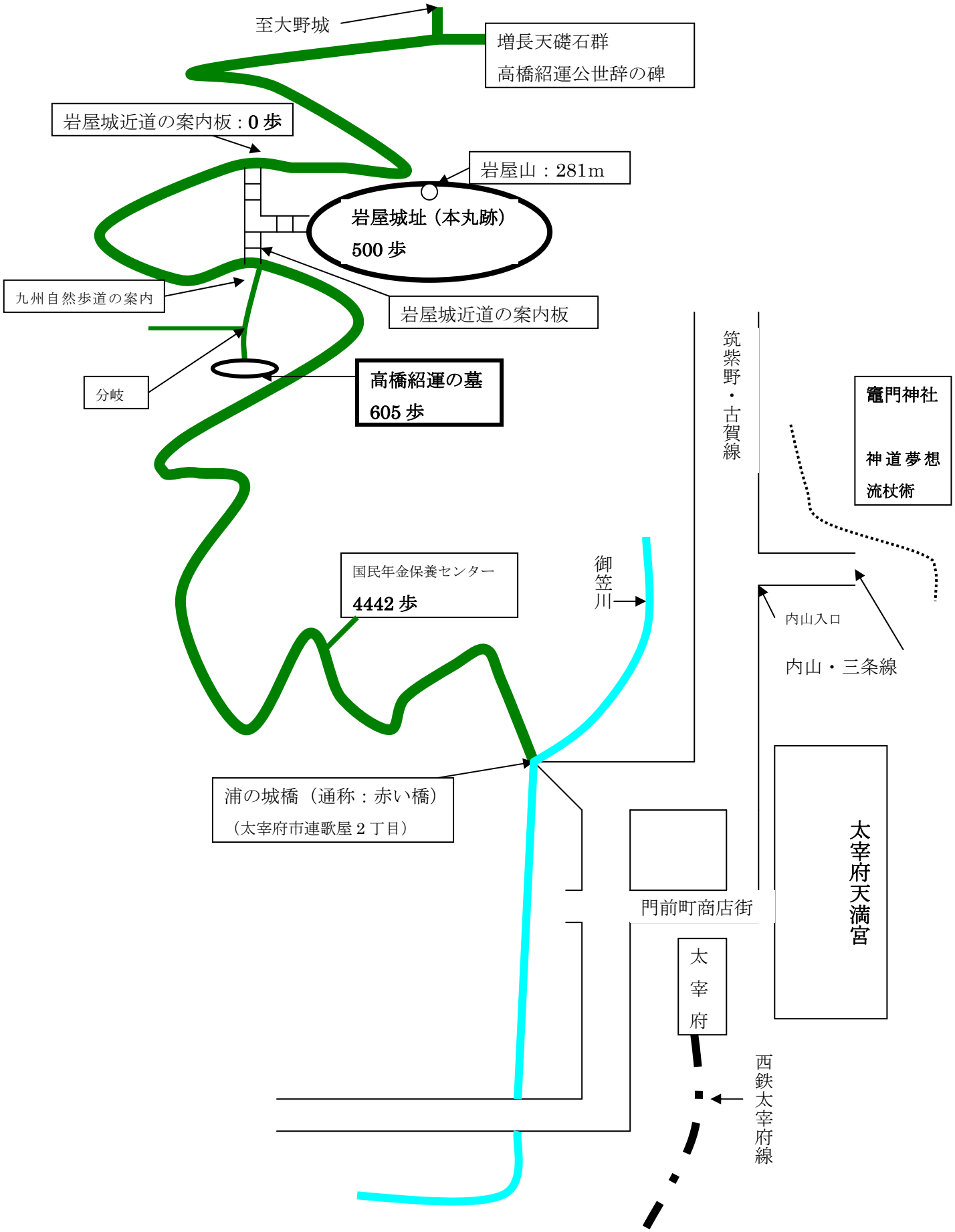
## 神道夢想流杖術

福岡藩に、藩外に伝えることを禁じた武術が夢想権之助を流祖とするのが神道夢想流杖術である。杖術は宮本武蔵と戦ったこともあり、「傷つけず、殺さず、相手を倒す技」という精神で 400 年余り続いているとのことである。発祥の碑は竈門（かまど）神社境内にある。第Ⅱ部の福岡藩士で福岡勤王の平野國臣はこの杖術の使い手ということであった。

また、竈門神社境内には古代寺院跡・竈門山寺があり、天台宗を開いた最澄が 803（延暦 22）年、唐に渡る時に航海安全祈願に薬師仏を奉納したとの伝承があるとのことである。

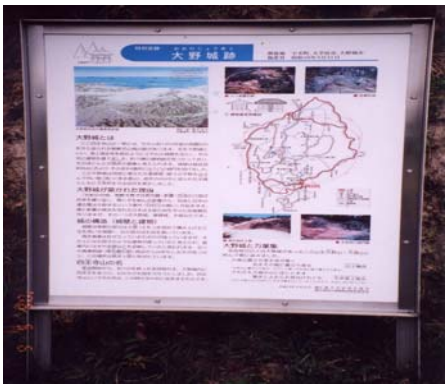
西日本新聞社編『博学博多　ふくおか深発見』西日本新聞社,2007 年 6 月.180～181 頁.
毎日新聞朝刊記事『古代寺院跡・竈門山寺　建物の規模を確認』,2009 年 2 月 6 日.

# 岩屋城址と高橋紹運の墓(太宰府)
# 神道夢想流杖術（竈門神社：大宰府）



高橋紹運辞世の碑

高橋紹運辞世の碑




大野城祉の説明板

大野城祉から九州国立博物館方面を遠望

岩屋城祉（本丸跡）

岩屋城祉（本丸跡）

岩屋城祉（本丸跡）がある岩屋山

岩屋城祉（本丸跡）がある岩屋山

岩屋城祉高橋紹運の墓

高橋紹運の墓と水城への分岐（九州自然歩道）

神道夢想流杖術（竈門神社内）

宝満山遺跡群：古代寺院跡・竈門山寺（竈門神社内東側駐車場）

（３）早良区山城等散策マップ記

## 菟道岳城址

東入部の隈本（熊本）に荒平城の出城として存在したとの記述がある。また、弘安の役当時見張り所を設けた跡との伝承もある。

ところで、菟道岳城址へのルートは現在の東入部にある高田食品工業（醤油）より東南へ入ってゆくが、その山への上り口付近には当時の入部地方を管領していた入部麿の墓や現在まで岩田屋百貨店の経営者であった中牟田家ルーツの墓などがこの地の歴史的史跡等が多く存在している


青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.531 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 230 頁,232 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．74 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月. 425～426 頁.


## 主基斎田の跡

1928（昭和 3）年 11 月昭和天皇即位の大礼がおこなわれるにあたり大嘗祭（だいじょうさい）の悠紀殿（ゆうきでん）および主基殿（すきでん）に神穀を献上する田の選定で、東から滋賀県（悠紀田）および西から福岡県（主基田）がそれぞれ選ばれた。主基斎田は早良郡脇山村の石津新一郎所有の 1 ヘクタールで、種籾（たねもみ）は横井時敬が開発し、西南農法の技術であった塩水選で選ばれたものであった。米 450 キログラムの収穫米は 1929（昭和 4）年 10 月 17 日に 12 個の白木の唐櫃（からびつ）に入れ、筑肥線西新駅から新造列車で京都に輸送されたとのことである。現在の早良区野田にある野田公民館の傍に「主基斎田勅使の碑」がある。


幡掛正木監修／伊東壽編纂『福岡縣神社廳誌』福岡縣神社廳,1955 年 5 月.67～69 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．103～115 頁.


## 飯盛城址（西区飯盛:飯盛神社上宮）

飯盛山の山頂に 1391 年（北朝では康安元年：南朝では正平 16 年）に北朝方の松浦党が籠城したが、南朝方の菊池肥後守武光に攻められ落城した。その後、高祖城（たかすじょう）の原田了榮の端城になるとの記述がある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.627 頁.
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 396～397 頁.
廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 28 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月. 208～211 頁,527～529 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.444 頁.

## 荒平城（安楽平城）址、荒平神社、小田部親子の墓、小田部鎮元自刃の碑、荒平武家屋敷址（早良区重留および早良区脇山など）

荒平城は大友 5 城[荒平城（早良区東入部）、鷲ケ岳城（那珂川町南面里）、岩屋城（太宰府）、立花城（新宮町立花口）および柑子岳城（草場城：西区今津）]の一つで小田部鎮元（おたべ　しずもと）の居城である。城は油山連山の一峰である荒平山（標高 394.9 メートル）の頂上に約 300 坪の本丸跡がある。平戸より松浦鎮隆が荒平城に入り、小田部姓を受け継いだとされている。この小田部民部少鎮隆の養子として鷲ケ岳城主大鶴宗雲の 2 男であった鎮元が荒平城主となった。

荒平城は肥前龍造寺隆信の 3 男である江上下総守家種を総大将に執行越前守、神代対馬守長良、曲淵河内守および山伏大教坊（中納言藤原兼光）などによって攻撃された。山伏大教坊は打ち負かしたが、立花城主立花道雪の援軍は間に合わず 1579（天正 7）年落城した。荒平城主の家臣やその末裔には、次郎丸の松尾大善（早良区次郎丸）、伊佐家（早良区小田部および高取（大西））および中牟田家（早良区東入部（熊本））などが有名である。

現在の早良区谷のバス停から荒平参道の道を城の原林道に進んでいくと林道の途中に「荒平神社」があり、そこに「小田部父子の墓」が 3 基ある。そこから上り坂を登りつめると「小田部鎮元の墓」と「小田部鎮元自刃之地」の碑がある。さらに、そこから夜叉谷経由で山頂の荒平城址に着く。

また荒平城には現在の早良区入部の早良更生園から 2 つのルート（早良更生園の西側と南側）があり、そのうちの 1 つである南側ルートは金屑川の源流につながっており、その奥には荒平武家屋敷址（荒平城下町）といわれている伝承の地がある。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.531～532 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.422 頁、627 頁.
奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.328 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.627～631 頁.
伊藤常足編録『太宰管内史　上巻　筑前之部』日本歴史地理学会,1908 年 9 月.174～176 頁.
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.前編 226 頁、後編 229 頁.
吉永正春『筑前戦国史』葦書房,1997 年 6 月.132～142 頁.
石津司『安楽平城物語　その６』38 頁.
廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.244～246 頁.
廣崎篤夫「ふくおか古城散策　第 19 回　荒平城（安楽平城）・鷲ケ岳城」『グラフ　ふくおか』2001 年 6・7 月.24～25 頁.
西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．28 頁、79～83 頁.

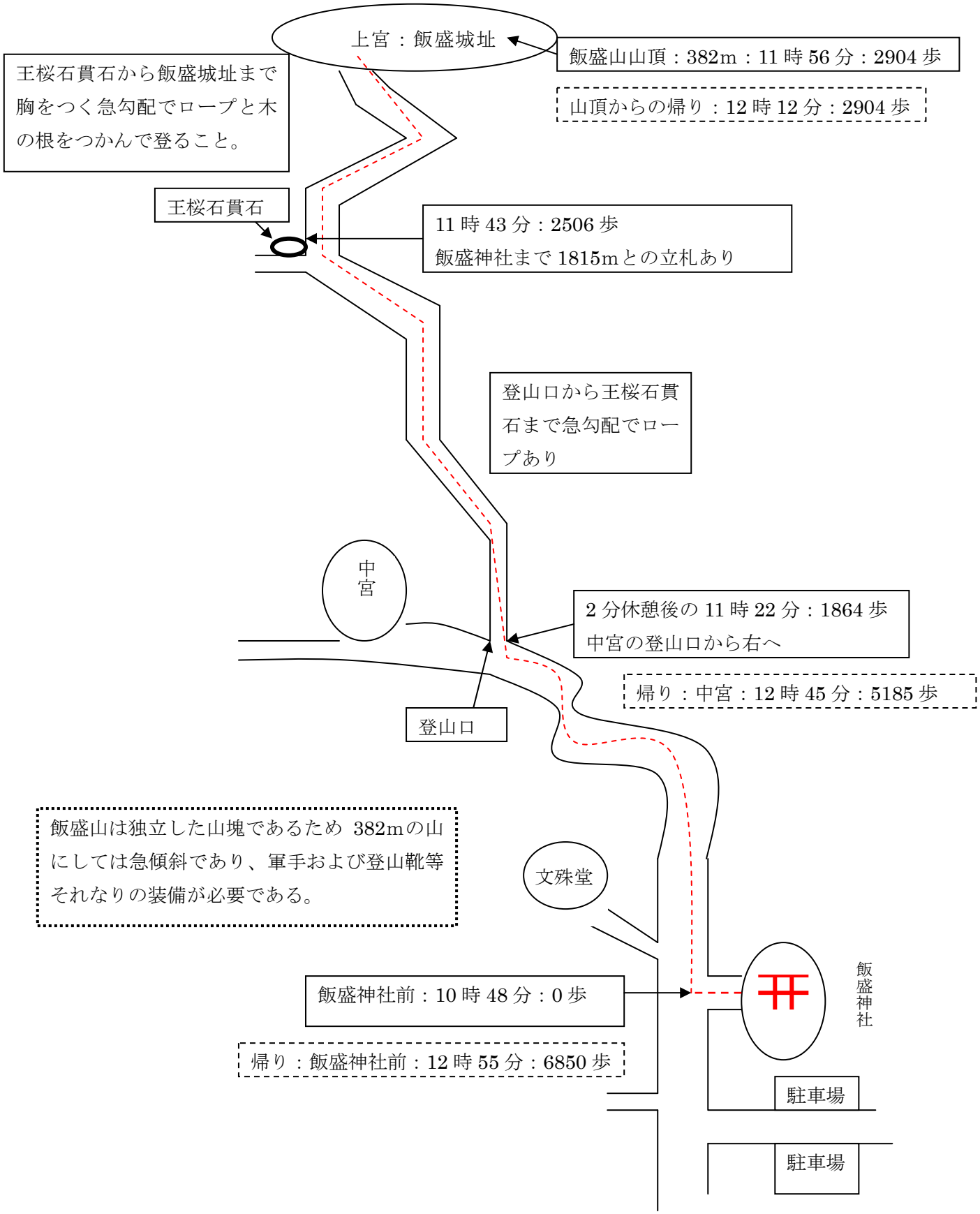
## 池田城址（早良区脇山）、山伏大教坊の墓（早良区脇山）

山伏大教坊（中納言藤原兼光）の居城の址で池田山（241 メートル）の山頂にあったとされる。池田城は池田大日堂の西南 3 町（約 327 メートル）付近との記述がなされている。

山伏大教坊の墓および坊屋敷は池田大日堂の右斜面および正面入口の右側にそれぞれある。

吉永正春『筑前戦国史』葦書房,1997 年 6 月.134 頁.
石津司『安楽平城物語　その３』43 頁.
西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．28 頁.

# 飯盛城址（福岡市西区飯盛）



田村大橋付近から飯盛山遠望

飯盛山山頂（飯盛城址）

飯盛山山頂（飯盛城址）

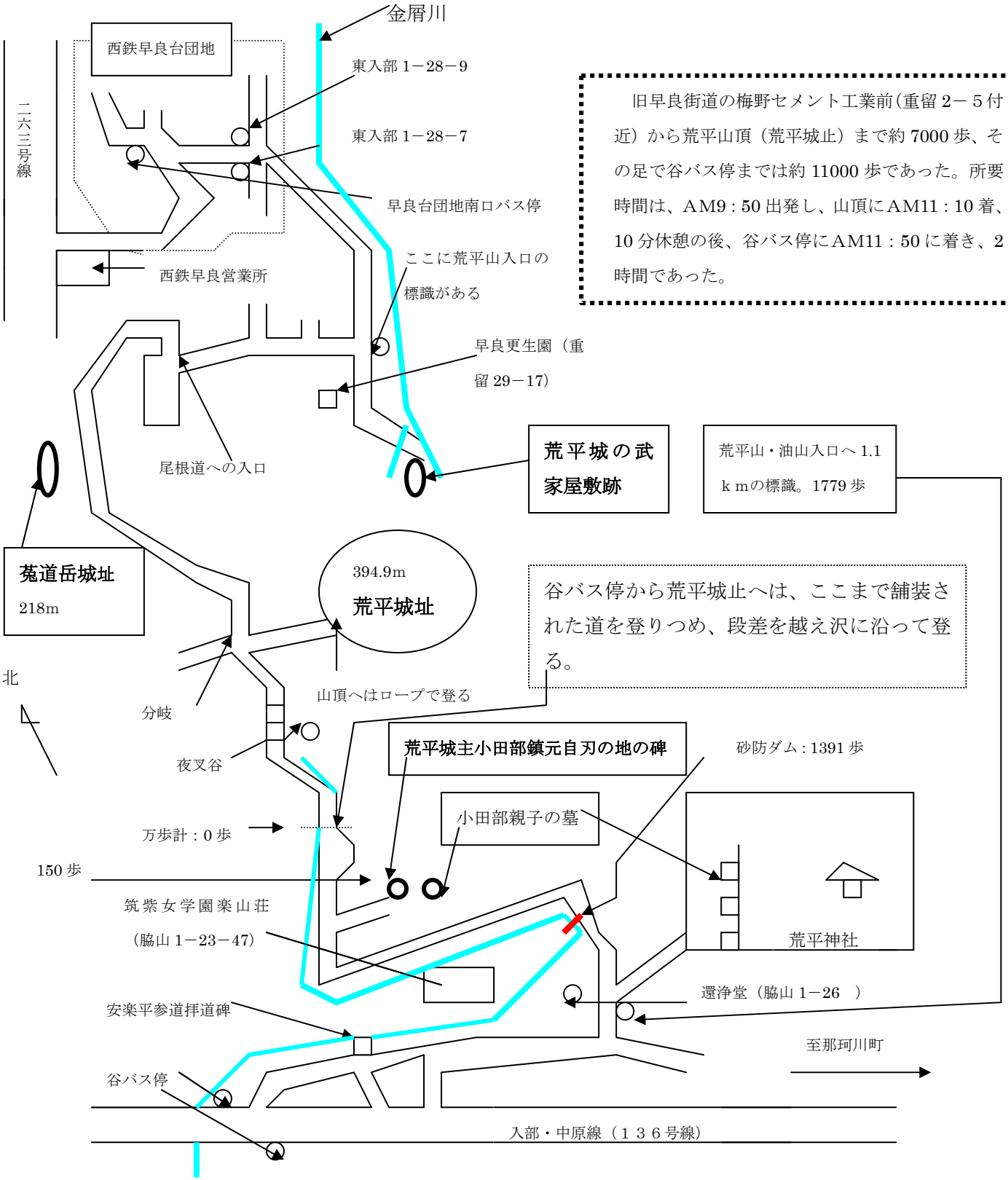
飯盛山上宮跡（山頂）

飯盛城址から荒平城址を遠望

飯盛城址より糸島方面を遠望

飯盛城址より福岡市を眺望

荒平[安楽平]城址（福岡市早良区重留の南にある荒平山の頂き）
菟道岳城址（福岡市早良区東入部の入部出張所の東にある山の頂き）
荒平城主小田部鎮元自刃の地の碑（荒平城址の南）
小田部親子の墓（自刃の地の西隣り：天子天ケ森）
小田部親子の墓（福岡市早良区脇山 1－26 の還浄堂の北東にある荒平神社内）




旧早良街道の梅野セメント工業前（重留 2－５付近）から荒平山頂（荒平城址）まで約 7000 歩、その足で谷バス停までは約 11000 歩であった。所要時間は、AM9：50 出発し、山頂にAM11：10 着、10 分休憩の後、谷バス停にAM11：50 に着き、2 時間であった。

谷バス停から荒平城址へは、ここまで舗装された道を登りつめ、段差を越え沢に沿って登る。

荒平城の武家屋敷跡

安楽平城址（本丸跡）

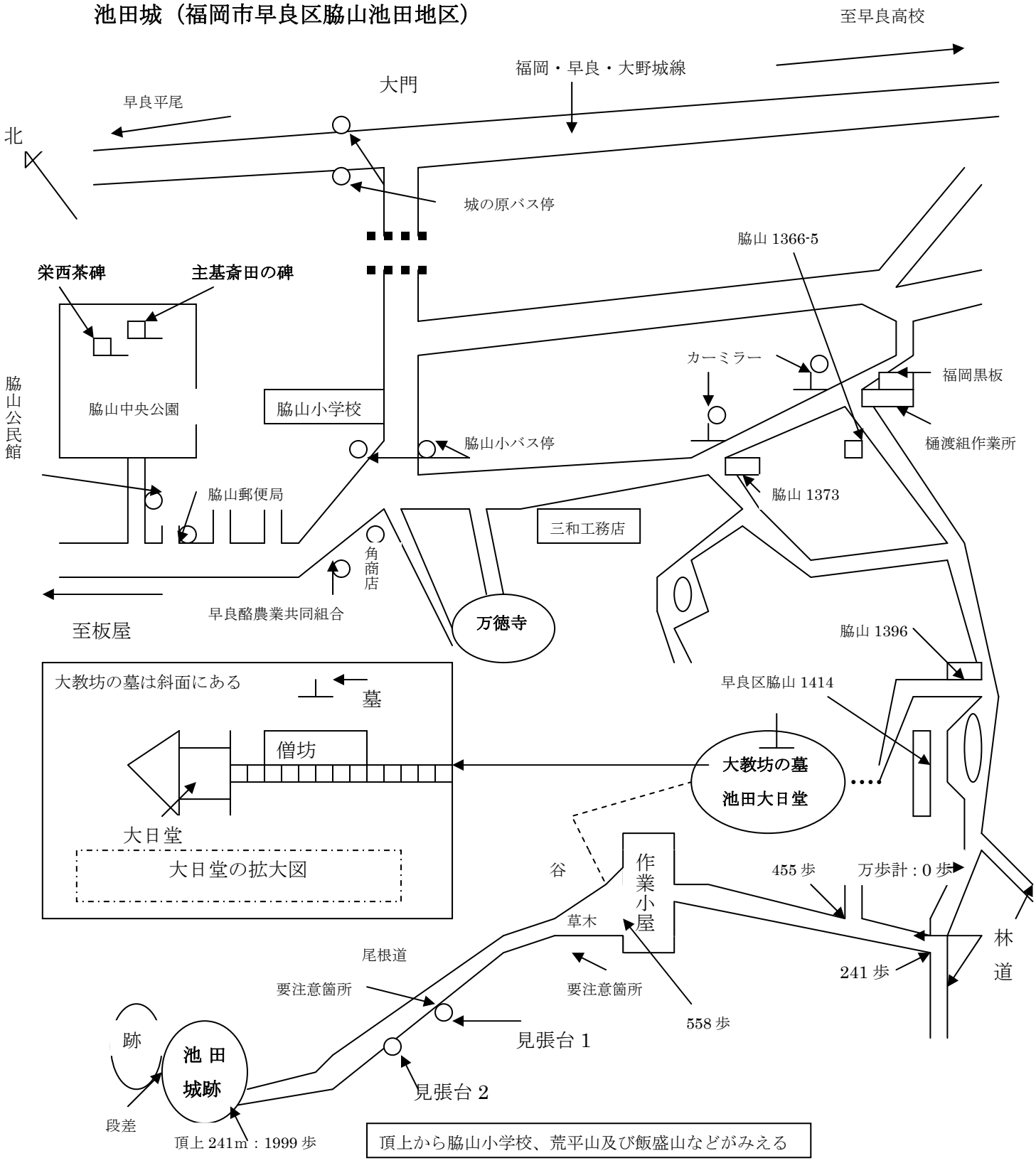
安楽平城址（本丸跡）

荒平城主自刃の地（登山口近く）

安楽平神社境内の小田部親子の墓

菟道岳城址からの景色

主基斎田の跡（福岡市早良区脇山中央公園内）
栄西茶碑（福岡市早良区脇山中央公園内）
万徳寺（福岡市早良区脇山 1818）
池田大日堂（福岡市早良区脇山 1414 付近）
大教坊の墓（福岡市早良区脇山 1414 付近）
池田城（福岡市早良区脇山池田地区）



主基斎田碑

栄西禅師の茶碑

池田大日堂

大教坊の墓（池田）

池田城の見張台跡

池田城址本丸からの遠望

## おわりに

筆者は『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』および『続　早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』を上梓したときにも述べましたが、伝承および文献などで得た情報をもとに本書で取り上げた史跡名勝を散策し、その確認のために人々への聞き取りをおこなうことをいたしますが、その史跡名勝を知る人々は時を重ねるごとに少なくなり、また知っている人々でさえ記憶も薄らいでいるように思われます。しかも、福岡都市圏では開発が進み史跡名勝そのものが無くなるケースや、別の場所へ移されているケースなどもあります。とくに、産業遺産的な遺構はその傾向が強いものとなっています。われわれは子供たちに「歴史を知ることにおいて、未来に繋げる」ことを、地域の皆様とともに教えていく必要があります。そのようなことから、本書が地域の人々の関心を得、地域社会にさまざまな形で寄与することを期待いたします。

[著者紹介]

内山　敏典（うちやま　としのり）

現在、九州産業大学経済学部教授、九州産業大学大学院経済・ビジネス研究科教授

専攻：統計学,計量経済学

担当科目：統計学,計量経済学およびゼミナール科目（学部）

数量経済分析,統計学研究,統計学セミナー,調査研究(消費需要),経済課題研究,経済学演習（大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程）

計量経済学特別研究,計量経済学論文演習（大学院経済・ビジネス研究科博士後期課程）

心理統計法（大学院国際文化研究科博士前期課程）

経済学修士

博士（農学）

主要著書

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』（共著）九州大学出版会,1989年.

『消費需要の計量的分析―食肉消費を事例として―』（単著）晃洋書房,1992 年.

『間接税改革の国際比較』（共著）九州大学出版会,1993 年.

『統計解析技法』（単著）晃洋書房,1993 年.

『消費構造の変容とその統計的分析』（単著）晃洋書房,1995 年.

『余暇関連財需要の計量的分析』（単著）晃洋書房,1998 年.

『増補　統計解析技法』（単著）晃洋書房,1998 年.

『計量分析のための統計解析技法』（単著）晃洋書房,2002 年.

『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』（単著）城島印刷,2003 年.

『看護統計テクニック―基本からパス分析まで―』（監修）医歯薬出版,2003 年.

『続　早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』（単著）城島印刷,2005 年.

『トピックス統計解析技法―電卓,Excel および VBA における計算法―』（単著）晃洋書房,2006 年.

『基本計量経済学』（共著）勁草書房,2006 年.

『経済・心理・医療・看護等の教育のためのベーシック統計解析技法―電卓,Excel および VBA における計算法―』（単著）晃洋書房,2008 年.

『有田・伊万里および福岡地域における消費者の意識調査分析―新しい陶磁器需要創造および生産構造をめざして―』（共著）九州産業大学柿右衛門様式陶芸研究センター,2009 年.

など、著書および専門論文・COE 論文多数。

福岡都市圏歴史散策マップ記

2009 年〇月〇日　　初版発行

著　者　　内山　敏典

発行　九州産業大学産学連携室

〒813-8503　福岡市東区松香台 2 丁目 3 番 1 号

℡　092（673）……

印刷・製本　　〇〇

〒

℡　092（673）……

非売品

© Toshinori Uchiyama